令和６年度

教　育　計　画

河内長野市立千代田中学校

―――――― 目　次 ――――――

		項　　目	ページ
		学校経営のグランドデザイン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
◇	1～5	教育目標、教育方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2～5
◇	6～8	在籍生徒、年間授業時数、日課表・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
◇	9～11	各学年時間割、年間のテスト計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
◇	12.	各月の定例行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
◇	13.	年間主要行事、年間予定表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9～12
◇	14.	校務分掌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13～15
◇	15.	各学年目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16～18
◇	16.	学習指導の重点、研修計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19～20
		各教科の年間授業計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21～33
◇		道徳教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34～39
◇		朝学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	40～42
◇	17.	総合的な学習の時間　全体計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	43～44
◇	18～19	図書館教育、環境整美・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	45～46
◇	20.	情報教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47
◇	21.	特別活動の重点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48
		部活動の規定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49～50
		生徒会年間計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51
◇	22.	生徒指導部、緊急生徒指導体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	52～53
◇	23.	人権教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	54～56
◇	24～25	支援教育・通級教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	57～58
◇	26.	進路指導の重点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	59
◇	27.	健康安全・防災教育年間計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	60～61
		食に関する指導の全体計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	62
◇	28.	主権者教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	63
◇	29.	キャリア教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	64
◇	30.	いじめ防止・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65～76
◇	31.	小中グランドデザイン・小中一貫教育・・・・・・・・・・・・・・・	77～78
◇	32.	救急体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	79～80
		自衛消防組織、防火管理区域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	81
		避難経路・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	82
	33.	不審者対応マニュアル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	83
◇	34.	情報管理について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	84
◇	35.	職員一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	85

河内長野市立千代田中学校 R6 グランドデザイン

めざす学校像

すべての人の命をとことん大切にする未来。
その未来をともに創る子どもたち。
その子どもたちの力を引き出す学校。

めざす子ども像・学校教育目標

1. 思いを語り合い、考え合い、学びを深め合う生徒の育成
2. 人の役に立つことにより、自分を更新できる生徒の育成
3. ちがいを活かし、ともに生きる未来を創る生徒の育成

重点課題

R4　学力向上「思考力」「家庭学習」

R5　①「学びに向かう力」を高める　・「考えたい」を引き出す授業
・スマホに打ち勝つ「家庭学習（KG）」
②自分の思いや意見を伝え合えるクラス・学年づくり

R6　①思いや意見を伝え合える居場所のある学級づくり
②「わからない」が言え、学びに向かえる学習集団づくり
③人の役に立っているという体験（自己有用感の向上）
④「考えたい！」「わかった！」と思える授業

学習指導

★学びに向かう力を高める（「考えたい」を引き出す授業）

★「わからない」が言える学習集団づくり

★毎時間「わかった！できた！」と思える瞬間のある授業

★ICT 機器の効果的活用（ロイロノートなどによる思考力向上・教材の視覚化）

■わかった！できた！頑張れた！と思えるテスト体験

■勉強の仕方、家庭学習の方法を子どもたちに！

■教材研究と指導方法の工夫改善により、つながり合い学び合う「協働的な学び」の実現

人権・道徳指導

★自分の思いや意見を伝え合える居場所のある学級づくり

■様々な社会的弱者への差別を知り、差別解消のための学びを深め、主体的に行動する人権教育の充実

■仲間を信じて語り合い、他の人の思いや意見について自分との違いを考え議論できる道徳や人権授業の展開

■命の尊さに気づき、互いの「違い」を認め合える豊かな人間関係づくりを構築するための集団づくりの推進

■いじめに向かわない子どもの育成のため、人権ベースの道徳教育・いじめを許さない集団づくりを進める

※当事者から学ぶ　※指導案・教材のプール

特別活動指導

★役に立っているという体験による自己有用感の向上

★自分の思いや意見を伝える居場所のある学級集団づくり

■学校生活（社会）で起こっている問題や困り感を自分たちで考え解決する生徒会活動（シチズンシップの育成）

■学級・学年・学校生活の中での生徒一人ひとりに役割を提供し、役割を果たすことで感謝され、感謝されることにより「役に立った」と思える取組みの推進

■地域社会における自分の役割を考え、地域における活動の体験（防災・あいさつ・地域清掃・バラエティフェスタなど）

支援教育

★フレックスにおいても、通常の学級においてもユニバーサルデザインの観点を取り入れたすべての生徒に「わかりやすい授業」（学習指導部と研修を）

■障がい理解とその支援方法を学び、共有し、障がいのある生徒が通常の学級でクラスの仲間とともに学びともに育つための支援教育（インクルーシブ教育の推進）

■フレックスにおける個別最適な学びと自立活動の充実

■通常の学級における個別最適な学びのための「困り感シート」の活用

■ソーシャルスキルの向上をめざした学習・生徒指導

■インクルーシブな社会の一員として、主体的に生きる力を育む。

■通級指導教室の指導の充実（困り感のある生徒の存在に気づき、状況を把握した指導）

生徒指導

★居場所のある学級集団（子どもと子どもをつなぐ）

・不登校生とクラスをつなぐ

・配慮の必要な子が排除されず、クラスに居場所があるように子ども同士をつなぐ

■不登校生を新たにつくらないための成長を促す指導
・自己有用感を高めることにより、自尊感情を高め、いじめ・問題行動・不登校に向かわせない。

■寄り添い、向き合う生徒指導
・ありのままの子どもの姿を受けいれる
・子どもの背景を知るために、家庭訪問や子どもの話、保護者の話を聴く。
・課題と向き合わせるために、スモールステップで根気よく支える。

■虐待・いじめ・不登校・問題行動への早期発見・早期のチーム対応・関係諸機関との連携。

キャリア教育・進路保障

★めざす大人像や夢のある生徒を育てるキャリア教育の充実

■自分の人生における役割をどう果たすかを主体的に考え、実践する力を育てる。
・職場体験も含めた、キャリア教育の充実
・社会において、様々な役割を果たしている人の生き様を聞いて学ぶ

■主体的に進路を選択し決定できる能力や態度を育成する。※高校などの進路の情報を１年生から知らせる

■進路選択にあたり、保護者との連携を密にし、ガイダンス機能

地域・保護者との連携と地域・保護者への発信

■学校運営協議会の充実

■学校だよりやホームページの充実

■子育ての「共育者」として、保護者と地域団体、地域の人々との連携を強化する。

令和６年度

千代田中学校の教育目標・教育方針

１．教育目標（めざす子ども像）

（１）思いを語り合い、考え合い、学びを深め合う生徒の育成

（２）人の役に立つことにより、自分を更新できる生徒の育成

（３）ちがいを活かし、ともに生きる未来を創る生徒の育成

２．めざす学校像

すべての人の命をとことん大切にする未来。

その未来をともに創る子どもたち。

その子どもたちの力を引き出す学校。

３．教育の重点

【令和6年度の重点目標】

①思いや意見を伝え合える居場所のある学級づくり

②「わからない」が言え、学びに向かえる学習集団づくり

③人の役に立っているという体験（自己有用感の向上）

④「考えたい！」「わかった！」と思える授業

（1） 学習指導

○すべての子どもたちがつながり合い学びあう授業の創造で、基礎・基本の定着と、自ら学び考える力の育成をめざす。

■ 学びに向かう力を高める

・「考えたい」を引き出す授業

・スマホに打ち勝つ「家庭学習」（家庭学習の充実）

■ 「わかった！できた！」感動のある授業から、「わかった！できた！！頑張れた！！！」と思えるテスト体験

■ ＩＣＴ機器の効果的活用（ロイロノートなどで思考力向上・教材の視覚化）

■ 教材研究と指導方法の工夫改善により、つながり合い学び合う「協働的な学び」の実現

（2） 生徒指導

○生徒や保護者との豊かな人間関係・信頼関係を基盤として、生徒一人ひとりの命をとことん大切にした生徒指導の充実に努める。

■ 成長を促す指導（生徒支援委員会からの発信）

・自己有用感を高めることにより、自尊感情を高め、いじめ・問題行動・不登校に向かわせない。

■ 寄り添い、向き合う生徒指導

・ありのままの子どもの姿を受けいれる

・子どもの背景を知るために、家庭訪問や子どもの話、保護者の話を聴く。

■ 虐待・いじめ・不登校・問題行動への早期発見・チーム対応・関係諸機関との連携。

■ 子どもと子どもをつなぐ集団づくり

・不登校生とクラスをつなぐ。

・配慮の必要な子が排除されず、クラスに居場所があるように子ども同士をつなぐ。

（３）　特別活動

○集団づくりを通じて、生徒どうしをつながり合わせることから、生徒一人ひとりが自己肯定感、自己有用感を持ち、自尊感情を高め、自分の命も他者の命もとことん大切にする学校の気風を醸成する。

- ■ 学校は子どもが生活するミニ社会と考え、自分たちの社会で起こっている問題を自分たちで考え解決する集団を育む。（シチズンシップ＝主権者の育成）
- ■ 学校生活の困り感を解消するために動く生徒会の指導
- ■ 学校という集団の中での生徒一人ひとりの役割を提供し、役割を果たすことで「おかげで」と感謝され、「役に立っ た」と思える取組みを進める。
- ■ 地域社会における自分の役割を考え、地域活動を体験する。（防災・挨拶・地域清掃）

（４）　人権教育、道徳教育、心の教育

○≪共に生きる≫を柱にした人権尊重の教育を推進する。

- ■ 自分の思いや意見を出せるクラスづくりの推進
- ■ 仲間を信じて語り合い、他の人の思いや意見について自分との違いを考え議論できる道徳や人権授業の展開。
- ■ いじめに向かわない子どもの育成のため、人権ベースの道徳教育・いじめを許さない集団づくりを進める。
- ■ 命の尊さに気づき、互いの「違い」を認め合える豊かな人間関係づくりを構築するための集団づくりの推進。
- ■ 様々な社会的弱者への差別を知り、差別解消のための学びを深め、主体的に行動する人権教育の充実。※当事者から学ぶ　　※指導案・教材のプール

（５）　キャリア教育・進路保障

○自分自身の生き方を見つめ直し、主体的に進路を選択し決定できる能力や態度を育成する。

- ■ 自分の人生における役割をどう果たすかを主体的に考え、実践する力を育てる。
  - ・職場体験の充実
  - ・社会において、様々な役割を果たしている人の生き様を聞いて学ぶ
- ■ 主体的に進路を選択し決定できる能力や態度を育成する
- ■ 進路選択にあたり、保護者との連携を密にし、ガイダンス機能の充実に努める

（６）　支援教育

○共に学び共に育つ支援教育の視点を基盤とし、障がいのある生徒一人ひとりに応じた教育を行い、社会の一員として主体的に生きる力を育む。

- ■ 発達障がいなど様々な障がいの理解とその支援方法を学び、障がいのある生徒が通常の学級でクラスの仲間とともに学びともに育つための支援教育＝インクルーシブ教育を進めつつ、フレックスにおける授業と自立活動を充実させる。
- ■ 個別最適な学びを保障するための「困り感シート」「つまづきシート」の活用
- ■ 通常の学級におけるユニバーサルデザインの観点を取り入れたわかる授業づくり
- ■ ソーシャルスキルの向上をめざした学習・生徒指導・ともに学びともに生きるインクルーシブ教育の観点を基盤とした社会の一員として、主体的に生きる力を育む。
- ■ 通級指導教室の指導の充実（困り感のある生徒の存在に気づき、状況を把握した指導）

（7）　社会に開かれた学校・教育コミュニティの構築

〇開かれた学校づくりを推進し、家庭や地域から信頼され、安心して通わせられる学校と評価される誇りある学校づくりをめざす。

■ 学校運営協議会の充実　・学校の課題共有と解決策の協議

・課題１：社会に開かれた学校・教育課程としてキャリア教育での地域人材活用

・課題２：地域まちづくりへの子どもたちの参画

■ 学校の情報発信　・信頼される学校だより・HPへの充実

■ 子育ての「共育者」として、保護者・健全育成会・青少年指導員・民生児童委員等、地域の人々との連携強化。

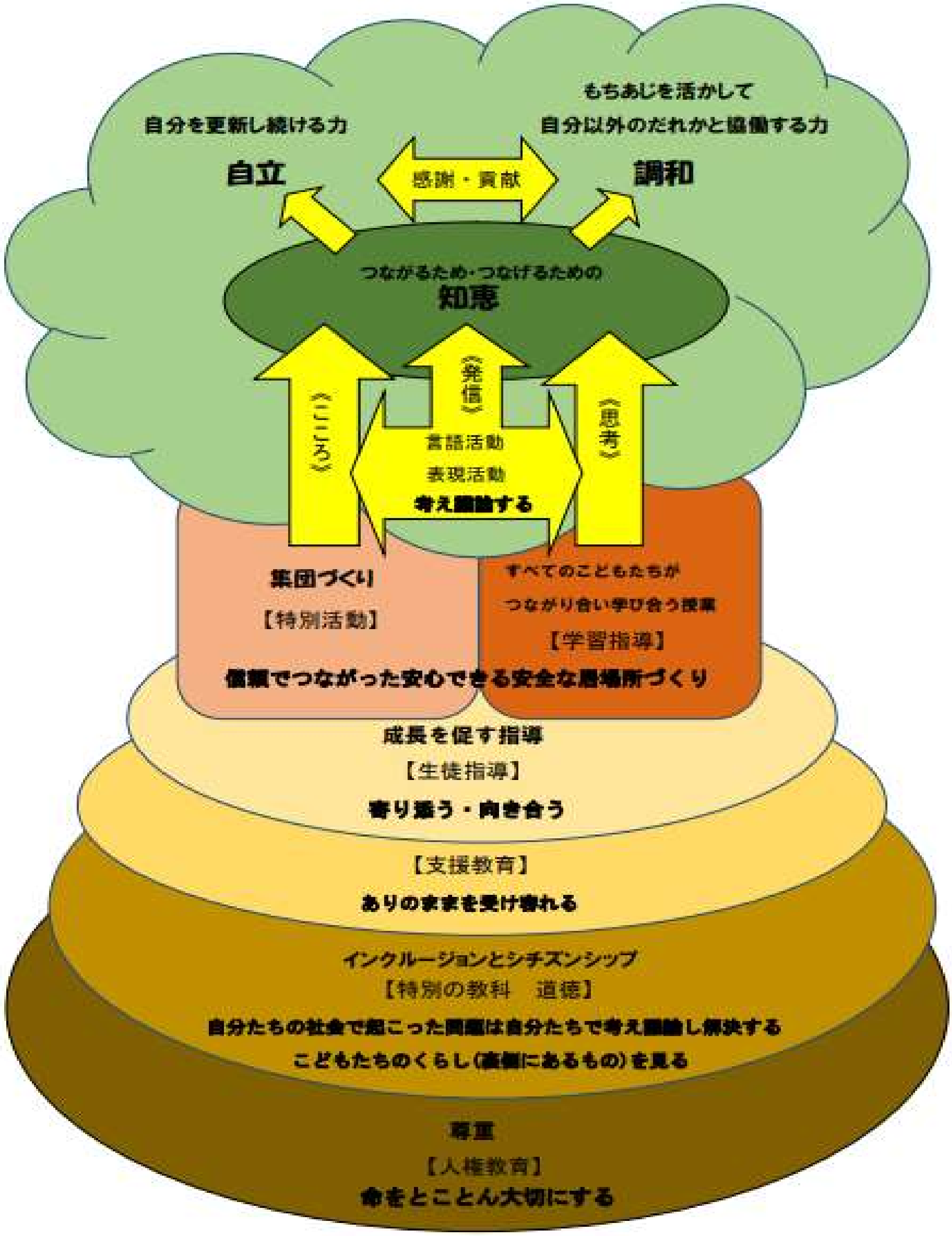
（8）　安全対策

〇自らの命を大切にするとともに、他者の命を大切にし、地域の安全を守る主体としての自覚を育てる。

■ 自他の生命を尊重するとともに、災害などから自らの生命を守り、安全を確保するために必要な能力や態度を育成する。
（危険の予測・的確な判断・回避のための行動）

■ 不測、緊急の事態の発生に備えた訓練等、校内安全対策を推進する。

千代中の木


もちあじを活かして
自分以外のだれかと協働する力
自分を更新し続ける力
自立
感謝・貢献
調和
つながるため・つなげるための
知恵
《こころ》
《発信》
《思考》
言語活動
表現活動
考え議論する
集団づくり
【特別活動】
すべてのこどもたちが
つながり合い学び合う授業
【学習指導】
信頼でつながった安心できる安全な居場所づくり
成長を促す指導
【生徒指導】
寄り添う・向き合う
【支援教育】
ありのままを受け容れる
インクルージョンとシチズンシップ
【特別の教科　道徳】
自分たちの社会で起こった問題は自分たちで考え議論し解決する
こどもたちのくらし（裏側にあるもの）を見る
尊重
【人権教育】
命をとことん大切にする

6. 在籍生徒数(令和6年5月1日現在)

学年＼組		1	2	3	4	5	合計
1年	男	21	21	21	21		**84**
	女	17	17	17	17		**68**
	計	**38**	**38**	**38**	**38**		**152**
2年	男	18	17	17	17		**69**
	女	22	22	23	22		**89**
	計	**40**	**39**	**40**	**39**		**158**
3年	男	22	22	22	22		**88**
	女	17	17	18	17		**69**
	計	**39**	**39**	**40**	**39**		**157**
合　計		男子　241		女子　226		計	467

7. 各教科の年間授業時数

学年＼教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語	道徳	特別活動	総合的な学習	合計
1　年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
2　年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
3　年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015

8. 日課表

	通常授業	5時間授業	短縮授業	短縮4時間授業
登　校	8:30	8:30	8:30	8:30
職員朝礼	8:20 ～ 8:30	8:20 ～ 8:30	8:20 ～ 8:30	8:20 ～ 8:30
朝学習/学活	8:30 ～ 8:50	8:30 ～ 8:50	8:30 ～ 8:50	8:30 ～ 8:50
第1校時	8:55 ～ 9:45	8:55 ～ 9:45	8:55 ～ 9:40	8:55 ～ 9:40
第2校時	9:55 ～ 10:45	9:55 ～ 10:45	9:50 ～ 10:35	9:50 ～ 10:35
第3校時	10:55 ～ 11:45	10:55 ～ 11:45	10:45 ～ 11:30	10:45 ～ 11:30
第4校時	11:55 ～ 12:45	11:55 ～ 12:45	11:40 ～ 12:25	11:40 ～ 12:25
昼食休憩	12:45 ～ 13:20	12:45 ～ 13:20	12:25 ～ 13:00	
第5校時	13:25 ～ 14:15	13:25 ～ 14:15	13:05 ～ 13:20	
第6校時	14:25 ～ 15:15		14:00 ～ 14:45	
学活	15:15 ～ 15:30	14:15 ～ 14:30	14:45 ～ 15:00	12:25 ～ 12:35
班別清掃	15:30 ～ 15:40		15:00 ～ 15:10	

下校時刻

	部活動終了時刻	最終下校時刻
2月～9月	17時15分	17時30分
10月～1月	16時45分	17時00分

※午前中で授業の終わる時
家庭訪問・懇談期間中 テスト最終日　等 部活終了：　16時45分 下校時刻：　17時00分

9. 道徳・学活・総合の時間、および学年集会の配置

	月	火	水	木	金
短学活		1年学年集会	3年学年集会	2年学年集会	
1 限					
2 限					
3 限					
4 限				2, 3年総合	
5 限				全学年総合	
6 限				全学年総合	全学年学活

10. 各学年の時間割

1－1

	月	火	水	木	金
1	国	理	国	社②	数
2	保体	国	数	保体	美
3	社①	数	社①	国	音
4	英	技	理	英	家
5	美/音	英	保体	補填	理
6	数	道	英	補填	学

1－2

	月	火	水	木	金
1	社①	国	理	家	理
2	保体	数	国	保体	国
3	国	技	音	英	美
4	数	英	英	数	社①
5	音/美	社②	保体	補填	英
6	理	道	数	補填	学

1－3

	月	火	水	木	金
1	数	社②	社①	数	英
2	英	美	英	家	音
3	保体	英	理	保体	社①
4	技	国	国	理	国
5	国	理	数	補填	数
6	美/音	道	保体	補填	学

1－4

	月	火	水	木	金
1	英	数	英	理	国
2	技	英	音	国	英
3	保体	美	数	保体	家
4	理	理	社①	社②	数
5	数	国	国	補填	社①
6	音/美	道	保体	補填	学

2－1

	月	火	水	木	金
1	英	理	英	社①	数
2	理	数	保体	国	技
3	社②	音	国	理	国
4	家	英	理	補填	保体
5	国	保体	社②	補填	英
6	数	道	美	補填	学

2－2

	月	火	水	木	金
1	数	国	国	理	技
2	社②	英	保体	社①	理
3	家	数	理	数	英
4	国	音	英	補填	保体
5	理	保体	美	補填	国
6	英	道	社②	補填	学

2－3

	月	火	水	木	金
1	理	家	美	国	英
2	音	社①	国	技	社②
3	数	国	保体	英	数
4	英	保体	数	補填	理
5	社②	理	英	補填	保体
6	国	道	理	補填	学

2－4

	月	火	水	木	金
1	国	社①	理	数	社②
2	英	家	数	英	国
3	音	理	保体	技	理
4	理	保体	美	補填	英
5	数	国	国	補填	保体
6	社②	道	英	補填	学

3－1

	月	火	水	木	金
1	美	英	数	数	英
2	理	理	国	社	保体
3	国	保体	理	音	数
4	英	国	社	補填	理
5	保体	数	技/家	補填	社
6	社	道	英	補填	学

3－2

	月	火	水	木	金
1	社	理	英	社	数
2	国	数	理	美	保体
3	理	保体	社	英	英
4	数	社	数	補填	国
5	保体	国	家/技	補填	理
6	英	道	音	補填	学

3－3

	月	火	水	木	金
1	英	社	国	英	社
2	美	保体	技/家	音	理
3	数	国	数	理	保体
4	理	数	英	補填	数
5	社	英	社	補填	国
6	保体	道	理	補填	学

3－4

	月	火	水	木	金
1	国	数	社	美	理
2	数	保体	家/技	数	社
3	英	社	英	国	保体
4	社	英	理	補填	英
5	理	理	音	補填	数
6	保体	道	国	補填	学

11. 年間テスト計画

	1、2年	3年
1学期中間テスト	5月23日・24日	
1学期期末テスト	6月26日・27日・28日	
2学期中間テスト	10月17日・18日	
2学期期末テスト	11月27日・28日・29日	
学年末テスト	2月26日・27日・28日	1月29日・30日・31日
第1回実力テスト	9月6日	
第2回実力テスト		10月11日
第3回実力テスト		11月15日
第4回実力テスト		1月9日・10日
チャレンジテスト	1月9日	9月3日

12. 各月の定例行事

⑴　定例会議（基本）

第１木曜日…指導部会
第２木曜日…職員会議
第３木曜日…学年会議

⑵ その他の会議

毎月開く会議…生徒支援委員会、支援教育会議

毎週開く会議…生徒指導関係連絡会（生徒指導主事・学年生指・不登校担当）：月曜１限

毎朝開く会議…運営委員会

適宜開く会議…学校運営協議会、学校保健委員会、進路対策会議、教科会議、
校内人権、学年人権

※ 運営委員会は、校長・教頭・首席・教務主任・生徒指導主事・学年主任・児童生徒支援加配・支援教育コーディネーターをもって組織し、学校における課題解決や活性化のための企画の提案・検討を行うために開催する。また、行事検討委員会を兼ねる。

※ 生徒支援委員会は、運営委員会・指導部長をもって組織し、職員会議への案件についての整理や相談、アドバイス、日程調整などを行う。

※進路対策会議は、校長・教頭・進路指導主事・生徒指導主事・教務主任・学年主任・３年担当職員をもって組織する。

※支援教育会議は、支援学級担任・通級担当をもって組織する。

※学校運営協議会は、学校運営協議会委員・校長・教頭・首席・教務主任・生徒指導主事をもって組織する。

※学校保健委員会は、学校医・学校歯科医・学校薬剤師・PTA代表・校長・教頭・保健主事・養護教諭・健康安全部をもって組織する。

※ 各学年・各教科・各部から提出された問題や研究事項について定例の会議で審議をつくすことができなかったとき、及び学年主任会・小委員会等で全体会議の必要と認めたとき、また各学年・各部からの要求があったときは、臨時に職員会議を開いて研修する。

※ 定例会議・研修会・研究会等が開かれるときは、原則として部活動は行わない。

⑶ 集会

全校集会・・・・・・月に1回（基本水曜日６限目に実施）
１年学年集会・・・・毎週火曜日（朝）
２年学年集会・・・・毎週木曜日（朝）
３年学年集会・・・・毎週水曜日（朝）

⑷ 千代田タイム

班長会議・カウンセリング等を目的とした時間を月２回程度確保する

13. 年間行事計画（1）（2024年5月1日時点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
儀式的行事	入学式 始業式 赴任式 離任式			終業式		始業式
学校行事	家庭訪問	授業参観			平和登校日	
1年学年行事			校外学習			
2年学年行事			宿泊学習			
3年学年行事			修学旅行			
フレックス（支援学級）				交流会（学級）		
テスト	3年全国学力学習状況調査	中間テスト	期末テスト			3年チャレンジテスト 実力テスト(全学年)
保健行事	身体測定 視力聴力 尿検査（1次） 尿検査（2次）	心臓検診（1次） 耳鼻科検診 内科検診 眼科検診	歯科検診 心臓検診（2次） プール水質検査			
人権教育部		校内人権	校内人権	校内人権	平和登校日	校内人権
学習指導部	「学習の手引き」作成			夏季小中合同研修		
生徒指導部	通学路の確認	いじめ・暴力など困ったら相談・集会 生活アンケート	カウンセリング	あいさつ運動 犯罪防止教室		あいさつ運動 生活アンケート
特活部	ｸﾗﾌﾞﾐｰﾃｨﾝｸﾞ 委員決め		応援リーダー決定 団の色決め	応援取り組み	応援取り組み	応援取り組み
健康安全		交通安全指導 避難訓練 救命救急講習		安全点検 学校保健委員会		
進路			進路対策会議 校内進路説明会			
教務	時間割作成	教育計画作成				諸帳簿点検
環境整備	清掃用具の点検 清掃分担決定		美化活動	油引き		
視聴覚	入学式放送機器の点検	購入計画作成		機器の点検		体育大会放送機器の点検
図書		貸し出し活動開始				
小学校関係	小中連絡会	小中連絡会	あいあい活動 （千代田駅前挨拶活動）	小中連絡会 小中合同研修会		小中連絡会
研修関係	市教研総会 市人権総会		人権教育講座	市人研1日研 フォーラム	夏季研修	
PTA 関係		学級委員選出 PTA総会		あいさつ活動		あいさつ活動

年間行事計画（２）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
儀式的行事	創立記念日 （10/1）		終業式	始業式		卒業式 修了式
学校行事	体育大会 千代田MF	土曜参観				
1年学年行事	MF発表		国際交流			球技大会
2年学年行事	MF発表	職業体験				球技大会
3年学年行事	MF発表					学年お別れ会
フレックス （支援学級）	なかよし遠足 なかよし運動会	なかよし卓球大会 小中交流会	交流会（市）	なかよし作品展		
テスト	3年実力テスト 中間テスト	3年実力テスト 期末テスト		3年実力テスト 1，2年 チャレンジテスト 3年学年末テスト	1，2年 学年末テスト	
保健行事	尿検査（1次）	尿検査（2次） 照度検査			空気検査	
人権教育部	校内人権	研　修 （支援学級予定者）	校内人権	校区人研	校内人権	
学習指導部		校内研究授業				
生徒指導部	生活アンケート	カウンセリング	半日体験入学	あいさつ運動	SNS講演会 生活アンケート	小学校訪問
特活部	千代田MF 後期生徒会選挙	委員決め	半日体験入学			お別れ会 前期生徒会選挙
健康安全	交通安全指導	学校保健委員会	安全点検	避難訓練		安全点検
進路	市合同説明会 進路対策会議	進路懇談	進路対策会議 進路懇談	進路相談 面接練習	進路会議 進路懇談	
教務			諸帳簿点検		年度末反省会議	年度末反省会議 諸帳簿点検
環境整備	美化活動 清掃用具点検	美化活動	油引き		美化活動	油引き 教室整備
視聴覚			機器の点検			卒業式放送機器の点検
図書			蔵書点検			図書の整理
小学校関係	あいあい活動 （千代田駅前挨拶活動）	小中連絡会 新入生保護者説明会	小学生 半日体験入学	制服採寸 校区人研	あいあい活動 （千代田駅前挨拶活動） 小中連絡会	物品販売 小中生指連絡会
研修関係		地区教研 市教研		校区人研		
PTA 関係	バラエティーフェスタ	美化キャンペーン 教育講演会		あいさつ活動		

年間予定表（４月～９月）

2024年　４月

日	曜	４月行事予定
1	月	
2	火	
3	水	
4	木	
5	金	入学式13:30～
6	土	
7	日	校庭開放
8	月	始業式・赴任式 8:00クラス掲示(2、3年) クラブキャプテン会議　会議日 クラブ顧問顔合わせ・クラブ紹介準備
9	火	生徒登校9:00 離任式 2、3年生昼連絡 2、3年生部活動更新届〆切 クラブ紹介(1年生)
10	水	体操服登校 身体測定・運動器測定・視力測定 検尿1次 クラブ仮入部①
11	木	昼連絡・昼5分短縮・一斉下校 クラス写真撮影(4限) 検尿1次 会議日 一斉退庁日
12	金	クラブ仮入部②
13	土	
14	日	
15	月	6限全校集会(キャリア教育)　クラブ仮入部③
16	火	クラブ仮入部④
17	水	千代田タイム
18	木	全国学力学習状況調査(3年生) 昼連絡・昼5分短縮・一斉下校 会議日 一斉退庁日
19	金	クラブミーティング
20	土	
21	日	
22	月	短縮4時間 家庭訪問1日目(緑)
23	火	短縮授業 生徒協議会(放課後)
24	水	短縮4時間・一斉下校 職員研修日 一斉退庁日
25	木	短縮4時間 家庭訪問2日目(千)
26	金	短縮4時間 家庭訪問3日目(緑) 全校集会
27	土	
28	日	
29	月	昭和の日
30	火	短縮4時間 家庭訪問4日目(千) 検尿2次

５月

日	曜	５月行事予定
1	水	短縮4時間 家庭訪問5日目
2	木	月曜時間割 心臓検診9:00～ 一斉退庁日
3	金	憲法記念日
4	土	みどりの日
5	日	こどもの日
6	月	振替休日
7	火	
8	水	授業参観(5、6限) 2年生宿泊学習説明会(14:30～) 学級委員選出懇談会 放課後グラウンド使用不可
9	木	短縮授業・一斉下校 スポーツテスト(全学年) 会議日 一斉退庁日
10	金	内科検診13:30～ 5限目以降ノーチャイム
11	土	
12	日	
13	月	スポーツテスト予備日 春の交通安全指導
14	火	耳鼻科検診13:30～ 春の交通安全指導
15	水	短縮授業 全校集会 生徒協議会(放課後) 春の交通安全指導
16	木	短縮授業・一斉下校 眼科検診13:30～ 会議日 一斉退庁日
17	金	短縮授業・一斉下校 授業参観(5、6限) 3年生修学旅行説明会(14:00～) PTA総会・学級委員総会
18	土	
19	日	校庭開放
20	月	避難訓練(地震)
21	火	昼連絡・昼5分短縮・一斉下校 検尿予備日 会議日 一斉退庁日
22	水	1年生夏用制服販売(水着販売) Jアラート11:00～
23	木	中間テスト1日目 朝連絡 職員研修日
24	金	中間テスト2日目
25	土	
26	日	
27	月	短縮授業・一斉下校 教育実習開始(国語、理科) (5/27～6/14) 職員プール清掃
28	火	千代田タイム 一斉退庁日
29	水	
30	木	2年生代休①
31	金	

６月

日	曜	６月行事予定
1	土	2年生宿泊学習
2	日	2年生宿泊学習
3	月	2年生代休②
4	火	心臓検診2次(終日)
5	水	短縮授業・一斉下校 会議日 一斉退庁日
6	木	1年生校外学習
7	金	歯科検診13:30～
8	土	小学校土曜参観
9	日	
10	月	カウンセリング期間(6/10～7/5) 小学校土曜参観代休
11	火	短縮授業 生徒協議会(放課後)
12	水	
13	木	修学旅行1日目(3年生) 千代田タイム 一斉退庁日
14	金	修学旅行2日目(3年生)
15	土	修学旅行3日目(3年生)
16	日	
17	月	修学旅行代休(3年生)
18	火	千代田タイム
19	水	短縮授業 3年生会議日
20	木	短縮授業・一斉下校 会議日 一斉退庁日
21	金	短縮授業 3年生進路説明会(14:00～)
22	土	
23	日	校庭開放
24	月	昼連絡・昼5分短縮・一斉下校 会議日 一斉退庁日
25	火	
26	水	期末テスト1日目 朝連絡 会議日
27	木	期末テスト2日目 朝連絡
28	金	期末テスト3日目 3限全校集会(色決め)
29	土	
30	日	

７月

日	曜	７月行事予定
1	月	制服、体操服選んで登校可能 (7/1～10/5)
2	火	千代田タイム
3	水	短縮授業 生徒協議会(放課後)
4	木	短縮授業・一斉下校 会議日 一斉退庁日
5	金	カウンセリング期間終了(～7/5)
6	土	
7	日	
8	月	
9	火	短縮授業・一斉下校 3年生総合学習(1～4限) 会議日
10	水	短縮授業・一斉下校 会議日
11	木	短縮4時間・一斉下校 会議日 一斉退庁日
12	金	短縮4時間 期末懇談1日目
13	土	
14	日	
15	月	海の日
16	火	短縮4時間 期末懇談2日目
17	水	短縮4時間 期末懇談3日目
18	木	短縮4時間 期末懇談4日目
19	金	終業式 結団式・大掃除 連合生徒会 会議日 一斉退庁日
20	土	
21	日	
22	月	
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	職員研修日
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	職員研修日

８月

日	曜	８月行事予定
1	木	
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	
6	火	平和登校日
7	水	職員研修日
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	山の日
12	月	振替休日 校庭開放
13	火	学校閉庁日
14	水	学校閉庁日
15	木	学校閉庁日
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	Jアラート11:00～
29	木	
30	金	
31	土	

９月

日	曜	９月行事予定
1	日	
2	月	始業式 教育実習開始(保健体育、養護教諭) (9/2～10/1) 会議日
3	火	3年生チャレンジテスト
4	水	
5	木	短縮授業・一斉下校 会議日 一斉退庁日
6	金	9月実力テスト 3限後終学活、昼食 生徒協議会(放課後)
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	千代田タイム
11	水	
12	木	短縮授業・一斉下校 会議日 一斉退庁日
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	敬老の日
17	火	
18	水	全校集会
19	木	短縮5時間・昼連絡・昼5分短縮　6限:校内研究授業 一斉下校 一斉退庁日
20	金	
21	土	
22	日	秋分の日
23	月	振替休日
24	火	
25	水	私立高校説明会(ラブリー)
26	木	昼連絡・昼5分短縮・一斉下校 会議日 一斉退庁日
27	金	短縮5時間 英検受験生以外は一斉下校 中学校英語検定
28	土	
29	日	
30	月	千代田タイム

年間予定表（10月～3月）

10月

日	曜	10月行事予定
1	火	短縮授業-体操服登校　創立記念日 体育大会予行（1－3限）　雨天時は授業 応援練習⑤（4限）
2	水	体育大会予行予備日
3	木	一斉退庁日
4	金	体育大会準備　会議日 応援練習⑥（3、4限） 体操服登校
5	土	体育大会　制服、体操服選んで登校終了（10/4まで） 雨天時は10/8の時間割
6	日	
7	月	
8	火	体育大会予備日　会議日 短縮授業・一斉下校 一斉退庁日
9	水	体育大会代休
10	木	
11	金	3年生10月実力テスト 3限後終学活、昼食 生徒協議会（放課後）
12	土	校祭り
13	日	校祭り
14	月	スポーツの日
15	火	全校集会
16	水	公立高校説明会（ラブリー）
17	木	中間テスト1日目 朝連絡 一斉退庁日
18	金	中間テスト2日目
19	土	
20	日	小学校運動会
21	月	短縮授業・一斉下校　会議日 小学校代休
22	火	後期生徒会役員選挙（6限） 3年生カウンセリング①
23	水	短縮4時間・一斉下校　職員研修日
24	木	昼連絡・昼5分短縮・一斉下校　会議日 一斉退庁日
25	金	3年生カウンセリング②
26	土	
27	日	
28	月	3年生カウンセリング③
29	火	千代田タイム　3年生カウンセリング④ 一斉退庁日
30	水	4限まで短縮、5、6限は通常　3年生会議日 3年生は短縮4時間
31	木	MF準備（放課後）

11月

日	曜	11月行事予定
1	金	短縮授業 千代田MF（5、6限）
2	土	
3	日	文化の日
4	月	振替休日
5	火	短縮授業　3年生カウンセリング⑤ 全校集会 生徒協議会（放課後）
6	水	短縮4時間・一斉下校　職員研修日 朝連絡
7	木	短縮授業・一斉下校　会議日 2年生芸術鑑賞（5、6限） 1－6限体育館使用不可　一斉退庁日
8	金	短縮授業　1･2年生カウンセリング① 3年生は短縮4時間 3年生進路懇談1日目
9	土	
10	日	
11	月	短縮授業　1･2年生カウンセリング② 3年生は短縮4時間 3年生進路懇談2日目
12	火	短縮授業　1･2年生カウンセリング③ 3年生は短縮4時間 3年生進路懇談3日目
13	水	短縮授業　1･2年生カウンセリング④
14	木	短縮授業　1･2年生カウンセリング⑤ 3年生は短縮4時間　職業体験1日目（2年生） 3年生進路懇談4日目
15	金	3年生11月実力テスト　一斉下校 職業体験2日目（2年生）　一斉退庁日 3限後終学活、昼食
16	土	土曜参観
17	日	校庭開放
18	月	土曜参観代休
19	火	千代田タイム 1･2年生カウンセリング⑥
20	水	Jアラート11：00～
21	木	短縮授業・一斉下校　会議日 一斉退庁日
22	金	
23	土	勤労感謝の日
24	日	
25	月	昼連絡・昼5分短縮・一斉下校　会議日 一斉退庁日
26	火	短縮授業
27	水	期末テスト1日目　会議日 朝連絡
28	木	期末テスト2日目 朝連絡
29	金	期末テスト3日目 全校集会
30	土	

12月

日	曜	12月行事予定
1	日	
2	月	制服、体操服選んで登校可能 （12/2ー1/31）
3	火	千代田タイム
4	水	
5	木	短縮授業・一斉下校　会議日 一斉退庁日
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	短縮授業 生徒協議会（放課後）
12	木	短縮授業・一斉下校　会議日 一斉退庁日
13	金	短縮授業・一斉下校　会議日
14	土	
15	日	
16	月	4限まで短縮、5、6限は通常　3年生会議日 3年生は短縮4時間
17	火	短縮授業　一斉退庁日 千代田タイム
18	水	短縮4時間 期末懇談1日目
19	木	短縮4時間 期末懇談2日目
20	金	短縮4時間 期末懇談3日目
21	土	
22	日	
23	月	短縮4時間　給食最終日 期末懇談4日目
24	火	終業式　職員打ち合わせ 一斉退庁日
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	冬季休業日
31	火	冬季休業日

1月

日	曜	1月行事予定
1	水	元日
2	木	冬季休業日
3	金	冬季休業日
4	土	
5	日	校庭開放
6	月	
7	火	会議日
8	水	始業式　会議日
9	木	1、2年生チャレンジテスト 3年生実力テスト（2教科） 3年生朝連絡
10	金	3年生実力テスト（3教科）　一斉退庁日 3年生朝連絡 3限後昼食
11	土	新入生制服採寸（体育館）10：00～12：00
12	日	
13	月	成人の日
14	火	短縮授業・一斉下校　会議日
15	水	地区なかよし作品展（17日まで）
16	木	
17	金	短縮授業・一斉下校　会議日 一斉退庁日
18	土	
19	日	
20	月	短縮授業 生徒協議会（放課後）
21	火	
22	水	昼連絡・昼5分短縮・一斉下校　会議日 一斉退庁日
23	木	短縮授業 千代田タイム
24	金	短縮4時間・一斉下校　職員研修日
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	3年生学年末テスト1日目
30	木	3年生学年末テスト2日目　一斉退庁日
31	金	3年生学年末テスト3日目　制服、体操服選んで登校終了（1/31まで）

2月

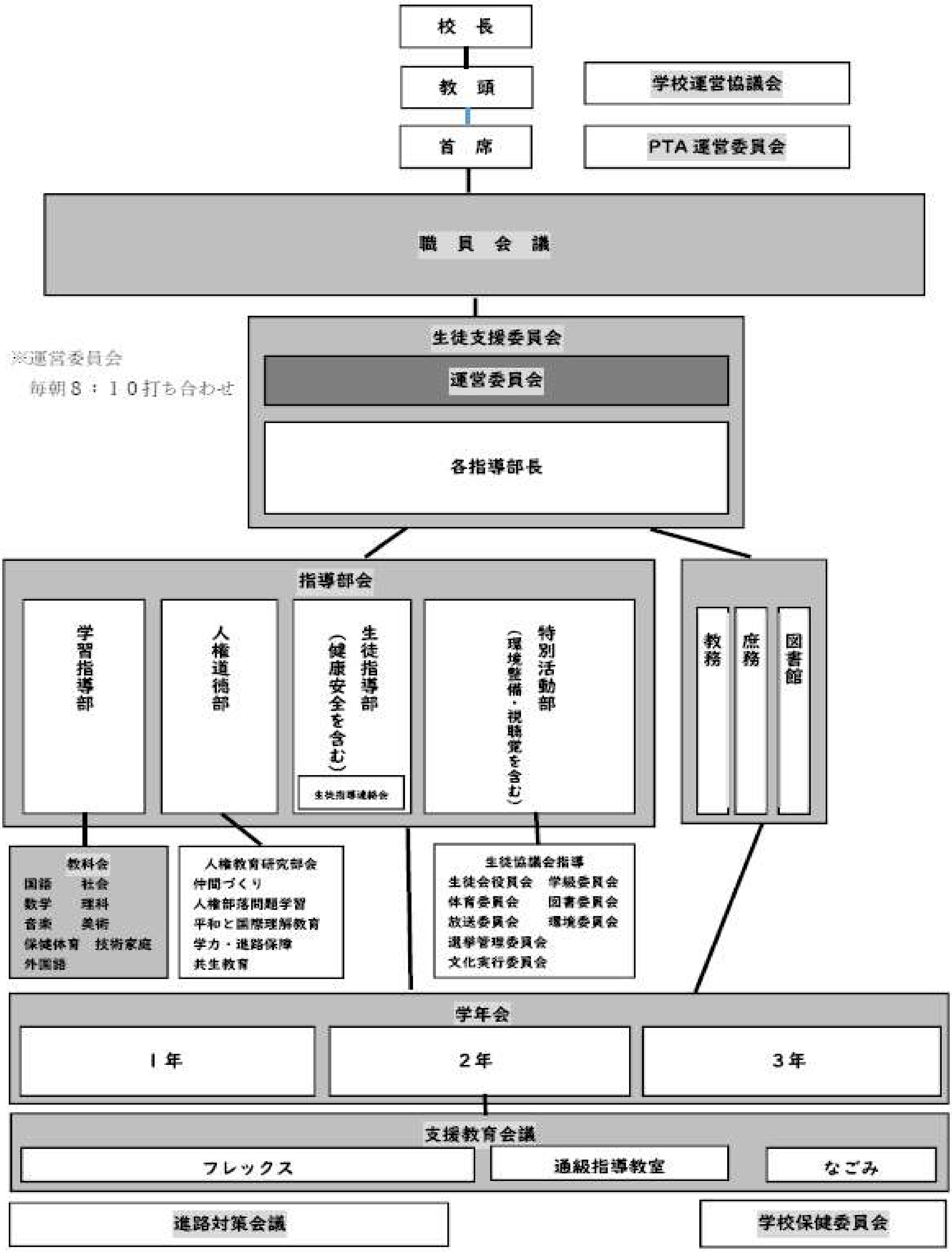
日	曜	2月行事予定
1	土	キッズアート展
2	日	キッズアート展
3	月	
4	火	千代田タイム 公立特別選抜（音楽科）出願日
5	水	
6	木	短縮授業・一斉下校　指導部会 全校集会 一斉退庁日
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	大阪私学入試
11	火	建国記念の日
12	水	Jアラート11：00～
13	木	短縮授業・一斉下校　会議日 一斉退庁日
14	金	短縮授業 生徒協議会（放課後）※3年生除く 公立特別選抜出願日
15	土	公立特別選抜（音楽科）技能・面接検査
16	日	
17	月	短縮授業・一斉下校　会議日
18	火	昼連絡・昼5分短縮・一斉下校　会議日
19	水	短縮授業
20	木	4限まで短縮、5、6限は通常　3年生会議日 3年生は短縮4時間 公立特別選抜入試（学力検査）　一斉退庁日
21	金	短縮授業・一斉下校　会議日 公立特別選抜入試（実技・面接）
22	土	
23	日	天皇誕生日　校庭開放
24	月	振替休日
25	火	一斉退庁日
26	水	1･2年生学年末テスト1日目 3年生進路懇談1日目 朝連絡
27	木	1･2年生学年末テスト2日目 3年生進路懇談2日目 朝連絡
28	金	1･2年生学年末テスト3日目 3年生進路懇談3日目 朝連絡

3月

日	曜	3月行事予定
1	土	新入生物品販売（体育館）10：00～12：30
2	日	
3	月	4限まで短縮、5、6限は通常 3年生進路懇談4日目 公立特別選抜合格者発表
4	火	
5	水	公立一般選抜出願受付開始日
6	木	短縮授業・一斉下校　会議日 公立一般選抜出願日 一斉退庁日
7	金	公立一般選抜出願受付最終日
8	土	
9	日	
10	月	全校集会【3年生を送る会】（6限）
11	火	短縮授業・一斉下校　会議日 一斉退庁日
12	水	短縮授業・一斉下校　会議日 公立一般入学者選抜
13	木	短縮4時間・一斉下校 卒業式準備
14	金	卒業式
15	土	
16	日	
17	月	短縮授業 生徒協議会（放課後）
18	火	後期生徒会役員選挙（6限）　小学校卒業式
19	水	短縮4時間・一斉下校　会議日 一斉退庁日
20	木	春分の日
21	金	短縮4時間・一斉下校　会議日 公立一般選抜合格者発表
22	土	
23	日	
24	月	修了式　会議日 一斉退庁日
25	火	公立二次入学者選抜出願日
26	水	公立二次入学者選抜実施
27	木	公立入学者選抜合格者発表
28	金	
29	土	
30	日	校庭開放
31	月	

14. 校務分掌

千代田中学校校務分掌図



令和6年度　校務分掌　指導部構成

指導部メンバー

	1年	2年	3年
人権道徳教育部　部長 ： 大多	小林・山下沙	中山・岡	川野香・川中
		柏原	小椋
特別活動部　部長 ： 西村	阪本・石田直 森・長田	前川・江城 石田雅	泉本・塚本 山本
学習指導部　部長 ： 松岡	堂前・石黒 曽和	河村・二川	中村誠・御園生 浦川
生徒指導部　部長 ： 益本	川野仁・竹﨑	中村高・石坂	和田・北川

◇人権道徳部【大多】

市人研分科会	1年	2年	3年
集団づくり	大多・石田直・森	前川・江城	益本・山本・小椋
人権学習・部落問題学習	山下沙・竹﨑	河村・松岡	川野香・北川
平和と国際理解・多文化共生	小林・川野仁	中山・石坂・西村	御園生・浦川・川中
進路保障・学力保障	曽和・堂前	岡・中村高	和田・中村誠
共生教育	石黒・阪本・長田・土井	柏原・石田雅・二川	塚本・泉本

☝学年所属のない先生は学年親睦会の所属で表記

◇特別活動部【西村】

生徒会担当	
生徒会	西村・阪本・泉本
選　管	泉本
集　会	西村・阪本・泉本
部活動	前川・長田・石田直

特活部専門委員会担当	1　年	2　年	3　年
学級委員会	堂前・竹﨑	前川・松岡	御園生
環境委員会	曽和・大多	石坂・河村	山本・和田
体育委員会	石田直・長田	中村高・二川	泉本・川野香
図書委員会	阪本・山本	石田雅・中山	浦川・中村誠
放送委員会	森・石黒	柏原	川中・北川
文化実行委員会	山下沙・川野仁	江城・岡	塚本・小椋

◇学習指導部【松岡】

	1年	2年	3年
成績処理	石黒	二川	中村誠
学力向上	曽和	松岡	御園生
ICT	堂前	河村	浦川

◇生徒指導部【益本】

		1年	2年	3年	養護教諭
生活指導係	益本	川野仁・竹﨑	中村高・石坂	北川・和田	河口・平阪
生徒相談係	土井				

教科研究組織と教科主任

教　科	教科主任	教 科 担 当 者	計　37
国　語	前川	大多・小椋・中村誠・柏原	5
社　会	御園生	山下沙・川野仁・阪本・小林	5
数　学	岡	二川、堂前、北川、森	5
理　科	河村	石黒・石坂・竹﨑	4
英　語	松岡	石田・浦川・川野香・西村・曽和・川中	7
音　楽	塚本		1
美　術	江城		1
保健体育	中村高	泉本・長田・益本・土井・石田直・中山	7
技術・家庭	山本	和田	2

その他担当者

道徳教育推進委員	大多
フォーラムプロジェクトチーム	山本
英語活動推進担当	松岡
「ICT活用」推進担当者	堂前
学力向上推進委担当	松岡
市人研事務局員	川野香
市人研運営委員	中山
支援教育コーディネーター	土井
小中一貫教育コーディネーター	二川
スクールカウンセラー	木下
司書教諭	中村誠
言語力向上司書職員	額田
生徒支援員	荒川
英語指導支援員	ネルソン・フィリップ・アンドリュー
発達支援員	金子・太田・堂上
学校管理員	清田・大濱・西

15. 各学年目標

○第１学年　　目標

１　中学校生活の規律とリズムを身につけさせ、３年間の学校生活の基礎をつくる。

２　基礎学力の定着をはかり、学習につまずきがちな生徒の指導法を工夫するとともに、学習習慣を身につけさせる。

３　共に考え、協力し、助け合える学級集団・学年集団をつくる。

月	ねらい	
4	・学級づくり ・生徒理解を深める	学校生活のきまりを確認し、早く学校生活に慣れさせる 家庭訪問の実施 部活動への参加
5	・仲間づくり ・学級づくり ・学習態度の確立	班づくりをとおし、仲間とのふれあいを深める 学級目標、係活動の意義を深める 学習活動の重要性を理解させ、主体的な学習態度を身につけさせる
6	・校外学習	校外学習への取り組みと反省
7	・１学期の反省 ・夏休みの計画	１学期の学級経営の反省 家庭との連携（個人懇談会） 有意義な夏休みの過ごし方
8	・研修 ・部活指導	学習指導及び生徒指導向上のための研修・自己研鑽 生徒指導
9	・生活の規律 ・集団行動、学級の和	夏休みの反省と２学期の計画 体育大会に参加（協調性・自主性）
10	・文化活動を高める ・生徒会活動	ＭＦに参加（創造力・責任感） 生徒会活動に参加（役員選挙）
11	・学習へのより積極的な取り組み	学習態度について考えさせる
12	・２学期の反省 ・冬休みの計画	２学期の学級経営の反省 家庭との連携（個人懇談会） 有意義な冬休みの過ごし方
1	・新年の抱負と計画	個人目標の確立、学級目標・学級活動の点検 学級経営の充実
2	・自己の分析と進路	自分の性格、長所短所を知り、進路について考えさせる
3	・１年間のまとめ ・２年生への展望	１年間の学級経営の反省 ２年生への心構えを持たせる

○第２学年　　目標

１　たがいに理解し合って認めあい、ともに考えて行動し、協力し、助け合える学年集団を育成する。

２　自主自律をめざし、積極的に正しいことを実践できる生徒を育成する。

３　ひとりひとりの生徒が主体的に学習に取り組める授業を創造する。

月	ねらい	
４	・学級集団づくり ・学習目標の確立	学級目標と組織づくり、係活動の意義を深める 学習環境の整備 学習計画
５	・学習態度の確立 ・集団の活性化	授業の工夫と積極的な学習への取り組み 行事への取り組み
６	・係活動の充実	係活動の点検、見直し 宿泊学習（湖上体験）
７	・１学期の反省 ・夏休みの生活設計	１学期の学校生活の反省 学級経営の見直し 有意義な時間のすごしかた 家庭との連携
８	・研修 ・部活指導	学習指導及び生徒指導向上のための研修・自己研鑽 生徒指導
９	・夏休みの成果 ・集団行動の充実 ・学級の和	夏休みの反省、２学期の計画 体育大会への参加（協調性・自主性）
10	・学習へのより積極的な取り組み ・生徒会活動の充実	授業の充実 積極的な学習活動の展開 生徒会活動への参加（役員選挙）
11	・係活動の推進 ・職場体験学習	学級活動の意義を深める 職場体験学習（事前事後学習含む）
12	・２学期の反省 ・冬休みの生活設計	２学期の学校生活の反省 学級経営の反省 充実した休業中の生活設計
１	・新年の抱負と計画	学級目標・学級活動の点検　修学旅行にむけて学習 学級経営の充実
２	・体験学習による生きる力の育成 ・自己の分析	日常の人間関係を見直す 進路についての認識を深める
３	・１年間のまとめ ・３年生への展望	１年間の学校生活の反省 １年間の学級経営の反省と評価 修学旅行に向けての学習と取り組み

○第３学年　　目標

１　最高学年としての自覚をもたせ、規律ある生活態度と基礎学力の定着をめざす。

２　生徒集団の質を高め、生き生きとした学校生活を体験させるとともに進路保障を行う。

月	ねらい	
4	・学級の組織づくり	学校生活のきまりのたしかめ
5	・仲間づくり	学校・学級の組織づくり、仲間づくり 係活動の意義と積極的な参加 修学旅行への取り組み
6	・学習態度の育成 ・修学旅行 ・進路の選び方１	助け合い学習、学習の計画づくり 修学旅行への取り組み 進路の選び方、学習と健康
7	・１学期の反省 ・夏休みの生活設計	１学期の確かめと学級経営の反省 健全な余暇活動、家庭との連携
8	・研修 ・部活指導	学習指導及び生徒指導向上のための研修・自己研鑽 生徒指導
9	・生活の規律 ・集団行動、学級の和	夏休みの反省と２学期の計画 体育大会への参加
10	・進路の選び方２ ・生徒会活動	進路情報と進路相談 進路の選び方
11	・係活動の推進	奉仕する態度
12	・２学期の反省 ・冬休みの生活設計	２学期の生活の反省と学級経営の反省 健全な余暇活動、休暇中の生活指導
1	・新年の抱負と計画 ・進路指導	学級目標・学級活動の点検，学級経営の充実 進路を考える
2	・進路指導	進路を考える
3	・卒業にあたって	卒業までの学校生活 学校生活の反省と評価

16.　学習指導の重点

目　標

> 1. 自ら学ぶ力を身につけさせるため、多方面から学習活動を援助する。
> 2. 生徒一人ひとりの成長のため、きめこまかな指導と指導力の向上をめざす。

○教科学習･学力保障

A. 研究方針

1. 教科の特性に応じ、教材の精選と構造化をはかる。
2. 学習に遅れがちな生徒の早期発見と、その指導を基本にすえた学習活動を展開する。
3. 学級集団の質を高め、主体的に参加し、相互に伸び合える学習活動を展開する。
4. ＵＤ及び支援教育の観点から、わかりやすい授業づくりに関する研究を継続していく。
5. より適切な評価についての研究を進める。
6. 学力保障という観点を持ち、学習習慣を定着させる。

B. 方針への取り組み

1. 目標の明確化につとめ、タブレットなどのＩＣＴ機器を活用し、効率の高い指導をおしすすめる。
2. 基礎学力の定着をはかるための指導法や指導の機会・場の工夫をおこなう。
3. 指導形態の工夫により、生徒が自主的・意欲的に取り組む学習活動の研究を進める。
   (T･T, 少人数授業, 習熟度別授業など)
4. 学習習慣を身に着けるために１５分間の朝学習を行い、各教科の基礎・基本の定着を進める。

C. 研究の進め方

1. 研究授業等を通じて授業力向上に努め、教科内での目標の達成をはかる。
2. 教科会を活発に開き、教科内で生徒の実態に即した互いの実践を交流し合う。
3. 相互の共通理解を深め、足なみをそろえて指導にあたる。

○研修計画

研究テーマ「すべての子どもたちがつながり合い学び合う授業」
～「基礎基本の定着と、自ら学び考える力の育成～

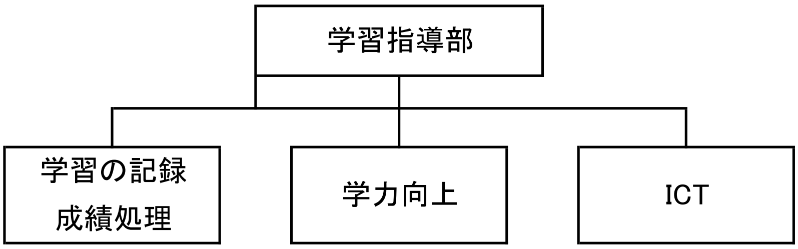
A. 研究方針

- 授業の中で、言語活動の機会を取り入れ、生徒の学習意欲の向上をめざす。
- 学力保障に向けた具体的取り組みの研究と評価方法についての研究を進める。
- 新学習指導要領及び本校の課題を全教職員が共通認識のもと、一致協力して取り組めるような研修および研究を実施する。その際、タブレット端末を利用し、個別最適な学び、協働的な学びの推進を図る。
- 授業規律の確立と家庭学習習慣の定着をめざす取り組みを行う。

B. 具体的な取り組み

- 教　科　興味関心を引く授業、生徒それぞれの個性や到達度に応じた指導方法、学習集団づくりを意識した授業を研究する。タブレット端末を利用し、個別最適な学び、協働的な学びを進める。
- 総　合　より豊かな学習活動が展開できるように、活動内容の単元化をはかり、実践研究する。

C. 組織



D. 年間計画

月	研修･研究の内容	学力向上
4	研究方針立案 研究計画の確認 　各教科の研究課題の設定と確認	活動方針検討 授業における共通認識の作成 学習規律に関する啓発活動
5	校内研修(評価の手引き、ヒヤリハット)	放課後学習会開始
6	各教科の評価の基準設定と確認	
7	夏季研修会企画立案	
8	夏季校内研修会 　・テーマ別課題研究討議	小中連携校区研修会
9	研究授業	
10		市教研（教科） 地区教研（教科） 校内全体研究授業（国･社･数･理･英･音･支援）
11		
12		
1	次年度への反省・課題の検討	各種アンケート分析
2		年度末反省
3	一年間の活動の反省と次年度への課題確認	

国語

【目　標】

国語への興味を持たせ、みんなが参加できる授業の研究。
（書く力の育成）

【計　画】

１学期　教材の精選と研究。
２学期　教材研究・指導法の交流。
３学期　まとめと反省。

国語年間計画

１　年			２　年			３　年		
月	単元　指導内容	時数	月	単元　指導内容	時数	月	単元　指導内容	時数
4	野原はうたう 朝のリレー シンシュン	9	4	見えないだけ アイスプラネット	9	4	世界はうつくしいと 握手	10
5	漢字の組み立てと部首 ダイコンは大きな根？	12	5	枕草子 熟語の構成 敬語	12	5	学びて時に之を習ふ	9
6	ちょっと立ち止まって 詩の世界 比喩で広がる言葉の世界	18	6	クマゼミ増加の原因を探る 「自分で考える時間」をもとう	18	6	作られた「物語」を超えて 俳句の可能性	12
7	大人になれなかった弟たちに… 言葉のまとまりを考えよう 指示する語句と接続する語句	10	7	短歌に親しむ 短歌を味わう 文法	10	7	俳句を味わう	7
9	星の花が降るころに 方言と共通語 漢字の音訓 「言葉」を持つ鳥シジュウカラ	19	9	文法 言葉の力 盆土産	15	9	挨拶 故郷	13
10	蓬莱の玉の枝ー「竹取物語」から 今に生きる言葉	14	10	字のない葉書 同訓異字	14	10	人工知能との未来 人間と人工知能の創造性	12
11	「不便」の価値を見つめなおす 言葉の関係を考えよう	17	11	モアイは語る―地球の未来 源氏と平家 「平家物語」 扇の的	17	11	初恋 和歌の世界 書写	13
12	書写「天地」･「いろは歌」･「大木」	11	12	文法（助詞･助動詞） 「徒然草」 仁和寺にある法師	11	12	古今和歌集仮名序 書写	8
1	「少年の日の思い出」 単語の性質を見つけよう	14	1	「漢詩」 書写 「走れメロス」	14	1	夏草 誰かの代わりに	8
2	随筆二編 さまざまな表現技法 漢字の成り立ち さくらの　はなびら	12	2	月夜の浜辺 類義語･対義語	12	2	温かいスープ あたしを束ねないで	8
3	書写「栄光」･「平和」 一年の振り返り	8	3	君は「最後の晩餐」を知っているか 同音異義語	8	3	三年間の歩みを振り返ろう	5

社会

【目　標】
基礎学力の定着に重点をおきながら、社会への興味と関心を高め、
自主的に学ぶ姿勢や力を身につけさせる。
【計　画】
１～３学期…教材の精選をし、指導内容・課題の与え方について研究する。情報の集め方やまとめ方､報告の仕方等について研究する。各学年の取り組みを情報交換する。自ら学ぶことに重点をおき、研修に参加する。

社会年間計画

1　年				2　年				3　年			
月	単元　指導内容《地理的分野》	単元　指導内容《歴史的分野》	時数	月	単元　指導内容《地理的分野》	単元　指導内容《歴史的分野》	時数	月	単元　指導内容《歴史的分野》	単元　指導内容《公民的分野》	時数
4	第1部　世界と日本の地域構成 **第1章　世界の姿**	第1部　歴史のとらえ方と調べ方	8	4	1. 日本の姿	3. 人々の結びつきが強まる社会	8	4	第4章　第5節 帝国主義と日本 第6節 アジアの強国の光と影		9
5	第2章　日本の姿	**第2部　歴史の大きな流れと時代の移り変わり 第1章　古代国家の成立と東アジア**	10	5	2. 世界と比べた日本の地域的特色	1. 大航海によって結び付く世界	10	5	第5章 二度の 世界大戦と日本 第1節　第一次世界大戦と民族独立の動き 第2節　高まる デモクラシーの動き		12
6	第2部　世界のさまざまな地域	1. 人類の登場から文明の発生へ	12	6		2. 戦乱から全国統一へ	12	6	第3節　戦争に向かう世論 第4節　第二次世界大戦の惨禍 第6章　現在に続く 日本と世界		15
7	・アジア州	2. 東アジアの中の倭(日本)	7	7	3. 日本の諸地域 九州地方	3. 武士による支配の完成	7	7	第1節　敗戦から立ち直る日本 第2節　世界の多極化と日本の成長 第3節　これからの 日本と世界		10
9	・ヨーロッパ州	**3. 中国にならった国づくり**	12	9		4. 天下泰平の世の中	12	9		第1編　私たちと 現代社会	15
10	・アフリカ州	4. 展開する天皇・貴族の政治	12	10	中国・四国地方	5. 社会の変化と幕府の対策	12	10		第2編　第1章 私たちの生活と政治 個人の尊重と 日本国憲法	15
11	・北アメリカ州	第2章　武家政権の成長と東アジア 1. 武士の世の始まり	12	11	近畿地方	1.欧米諸国における近代化	12	11		第2編　第2章 私たちの生活と政治 国民主権と日本の 政治	15
12	・南アメリカ州	2. 武家政権の外と内	10	12	中部地方	2. 開国と幕府の終わり 3. 新しい価値観の下で	10	12		第3編　私たちの 生活と経済	12
1	・オセアニア州		7	1	関東地方	4. 近代国家への歩み	7	1		第4編　私たちと 国際社会	12
2	・身近な地域の調査	3. 人々の結びつきが強まる社会	9	2	東北地方	5. 帝国主義と日本	9	2		第5編　私たちの課題	15
3			6	3	北海道地方	6.アジアの強国の光と影	6	3			10

数学

【目　標】

○学ぶ喜びを感じる授業の創造を目指して、学習内容や個に応じた授業・学習方法を考え実践する。

○一斉授業の中で個に応じたきめ細かな指導を実践する。

【計　画】

１学期　・単元展開計画づくりと単元目標の設定　　**・興味・関心をひく教材開発および指導法の研究**

２学期　・意欲的に学習に参加する授業の工夫　　**・個に応じた教材や指導方法の研究**

３学期　・まとめと反省

数学年間計画

1　年			2　年			3　年		
月	単元　指導内容	時数	月	単元　指導内容	時数	月	単元　指導内容	時数
4	1章 正の数と負の数 1節 正の数と負の数 2節 加法・減法・乗法・除法	13	4	1章 式の計算 1節 文字式の計算 2節 文字式の利用	13	4	1章文字式を使って説明しよう 1節多項式の計算	12
5	3節　正の数と負の数の利用 基本問題　問題練習 ※　素数と素因数分解	17	5	基本問題・問題練習 2章 連立方程式 1節　連立方程式	18	5	2節因数分解 3節式の計算の利用	16
6	2章　文字の式 1節　文字を使った式	10	6	2節　連立方程式の利用 基本問題・問題練習		6	2章数の世界をさらにひろげよう 1節平方根 2節根号をふくむ式の計算 3節平方根の利用	17
7	2節　文字式の計算 3節　文字式の利用	10	7	3章 1次関数 1節 1次関数	18	7	3章方程式を利用して問題を解決 1節2次方程式とその解き方 ・因数分解による解き方	12
9	3章 方程式 1節 方程式 2節 方程式の利用・問題 比の性質の利用	15	9	2節 1次方程式と1次関数 基本問題・問題練習		9	・解の公式による解き方 2節2次方程式の利用 4章関数の世界を広げよう 1節2乗に比例する関数	15
10	4章　変化と対応 1節　関数 2節　比例 3節　反比例	25	10	4章 図形の性質と合同 1節 角と平行線 2節 三角形の合同	20	10	2節2乗に比例する関数の性質と調べ方 3節いろいろな関数の利用	18
11	4節　比例と反比例の利用 基本問題　問題練習 5章 平面図形 1節　直線図形と移動	20	11	3節 証明 基本問題・問題練習 5章 三角形と四角形 1節 三角形	25	11	5章形に着目して図形を調べる 1節相似な図形 2節平行線と線分の比 3節相似な図形の面積と体積	15
12	2節　基本の作図 3節　円とおうぎ形		12	2節 平行四辺形		12	6章円の性質を見つけて証明しよう 1節円周角の定理 2節円周角の定理の利用	10
1	平面図形の計量 基本問題　問題練習 6章　空間図形 1節　立体と空間図形 2節　立体の見方と調べ方	20	1	基本問題・問題練習		1	7章三平方の定理 を活用しよう 1節三平方の定理 2節三平方の定理の利用 ・平面図形への利用	19
2	3節　立体の表面積と体積 空間図形の計量 基本問題　問題練習		2	6章 場合の数と確率 1節 場合の数 2節確率	11	2	・空間図形への利用 8章集団全体の傾向を推測しよう 1節標本調査	8
3	7章　資料の活用 1節　資料の傾向を調べよう 2節　データを活用 3節　ことがらの起こりやすさ 基本問題　問題練習	10	3	7章　箱ひげ図とデータの活用 基本問題・問題練習		3	復習　3年間の総復習	

理科

【目　標】

1.学習意欲をなくしている生徒のつまずきがどこにあるのかをみつめて、
どうすればまなぶことの喜びを与えられることができるかその指導を研究する。

2.学習の効果を高め、理解を深めるために、教育機器の活用を研究する。

3.教科内授業研究を通じて、資料や教材の精選、その扱い方・指導を研究する。

【計　画】

1学期　理科の学習の効果を高める指導法を研究する。

2学期　教育機器を効果的に活用し、生徒が意欲的に学習に参加し、
学ぶ喜びを得る指導法を研究する。

3学期　資料の整理・研究についての反省・まとめをする。

理科年間計画

1　年			2　年			3　年		
月	単元　指導内容	時数	月	単元　指導内容	時数	月	単元　指導内容	時数
4	自然の中にあふれる生命	9	4	2. 生物の体のつくりとはたらき		4	生命「生命の連続性」	
				1章 生物の体をつくるもの	6		1章 生命のふえ方と成長	8
				2章 植物の体のつくりとはたらき	10			
5	1. いろいろな生物とその共通点	1	5			5	2章 遺伝の規則性と遺伝子	6
	1章 植物の特徴と分類	7		3章 動物の体のつくりとはたらき	12		3章 生命の種類の多様性と進化	4
							単元のまとめ	4
6	2章 動物の特徴と分類	9	6	4章 動物の行動のしくみ	8	6	物質「化学変化とイオン」	
	単元のまとめ	2		単元のまとめ	1		1章 水溶液とイオン	8
				1. 化学変化と原子・分子			2章 電池とイオン	8
				1章　物質の成り立ち	10			
7	2. 身のまわりの物質	1	7	2章 物質の表し方	4	7	3章 酸・アルカリと塩	10
	1章 いろいろな物質とその性質	7					単元のまとめ	4
9			9	3章 さまざまな化学変化	10		エネルギー「運動とエネルギー」	
	2章 いろいろな気体とその性質	5		4章 化学変化と物質の質量	10	9	1章 力の合成と分解	8
	3章 水溶液の性質	6		単元のまとめ	1		2章 物体の運動	10
10	4章 物質のすがたとその変化	6	10	3. 天気とその変化		10	3章 仕事とエネルギー	8
	単元のまとめ	3		1章 地球をとり巻く大気のようす	6		4章 多様なエネルギーとその移り変わり	3
				2章 大気中の水の変化	8		5章 エネルギー資源とその利用	4
11	3. 光・音・力による現象	1	11	3章 天気の変化と大気の動き	6	11	単元のまとめ	4
	1章 光による現象	8		4章 大気の動きと日本の四季	10		地球「宇宙を観る」	
	2章 音による現象	5					1章 地球から宇宙へ	5
12	3章 力による現象	9	12	単元のまとめ	1	12	2章 太陽と恒星の動き	8
	単元のまとめ	2					3章 月と金星の動きと見え方	5
							単元のまとめ	4
1			1	4. 電流とその利用		1	環境「自然と人間」	
	4. 活きている地球	1		1章 電流の性質	18		1章 自然界のつり合い	5
	1章 身近な大地	3					2章 さまざまな物質の利用と人間	5
	2章　ゆれる大地	4					3章 科学技術の発展	3
2			2			2	4章 人間と環境	8
	3章 火をふく大地	7		2章 電流の正体	8		5章 持続可能な社会をめざして	4
	4章 語る大地	6		3章 電流と磁界	10			
3	単元のまとめ	3	3	単元のまとめ	1	3	単元のまとめ	4
		105			140			140

英語科

【目　標】
1.　３学年を通じて教材の系統をふまえた学習の理解・定着の徹底をはかる。
2.　各学年ごとの到達目標をふまえた基本の定着をはかり、言語活動を促進する。
3.　生きた英語力を養う。

【計　画】
１学期　教材（視聴覚教材を含む）の検討と指導法の研究。
２学期　教科内研究授業と研究協議。
３学期　教具と資料の整理、まとめと反省。

英語科年間計画

１ 年			２ 年			３ 年		
月	単元　指導内容	時数	月	単元　指導内容	時数	月	単元　指導内容	時数
4	Program0 アルファベット、挨拶、ローマ字 単語、フォニックス classroom English	10	4	Classroom English Program 1 Start of a New School Year 未来表現、接続詞when, if Steps1 英語のしくみ	1 7 2	4	 ask[tell/want]～(人)to… It is～(for+人)to / **主語+be動詞+形容詞+that～**	10
5	Program1 友だちを作ろう be動詞(肯定、否定、疑問) Program2 1－Bの生徒たち 一般動詞、曜日、天気、数	6 6	5	Program 2 Leave Only Footprints 接続詞that, must, have to Interact 英語のしくみ 天気予報を聞こう	1 10 1	5	Program 2 Good night. Sleep Tight. 主語+動詞+(人)+疑問詞節 主語+動詞+人など+that～	10 2
6	授業でやり取りしよう① Program3 タレントショーを書こう Our Project 1 あなたの知らない私 自己紹介	18	6	電話をかけよう Program 3 Taste of Culture 不定詞(to+動詞の原形) 動名詞(動詞のing形) Interact	1 12 5	6	Program 3 A Hot Sport Today 主語+動詞+目的語+補語(名詞/ 形容詞)/主語+動詞+目的語+ 原形	18
7	ハンバーガーショップへ行こう Program4 Let’s enjoy Japanese Culture.	11	7	英語のしくみ 文の構成を考えよう Our Project 4「夢の旅行」を企画しよう Reading 1 Gon, the Little Fox	2 4 7	7	Faithful Elephants 不良品を交換しよう Sign Languages, Not Just Gestures!	13
9	Program5 The Junior Saety Patrol 季節・月の名前	15	9	Program 4 High-Tech Nature 比較級、最上級、as ～ as Let’s Interview 英語のしくみ	10 3	9	ホームページで学校紹介 簡単な表現で言いかえよう The Story of Chocolate	13
10	Progran 6 The way to school 道案内をしよう① 順番、日付の言い方	15	10	Program 5 Work Experience how to～、look+形容詞、 become+名詞/形容詞、SVOO You Look Cool! 英語のしくみ	13 2	10	わかりやすい文章を考えよう 動詞の使い分け The Great Pacific Garbage Patch	15
11	Program7 Research on Australia There is There are の使い方 howの疑問文 疑問詞のまとめ Our Project2	17	11	Program 6 Live Life in True Harmony 受け身 What Do You Think? 英語のしくみ	17	11	あなたの町を世界にPRしよう 非常時のアナウンスを聞こう	17
12	Program8 The Year-End Events 現在進行形	11	12	Our Project 5 ポスターセッション こんな人になりたい Reading 2 Friendship beyond Time and Borders	8 5	12	Is AI a Friend or an Enemy? Malala’s Voice for the Future	13
1	Program9 A trip to Finland 一般動詞過去(規則) 疑問詞 買い物	14	1	Program 7 A Gateway to Japan 現在完了(完了、経験) 相手にわかりやすい説明をしよう 空港アナウンスを聞こう	12 2	1	中学校の思い出を残そう オリンピック競技・パラリンピック競技 The Ig Nobel Prize	14
2	Program10 Grandma Baba’s Warbubg ideas! be動詞の過去形 過去進行形	12	2	Program 8 A Hope for Lasting Peace 現在完了(継続)、現在完 了進行形 メールで近況報告	12	2	Library Lion 総復習	12
3	Our Project3 私が選んだ1枚	5	3	Our Project 6 この一年で得た「宝 もの」 Reading 3 Visas of Hope	5	3	Extensive Reading 総復習	5

河内長野市立千代田中学校　英語科　CAN-DO LIST 2024

＜読むこと＞

4:よくできる（と思う）　3:だいたいできる（と思う）　2:少しできる（と思う）　1:ほとんどできない（と思う）

1	アルファベットを順番どおりに（A～Z）言うことができる。	4　3　2　1
2	アルファベットの大文字・小文字がわかる。（Aとa/Fとfなど）	4　3　2　1
3	ピリオド（.）、疑問符（?）、コンマ（,）、引用符（“”）、感嘆符（!）を理解できる。	4　3　2　1
4	英和辞書を引いて目的の語を見つけることができる。	4　3　2　1
5	日常生活の身近な単語を読んで理解できる。（例：dog/eat/happy）	4　3　2　1
6	日常生活の身近な語句を読んで理解できる。（例：in the morning/at home）	4　3　2　1
7	日常生活の身近なことを表す簡単な文を理解できる。（例：I play tennis every day.）	4　3　2　1
8	日常生活の身近なことを表す簡単な2文以上の文章を理解できる。	4　3　2　1
9	教科書をなめらかに音読することができる。	4　3　2　1
10	英和辞書を引いて本文に合う意味を見つけることができる。	4　3　2　1
11	短い手紙（Eメール）を理解できる。（家族の紹介、旅行の思い出など）	4　3　2　1
12	イラストや写真のついた簡単な物語を理解できる。 （子ども向けの絵本や教科書Readingのような読み物など）	4　3　2　1
13	日常生活の身近なことを表す文を理解できる。 （例：Ken went to the park and played soccer with his friends.）	4　3　2　1
14	公共の施設などにある簡単な表示・掲示を理解できる。 （例：No Smoking/Closed/No Dogs）	4　3　2　1
15	簡単な英語のメニューを理解できる。（ファーストフード・レストランにあるメニューなど）	4　3　2　1
16	パーティーなどの招待状や簡単なお知らせなどの内容を理解できる。（日時、場所など）	4　3　2　1
17	2年の教科書の前半部分の本文をなめらかに音読することができる。	4　3　2　1
18	興味・関心のある話題に関する文章なら、知らない単語がいくつかあってもだいたい内容を理解できる。	4　3　2　1
19	日常生活の身近な話題についての文章を理解できる。（学校生活、スポーツ、音楽など）	4　3　2　1
20	短くて簡単な物語を理解できる。（簡単な伝記や童話、教科書の読み物教材など）	4　3　2　1
21	日本語の注や説明がついた簡単な読み物を理解できる。 （学校の課題図書、学習者向けの物語など）	4　3　2　1
22	簡単に書かれた英語の地図を見て、通りや店、病院などを探すことができる。	4　3　2　1
23	3年の教科書程度の長文を読んでだいたいの内容をつかむことができる。	4　3　2　1
24	3年の教科書程度の長文の中から必要な情報を見つけることができる。	4　3　2　1
25	初めて見る文章でも意味を考えながらだいたい音読することができる。	4　3　2　1
26	2年後半～3年前半の教科書をなめらかに音読することができる。	4　3　2　1

＜聞くこと＞

4:よくできる（と思う）　3:だいたいできる（と思う）　2:少しできる（と思う）　1:ほとんどできない（と思う）

1	初歩的な語句や決まり文句を聞いて理解できる。（Here you are./Two pencils.）	4　3　2　1
2	アルファベットを聞いて、どの文字かを思い浮かべることができる。	4　3　2　1
3	日常生活の身近な単語を聞いて、その意味を理解できる。（例：dog/eat/happy）	4　3　2　1
4	日付、曜日、天候を聞き取ることができる。（Monday/October 5/rainy）	4　3　2　1
5	日常生活の身近な数字を聞きとることができる。（電話番号、時刻、年齢など）	4　3　2　1
6	日常的なあいさつを理解できる。（例：How are you?/Nice to meet you.）	4　3　2　1
7	簡単な自己紹介を聞いて、その内容を理解できる。（名前、住んでいるところ、家族など）	4　3　2　1
8	簡単な文を聞いて、その内容を理解できる。（例：I like dogs, but she likes cats.）	4　3　2　1
9	簡単な指示を聞いて、その意味を理解して行動に移すことができる。 （例：Open your textbook./Close the door, please.）	4　3　2　1
10	人のいる場所、ものの位置を聞いて、理解できる。（例：The book is on the TV.）	4　3　2　1
11	簡単な対話を聞いて、話されている内容を理解できる。	4　3　2　1
12	先生の話す英語が、半分くらい理解できる。	4　3　2　1
13	ゆっくり（またはくり返して）話されれば、興味・関心のある話題に関する話を理解できる。（趣味に関すること、好きな音楽やスポーツのことなど）	4　3　2　1
14	ゆっくり（またはくり返して）話されれば、日常生活の身近な話題に関する簡単な話を聞いて、その内容を理解できる。（学校、クラブ活動、週末の話など）	4　3　2　1
15	ゆっくり（またはくり返して）話されれば、簡単なアナウンスを聞いて、重要な情報を理解できる。（集合場所、乗り物の出発や到着時刻など）	4　3　2　1
16	ゆっくり（またはくり返して）話されれば、簡単な道案内を聞いて、行き方が理解できる。 （例：Go straight and turn left at the next corner.）	4　3　2　1
17	よく使われる表現であれば、単語がつながって発音されても、その意味を理解できる。 （Come in.が「カミン」、Don't you?が「ドンチュー」のように聞こえるなど）	4　3　2　1
18	先生が教科書の内容を説明する英語がだいたい理解できる。	4　3　2　1

＜話すこと＞

4:よくできる（と思う）　3:だいたいできる（と思う）　2:少しできる（と思う）　1:ほとんどできない（と思う）

1	アルファベットを見てその文字を発音することができる。	4　3　2　1
2	日常生活の身近な単語を発音することができる。（例：dog/eat/happy）	4　3　2　1
3	日常生活の身近な数字を言うことができる。（電話番号、時刻、年齢など）	4　3　2　1
4	簡単なあいさつをかわすことができる。（例：Good morning./Good night.）	4　3　2　1
5	あやまったり、お礼を言ったりすることができる。（例：I'm sorry./Thank you.）	4　3　2　1
6	日常生活の身近な話題について、Yes/Noで答える質問に応答することができる。（「好き」「嫌い」など）	4　3　2　1
7	日常生活の身近な話題について、What, Who, Where, When, How などで始まる質問に短く簡単に答えることができる。	4　3　2　1
8	３～５文で自己紹介や家族・友だちの紹介をすることができる。	4　3　2　1
9	友だちとペアで簡単な対話（１年のBasic Dialog程度）をすることができる。	4　3　2　1
10	7文程度の簡単な自己紹介をすることができる。（名前、住んでいるところ、家族など）	4　3　2　1
11	簡単な質問をすることができる。（時刻、好きなもの、相手の名前など）	4　3　2　1
12	相手の言うことがわからないときに、聞き返すことができる。 （例：Excuse me?/Could you speak more slowly?）	4　3　2　1
13	日付や曜日を文で言うことができる。（It's Monday.など）	4　3　2　1
14	日常生活の身近な話題について、What, Who, Where, When, How などで始まる簡単な質問に答えることができる。	4　3　2　1
15	友達とペアで簡単な対話（２年のBasic Dialog程度）をすることができる。	4　3　2　1
16	原稿を書いておけば将来の夢などについてスピーチをすることができる。	4　3　2　1
17	自分の好きなことについて、短い話をすることができる。（趣味、クラブ活動など）	4　3　2　1
18	ものごとの「好き」「嫌い」とその理由を簡単に述べることができる。（動物、食べ物、スポーツなど）	4　3　2　1
19	日常生活の行動について話すことができる。 （例：I got up at seven./I ate some bread for breakfast.）	4　3　2　1
20	自分の予定を簡単に言うことができる。（例：I'm going to meet my friends.） 予定を聞かれて簡単に答えることができる。 （例：What are you going to do? – I'm going to study at the city library.）	4　3　2　1
21	簡単な頼みごとをすることができる。また、引き受けたり断ることができる。 （Could you tell me the way to the station? – Sure./Sorry, I can't.）	4　3　2　1
22	身近なことで相手を誘うことができる。（例：Let's have lunch together.）	4　3　2　1
23	簡単な相づちをうつことができる。（例：I see./Really?）	4　3　2　1
24	過去や未来の日常生活の身近な話題について、What, Who, Where, When, How などで始まる質問に簡単な文で答えたり、相手に質問することができる。	4　3　2　1
25	つなぎ言葉（Really?/I see.など）を使って対話を続けることができる。	4　3　2　1

＜書くこと＞

4:よくできる(と思う)　3:だいたいできる(と思う)　2:少しできる(と思う)　1:ほとんどできない(と思う)

1	アルファベットの大文字と小文字を活字体(教科書や本などの字体)で書くことができる。	4　3　2　1
2	英語の書き方の決まりに合わせて正しく文を書くことができる。(先頭は大文字、単語と単語の間は少し離す、文の最後はピリオドかクエスチョンマークなど)	4　3　2　1
3	黒板に書かれた文や教科書の文を正しくノートに書き写すことができる。	4　3　2　1
4	重要な単語(例:教科書で太字になっている単語)なら半分くらいは書くことができる。	4　3　2　1
5	語句を並べて短いメモを書くことができる。(例:park, 5:00)	4　3　2　1
6	短い文であれば、英語の語順で書くことができる。(例:I like music./I come from Canada.)	4　3　2　1
7	簡単な文やメモを書くことができる。	4　3　2　1
8	短い文を、正しい英語の語順で書くことができる。(例:I went to the park yesterday.)	4　3　2　1
9	語句を並べて短いメモを書くことができる。(例:birthday party at 6 p.m.)	4　3　2　1
10	教科書の対話の一部を変えてスキット(寸劇)を書くことができる。	4　3　2　1
11	教科書やモデル文を参考にして将来の夢のスピーチ原稿を書くことができる。	4　3　2　1
12	文と文を接続詞(and/but/so/when/becauseなど)でつなげて書くことができる。	4　3　2　1
13	和英辞典を使って、自分の気持ちや考えを書くことができる。	4　3　2　1
14	10文程度で自己紹介の文章を書くことができる。(名前、住んでいるところ、家族など)	4　3　2　1
15	自分の趣味について、４～５文のわかりやすいまとまりのある文章を書くことができる。	4　3　2　1
16	ものごとの「好き」「嫌い」とその理由を書くことができる。(食べ物、スポーツ、音楽など)	4　3　2　1
17	短い日記を書くことができる。(３～５文程度)	4　3　2　1
18	簡単なカード、はがき、メールを書くことができる。(お祝いカード、旅行先からの絵はがきなど)	4　3　2　1
19	短い伝言を書くことができる。(例:Ken called at 3p.m.)	4　3　2　1

音楽科

【目　標】

一人ひとりが自己表現し、感動する音楽活動を目指す。

【計　画】

１学期　基本的授業の充実
２学期　曲の構成を学ぶ
３学期　１年間のまとめと反省

音楽科年間計画

１　年			２　年			３　年		
月	単元　指導内容	時数	月	単元　指導内容	時数	月	単元　指導内容	時数
4	国家・校歌・市民歌 歌唱　「We'll Find The Way」 AR　リコーダーの吹き方と名称	4	4	国家・校歌・市民歌 歌唱　「夢の世界を」 AR　「アニーローリー」	3	4	国家・校歌・市民歌 歌唱　「花」 AR　「きらきら星」	3
5	歌唱　「その先へ」 「主人は冷たい土の中に」 AR　「喜びの歌」「さんぽ道」 楽典　「自分の歌声を見つけよう」	5	5	歌唱　「翼をください」 AR　「アニーローリー」 楽典　鼻濁音	3	5	鑑賞　「ブルタバ」 AR　「きらきら星」 歌唱　「花」　「花の街」	3
6	歌唱　「主人は冷たい土の中に」 鑑賞　「春」 AR　「かっこう」 楽典　「変声期」	6	6	歌唱　「夏の日の贈り物」 AR　「アニーローリー」 鑑賞　「フーガ ト短調」	4	6	歌唱　「花の街」 「帰れソレントへ」 楽典　【音楽を形づくっている要素】 AR　「星に願いを」	4
7	歌唱　「Edelweiss」 「浜辺の歌」 AR　「そっと　やさしく」	3	7	歌唱　「サンタルチア」 楽典　【音楽を形づくっている要素】	3	7	歌唱　「帰れソレントへ」 楽典　【ルールを守って音楽を楽しもう】 AR　「星に願いを」	3
9	歌唱　「Edelweiss」 「浜辺の歌」 「ミュージックフェスティバルのクラス曲」 AR　「そっと　やさしく」	5	9	歌唱　「夏の思い出」 「ミュージックフェスティバルのクラス曲」 AR　「虹の彼方に」	3	9	AR　「大きな古時計」 鑑賞　「ボレロ」 歌唱　「ミュージックフェスティバルのクラス曲」 「Let It Be」	3
10	歌唱　「赤とんぼ」 「ミュージックフェスティバルのクラス曲」 鑑賞　「魔王」 AR　「そっとやさしく」	5	10	歌唱　「ミュージックフェスティバルのクラス曲」 AR　「虹の彼方に」 鑑賞　「交響曲第5番ハ短調」 【オーケストラの楽器】	4	10	AR　「大きな古時計」 歌唱　「ミュージックフェスティバルのクラス曲」 楽典　【指揮を学ぼう】	4
11	歌唱　「Let's Search For Tomorrou」 AR　「カノン1」 楽典　生活や社会の中の音楽	6	11	歌唱　「荒城の月」 楽典　音楽を形づくっている要素 AR　「虹の彼方に」	4	11	AR　「大きな古時計」 歌唱　「Amazing Grace」 楽典　【生活や社会の中の音楽】	4
12	歌唱　「涙そうそう」 指揮について AR　「カノン1」	3	12	歌唱　「ハートのアンテナ」 鑑賞　「アイーダ」 AR　「ラヴァーズコンチェルト」	3	12	AR　「大きな古時計」 歌唱　「Amazing Grace」 「旅立ちの日に」	3
1	鑑賞　「雅楽（平調　越天楽）」 歌唱　「カリブ夢の旅」 「Forever」 AR　「オーラリー」	5	1	鑑賞　歌舞伎「勧進帳」 AR　「ラヴァーズコンチェルト」 歌唱　「MY Own Road」	3	1	鑑賞　「能『敦盛』」 歌唱　「旅立ちの日に」 「卒業式の歌」	3
2	歌唱　「マイバラード」 「君をのせて」 AR　「オーラリー」	6	2	歌唱　「My Own Road」 AR　「ラヴァーズコンチェルト」 【生活や社会の音楽】	4	2	卒業の歌 校歌・国歌・市民歌	2
3	歌唱　「あすという日が」 AR　「オーラリー」	4	3	歌唱　「時の旅人」	3	3	卒業の歌	2

美術

【目　標】
◇ 表現活動を通して創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てる。
◇ 感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。
◇ 個性を発揮させ、それをお互いに尊重し合う心を育てる。

【計　画】
１学期　興味を持って、取り組める教材の研究をする。
２学期　意欲的に取り組む指導法の研究をする。
３学期　まとめと反省をする。

美術年間計画

１ 年			２ 年			３ 年		
月	単元　指導内容	時数	月	単元　指導内容	時数	月	単元　指導内容	時数
4	オリエンテーション 鑑賞 色彩・絵具の学習	1 2 5	4	オリエンテーション 鑑賞 ゲルニカ	2 5	4	オリエンテーション 鑑賞 シュルレアリスム	1 1 6
5	↓ ・色の整理 ・配色の工夫 ・絵の具の使い方		5	漫画表現 ↓		5	↓	
6	↓ 鑑賞 抽象絵画制作	1 5	6	絵巻物 ・鑑賞 ・水墨画技法実践	6	6	↓ 伝統工芸品 サンドブラスト	5
7	鉛筆デッサン ↓	2	7	↓	3	7	↓	
9	日本の伝統色・伝統文様 レタリング	7 9	9	鑑賞 ストリングアート	3 9	9	鑑賞 パブリックアート	1 4
10	・明朝体、ゴシック体 ・粘土を使用した作品作り		10	↓		10	↓	
11	↓ 鑑賞	1	11			11	木彫	7
12	鑑賞 ↓	2	12	↓ ポートフォリオ	1	12	↓ ポートフォリオ	1
1	パッケージデザイン	10	1	透視図法	8	1	ユニバーサルデザイン タイポグラフィ判子	2 4
2			2			2	↓ 名言づくり	2
3	↓		3	↓ ポートフォリオ	1	3		

保健体育科年間授業計画

【目　標】

1．生徒同士の関わり合いを大切にし、授業規律や安全を確保し、学習意欲を高める指導を行う。

(1)　できたことの喜び，運動する楽しさを味わえるような授業を研究する

(2)　お互いが日々授業公開を実施し、授業の工夫に取り組む

(3)　チャイム前整列・体操開始を目指し、且つ礼儀を学び、集団生活に必要な態度を育む。また生徒同士の声かけを促すよう常に心がける

2．生涯を通しての運動実践や健康な生活の実現に必要な能力と態度を育てる工夫をする

【計　画】

１学期　集団で取り組める態度を育て、授業規律を育む。

２学期　生徒同士が教え合いを行い、仲間を成功へ導く力を育む。

３学期　個人の成長が、集団を作り上げていく実感を持てる感覚を育む。

保健体育科年間計画

1　年				2　年				3　年			
月	単元　指導内容			月	単元　指導内容			月	単元　指導内容		
	男子　体育	女子　体育	保健		男子　体育	女子　体育	保健		男子　体育	女子　体育	保健
4 5	集団行動 ラジオ体操第二 体つくり運動 (レクレーション) スポーツテスト⑧	集団行動 ラジオ体操第二 体つくり運動 (レクレーション) スポーツテスト⑧	心身の発達と心の健康⑩	4 5	集団行動 ラジオ体操第二 体つくり運動 (レクレーション) スポーツテスト⑤ 球技⑧	集団行動 ラジオ体操第二 体つくり運動 (レクレーション) スポーツテスト⑤ 球技⑧	傷害の防止⑧	4 5	集団行動 ラジオ体操第二 体つくり運動 (レクレーション) スポーツテスト⑤ 球技⑥	集団行動 ラジオ体操第二 体つくり運動 (レクレーション) スポーツテスト⑤	健康と環境⑦
6	球技⑩	陸上競技⑩		6	球技⑩	球技⑩		6	球技⑩	陸上競技⑩	
7	水泳⑧ クロール 平泳ぎ	水泳⑧ クロール 平泳ぎ	健康な生活と病気の予防④	7	水泳⑧ クロール 平泳ぎ 背泳ぎ	水泳⑧ クロール 平泳ぎ 背泳ぎ	健康な生活と病気の予防④	7	水泳⑧ クロール 平泳ぎ 背泳ぎ	水泳⑧ クロール 平泳ぎ 背泳ぎ バタフライ	健康な生活と病気の予防⑥
9	体育大会に向けて 陸上競技⑩	体育大会に向けて 陸上競技⑩		9	体育大会に向けて 陸上競技⑩	体育大会に向けて 陸上競技⑩		9	体育大会に向けて 陸上競技⑫	体育大会に向けて 陸上競技⑫	
10	球技⑩	武道⑩		10	球技⑩	武道⑩		10	球技⑩	武道⑩	
11	武道⑩	長距離走⑥	運動やスポーツの多様性③	11	武道⑩	長距離走⑥	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方③	11	武道⑩	長距離走⑥	文化としてのスポーツ③
12	長距離走⑥	器械運動⑩		12	長距離走⑥	器械運動⑩ (マット運動)		12	長距離走⑥	球技⑩	
1	器械運動⑩	球技⑩		1	器械運動⑩	球技⑩		1	球技⑩	球技⑩	
2	陸上競技⑩	ダンス⑧		2	球技⑩	器械運動⑩ (跳び箱運動)		2 3	球技⑩	ダンス⑩	
3	ダンス⑧	球技⑧		3	球技⑧	陸上競技⑩ (走り幅・高跳び)					

技術・家庭

【目　標】

1　自ら学ぶ態度を育成する。
2　適切な題材設定や、生徒の興味・関心にあった教材・教具を工夫する。
3　一斉指導・グループ指導・個別指導等の指導の形態を工夫する。

【計　画】

1学期　学習に対する意欲を高める指導を研究する。
2学期　集団で取り組める態度を育てて、個々の能力も大切にした指導を研究する。
3学期　まとめと反省。

技術・家庭年間計画

1　年				2　年				3　年			
月	単元　指導内容		時数	月	単元　指導内容		時数	月	単元　指導内容		時数
	技術科領域	家庭科領域			技術科領域	家庭科領域			技術科領域	家庭科領域	
4	ガイダンス D 情報の技術 について	ガイダンス 健康と食生活	2	4	D 情報の技術 について	わたしたちの 衣生活	2	4	D 情報の 技術について	わたしたちの 成長と家族	1
5	A 材料と加工 の技術 製図	健康と食生活・ 栄養素のかか わり	3	5	D 情報の技術 について	衣服のはたらき とTPO	3	5	D 情報の 技術について	家庭生活を ささえる仕事 家庭生活と地域	2
6	A 材料と加工 の技術	バランスのとれ た食生活	2	6	C エネルギー変換 に関する技術	消費生活と 環境	4	6	D 情報の技術 「計測と制御」	幼児の特徴	2
7	A 材料と加工	食品の選択と保 存	4	7	C エネルギー変換 に関する技術	消費生活につい て消費者としての 自覚	2	7	D 情報の技術 「計測と制御」 プログラミング	幼児の生活	1
9	A 材料と加工 の技術	食品の選択と保存 食事づくりに挑戦	3	9	C エネルギー変換実技 B 生物育成の技術	実技	3	9	D 情報の技術 「計測と制御」 プログラミング	幼児期の遊び	2
10	A 材料と加工 の技術 B 生物育成の 技術	実習	4	10	C エネルギー変換実技 B 生物育成の技術	実技	4	10	D 情報の技術 「計測と制御」 プログラミング	幼児の生活と家 族	2
11	A 材料と加工 の技術 B 生物育成の 技術	行事と行事食	4	11	C エネルギー変換実技 B 生物育成の技術	実技	4	11	D 情報の技術 「計測と制御」 プログラミング	幼児のふれあい	2
12	A 材料と加工 の技術 B 生物育成の 技術	住まいのはたらき	4	12	C エネルギー変換実技 B 生物育成の技術	実技	4	12	D 情報の技術 「計測と制御」 プログラミング	わたしたちの よりよい生活	1
1	A 材料と加工 の技術 B 生物育成の 技術	安心な住まいで 安全な暮らし	3	1	C エネルギー変換実技 B 生物育成の技術	持続可能な 社会をつくる	3	1	D 情報の技術 「計測と制御」 プログラミング	幼児期の おやつ実習	1
2	A 材料と加工 の技術 B 生物育成の 技術	持続可能な 住生活	4	2	C エネルギー変換実技 B 生物育成の技術	わたしたちの よりよい生活	4	2	D 情報の技術 「計測と制御」 プログラミング	幼児期のおやつ	1
3	まとめと反省	まとめと反省	2	3	まとめと反省	まとめと反省	2	3	まとめと反省	まとめと反省	1

道徳科（1年生）

道徳科の目標
・人権についての理解を深め、意識を高めるとともに、人間尊重意識を高めるとともに、人間尊重の精神を実現していこうとする態度を養う。
・道徳の時間を「要」とした道徳教育を学校の教育活動全体を通じて推進する。
・道徳教材の開発や指導方法の研究を進め、「考え、議論する道徳」を実施するため、全教職員で取り組み、「道徳の時間」の充実を図る。
・基本的な道徳観を身につける。
・人間尊重の精神を養う。

1年道徳年間指導計画

		1年生		
		内容項目	教材名	主題名
4	A・主として自分自身に関すること	自主、自律、自由と責任	二人の約束	迷いを乗り越えて
4		自主、自律、自由と責任	裏庭でのできごと	誠実な生き方
5		節度、節制	疾走、自転車ライダー	安全への心構え
4		向上心、個性の伸長	トマトとメロン	みんな同じがよいのか
5		希望と勇気、克己と強い意志	サッカーの漫画を描きたい	困難を乗り越える力
5		希望と勇気、克己と強い意志	小惑星探査機「はやぶさ」の挑戦	失敗から学んだ希望
6		真理の探究、創造	緑のじゅうたん	理想に向かって
6	B・主として人との関わりに関すること	思いやり、感謝	人のフリみて	言葉のもつ不思議な力
6		礼儀	「愛情貯金」をはじめませんか	礼儀の心
6		友情、信頼	近くにいた友	心から信頼できる友達
7		友情、信頼	部活の帰り	心がときめくとき
7		友情、信頼	旗	友達のよさ
9		相互理解、寛容	自分だけ「余り」になってしまう……	お互いを認め合う
9	C・主として集団や社会との関わりに関すること	遵法精神、公徳心	ふれあい直売所	社会のきまり
9		遵法精神、公徳心	使っても大丈夫？	自他の権利と法の遵守
9		公正、公平、社会正義	さかなのなみだ	いじめのない集団
10		公正、公平、社会正義	公平と不公平	公平とは何か
10		社会参画、公共の精神	あったほうがいい？	よりよい社会のために
10		社会参画、公共の精神	富士山から変えていく	つながりを生み出す力
10		勤労	私は清掃のプロになる	心のこもった仕事とは
11		勤労	役に立つことできるかな	働くことの尊さ
11		家族愛、家庭生活の充実	家族と支え合うなかで	支え合う家族
11		よりよい学校生活、集団生活の充実	むかで競争	みんなをまとめる力
11		郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	震災を乗り越えて―復活した郷土芸能―	郷土芸能を伝える
12		郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	篠崎街道	郷土を愛する心
12		我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	奈良筆に生きる	伝統を守る
1		国際理解、国際貢献	花火に込めた平和への願い	世界平和のために
1		国際理解、国際貢献	違いを乗り越えて	多文化の理解を深める
1	D・主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	生命の尊さ	あなたはすごい力で生まれてきた	生きることの素晴らしさ
2		生命の尊さ	あふれる愛	生まれてきた大切な生命
2		生命の尊さ	ゆうへ―生きていてくれてありがとう―	つながる生命
2		自然愛護	木の声を聞く	自然を愛する
3		感動、畏敬の念	オーロラ―光のカーテン―	自然に感動する心
3		よりよく生きる喜び	挫折から希望へ	弱さを乗り越え生きる
3		よりよく生きる喜び	いつわりのバイオリン	人間として生きる喜び

道徳科（2年生）

道徳科の目標
・人権についての理解を深め、意識を高めるとともに、人間尊重意識を高めるとともに、人間尊重の精神を実現していこうとする態度を養う。
・道徳の時間を「要」とした道徳教育を学校の教育活動全体を通じて推進する。
・道徳教材の開発や指導方法の研究を進め、「考え、議論する道徳」を実施するため、全教職員で取り組み、「道徳の時間」の充実を図る。
・他人の気持ちや相手の立場を理解し行動する態度を養う。
・社会の中で、ともに生きる力を身につける。

２年道徳年間指導計画

		2年生		
		内容項目	教材名	主題名
4	A・主として自分自身に関すること	自主、自律、自由と責任A-(1)	五月の風ーカナー	自分を信じて
4		自主、自律、自由と責任A-(2)	ネット将棋	インターネット上の責任ある言動
5		節度、節制A-(2)	避難場所にて	節度、節制の大切さ
5		向上心、個性の伸長A-(3)	「自分」って何だろう	自己を見つめる
5		希望と勇気、克己と強い意志A-(4)	「自分」をあきらめない。 立ち上がった瞬間が自信になる。	諦めない心
5		希望と勇気、克己と強い意志A-(4)	初心	初心に返る
6		真理の探究、創造	戦争を取材する	真実を追い求める
6	B・主として人との関わりに関すること	思いやり、感謝A-(6)	夜のくだもの屋	人の思いやりへの感謝
6		礼儀A-(7)	挨拶は言葉のスキンシップ	心を形に
6		友情、信頼A-(8)	五月の風ーミカー	本当の友達
7		友情、信頼A-(8)	ライバル	真の友情
7		友情、信頼A-(8)	恋する涙	友情と好意
9		相互理解、寛容A-(9)	コトコの涙	わかり合うこと
9	C・主として集団や社会との関わりに関すること	遵法精神、公徳心A-(10)	美しい鳥取砂丘	規則の役割
9		遵法精神、公徳心A-(10)	オーストリアのマス川	法やきまりの意義
9		公正、公平、社会正義A-(11)	リスペクトアザーズ	個性を尊重する社会
10		公正、公平、社会正義A-(11)	ヨシト	いじめへの公正な態度
10		社会参画、公共の精神A-(12)	行動する建築家　坂茂	社会のためにできること
10		社会参画、公共の精神A-(12)	門掃き	美しいしきたり
10		勤労A-(13)	そうじの神様が教えてくれたこと	働くということ
11		勤労A-(13)	小さな工場の大きな仕事	社会への貢献
11		家族愛、家庭生活の充実A-(14)	きいちゃん	家族のきずな
11		よりよい学校生活、集団生活の充実A-(15)	ハイタッチがくれたもの	私たちでつくる校風
11		郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度A-(16)	和樹の夏祭り	地域の祭りの大切さ
12		我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度A-(17)	さよなら、ホストファミリー	日本人としての誇り
12		我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度A-(17)	包む	日本文化の心
1		国際理解、国際貢献A-(18)	海の空ー樫野の人々ー	国際社会の一員
1		国際理解、国際貢献A-(18)	ダショー・ニシオカ	真の国際協力
1	D・主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	生命の尊さA-(19)	最後のパートナー	支え合う命
2		生命の尊さA-(19)	体験ナースをとおして	輝く命
2		生命の尊さA-(19)	命をみとめて　－猿渡瞳さんの六四十六日－	懸命に生きる
2		自然愛護A-(20)	よみがえれ、えりもの森	自然環境を守る
3		感動、畏敬の念A-(21)	樹齢七千年の杉	自然の偉大さ
3		よりよく生きる喜びA-(22)	自分の弱さと戦え	自分の弱さの克服
3		よりよく生きる喜びA-(22)	足袋の季節	強く気高く生きる

道徳科（3年生）

道徳科の目標
・人権についての理解を深め、意識を高めるとともに、人間尊重意識を高めるとともに、人間尊重の精神を実現していこうとする態度を養う。
・道徳の時間を「要」とした道徳教育を学校の教育活動全体を通じて推進する。
・道徳教材の開発や指導方法の研究を進め、「考え、議論する道徳」を実施するため、全教職員で取り組み、「道徳の時間」の充実を図る。
・公正な判断力と社会連帯の精神を養う。
・公共の立場から、考え行動する態度を養う。

3年道徳年間指導計画

		3年生		
		内容項目	教材名	主題名
4	A・主として自分自身に関すること	自主、自律、自由と責任A-(1)	町内会デビュー	自立的な生き方
4		自主、自律、自由と責任A-(1)	私も高校生	自分で決めたこと
5		節度、節制A-(2)	ある朝の出来事	自分を抑える力
5		節度、節制A-(2)	独りを慎む	自制する心
5		向上心、個性の伸長A-(3)	新しい夏のはじまり	前向きな生き方
5		希望と勇気、克己と強い意志A-(4)	銀メダルから得たもの	より高い目標をめざして
6		真理の探究、創造	iPS細胞で難病を治したい	夢の実現
6	B・主として人との関わりに関すること	思いやり、感謝B-(6)	塩むすび	感謝の心に応える
6		礼儀B-(7)	出迎え三歩、見送り七歩	おもてなしの心
6		友情、信頼B-(8)	違うんだよ、健司	本当の友情とは
7		友情、信頼B-(8)	ゴリラのまねをした彼女を好きになった	人を好きになる
7		相互理解、寛容B-(9)	思いを伝えることの難しさ	互いの思いの伝え方
9		相互理解、寛容B-(9)	言葉の向こうに	相手の気持ちを考える
9	C・主として集団や社会との関わりに関すること	遵法精神、公徳心C-(10)	二通の手紙	法やきまりの意義
9		遵法精神、公徳心C-(10)	ワンス・アポン・アポン・ア・タイム・イン・ジャパン	規律ある社会
9		公正、公平、社会正義C-(11)	卒業文集最後の二行	いじめを許さない心
10		公正、公平、社会正義C-(11)	命の大切さ	豊かな人権感覚
10		社会参画、公共の精神C-(12)	No charity, but a Chance!	ともに生きる社会の実現
10		社会参画、公共の精神C-(12)	自分・相手・周りの人	公共の場での心構え
10		社会参画、公共の精神C-(12)	公園に桜を	より良い社会の実現
11		勤労C-(13)	あるレジ打ちの女性	自分に大切な勤労の尊さ
11		家族愛、家庭生活の充実C-(14)	一冊のノート	家族への敬愛
11		よりよい学校生活、集団生活の充実C-(15)	お別れ会	我が校を愛する心
11		郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度C-(16)	「稲むらの火」余話	かけがえのない郷土
12		我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度C-(17)	昔と今を結ぶ糸	日本の伝統文化
12		我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度C-(17)	父は能楽師	日本の文化を受け継ぐ
1		国際理解、国際貢献C-(18)	命のトランジットビザ	人類愛、つながる命
1		国際理解、国際貢献C-(18)	本とペンで世界を変えよう	世界平和を考える
1	D・主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	生命の尊さD-(19)	エリカ-奇跡のいのち-	生きていることの奇跡
2		生命の尊さD-(19)	臓器ドナー	自他の生命の尊さ
2		生命の尊さD-(19)	希望	かけがえのない生命
2		自然愛護D-(20)	「川端」のある暮らし	自然とともに生きる
3		感動、畏敬の念D-(21)	風景開眼	自然への畏敬
3		よりよく生きる喜びD-(22)	風に立つライオン	人間の気高さ
3		よりよく生きる喜びD-(22)	世界を動かした美	よりよく生きる

中学校 第1学年 道徳教育全体計画の別葉

道徳教育の重点目標
人権についての理解を深め、意識を高めるとともに、人間尊重意識を高めるとともに、人間尊重の精神を実現していこうとする態度を養う。

学年の重点目標
①基本的な道徳観を身につける。 ②人間尊重の精神を養う。

	国語	月	社会	月	数学	月	理科	月	英語	月	音楽	月	美術	月	保健体育	月	技術	月	家庭	月	総合的な学習	月	学級活動	月	学校行事	月	特別活動	月
A 主として自分自身に関すること																												
自主、自立 自由と責任			人類の登場から文明の発生へ	6	比例・反比例の利用 データの整理と分析	11 3			Our Project1	6			色で春夏秋冬をデザイン	4	「心の発達」「休養、睡眠と健康」		材料と加工の技術	4 〜									協議会活動	通年
節度、節制											校歌	4	色の整理・色相環	5 6	「欲求不満やストレスへの対処」「食生活と健康」													
向上心、個性の伸長									Our Project2	11	コンクールの練習	9 10			体力テスト、水泳、陸上競技、器械運動 「自己形成」		材料と加工の技術	4 〜	衣食住の生活	4 〜	KGノート	4 〜			体育大会 （応援合戦） 合唱コンクール	9 10	生徒会活動 全校集会	通年
希望と勇気、克己と強い意志	朝のリレー	4			文字を使った式 方程式の利用	6 9			Our Project3	3			作品作り		持久走 「運動やスポーツへの多様な関わり方」													
真理の探究、創造			世界の姿 人類の誕生から文明の発生へ	4 6	方程式の利用 関数・比例・反比例 いろいろな立体	9 10 1	身のまわりの物質 身のまわりの現象	7 11							ダンス													
B 主として人との関わりに関すること																												
思いやり、感謝											コンクールの練習	9 10			柔道 球技 「心の発達」													
礼儀			武士の世の始まり	1 2					友だちを作ろう	5	コンクールの練習	9 10			柔道「心の発達」「自己形成」「欲求不満とストレス」													
友情、信頼	少年の日の思い出	1							友達を作ろう 1-Bの生徒たち	5	コンクールの練習	9 10			球技 「心の発達」						お別れ集会	3			体育大会	9		
相互理解、寛容	シンシュン	5	世界各地の人々の生活と環境	?	正の数と負の数 加法・減法・乗法・除法	4			タレントショーを書こう	6					「性とどう向き合うか」「生殖機能の成熟」「心の発達」								お楽しみ会	3	体育大会	9		
C 主として集団や社会との関わりに関すること																												
遵法精神、公徳心															「欲求不満やストレスへの対処」													
公正、公平、社会正義	君たちはどう生きるか	?													「欲求不満やストレスへの対処」													
社会参画、公共の精神															「運動やスポーツへの多様な関わり方」													
勤労															球技 「運動やスポーツへの多様な関わり方」						キャリア教育							
家族愛、家庭生活の充実	大人になれなかった弟たちに	7																			朝学習	4 〜						
よりよい学校生活、集団生活の充実															集団行動「心の発達」「欲求不満やストレスへの対処」						校外学習	6			体育大会 合唱コンクール	9 10	生徒会活動	通年
郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度			人々の結びつきが強まる社会	3					The Year-End Events	12	市民歌	4	日本美術史						衣食住の生活	4 〜	ふるさと学	3						
我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	蓬莱の玉の枝-「竹取物語」から今に生きる言葉	10	展開する天皇・貴族の政治	9					Let's enjoy Japanese Culture	7	国歌	4			柔道				衣食住の生活	4 〜								
国際理解、国際貢献			世界のさまざまな地域	9 〜					Junior Saety Patrol The way to school	9 10	ヴィヴァルディ シューベルト		西洋美術史								国際理解教育	10 11						
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること																												
生命の尊さ							いろいろな生物とその共通点	5							「体の発育・発達」「呼吸器・循環器の発達」													
自然愛護	「言葉」を持つ鳥シジュウカラ	9	東アジアの中の倭（日本）	7			いろいろな生物とその共通点	5	Research on Australia	11	モルダウ						材料と加工の技術	4 〜										
感動、畏敬の念							活きている地球	1			魔王				「運動やスポーツへの多様な関わり方」													
よりよく生きる喜び									Grandma Baba's Warbubg ideas!	2					「自己形成」「健康の成り立ち」「運動やスポーツの多様な楽しみ方」				衣食住の生活	4 〜							生徒会活動	通年
	国語	月	社会	月	数学	月	理科	月	英語	月	音楽	月	美術	月	保健体育	月	技術	月	家庭	月	総合的な学習	月	学級活動	月	学校行事	月	特別活動	月

中学校　第2学年　道徳教育全体計画の別葉

道徳教育の重点目標
人権についての理解を深め、意識を高めるとともに、人間尊重意識を高めるとともに、人間尊重の精神を実現していこうとする態度を養う。

学年の重点目標
①他人の気持ちや相手の立場を理解し行動する態度を養う。　②社会の中で、ともに生きる力を身につける。

	国語	月	社会	月	数学	月	理科	月
A 主として自分自身に関すること								
自主、自立 自由と責任	アイスプラネット	4			式の計算、連立方程式、一次関数とグラフ、確率の意味	45 72		
節度、節制								
向上心、個性の伸長								
希望と勇気、克己と強い意志	見えないだけ	4			一次関数の利用 場合の数と確率	9 2		
真理の探究、創造			大航海時代によって結び付く世界 日本の姿	5 6	文字式・連立方程式の利用、一次関数と方程式、　証明・三角形と四角形	4 7 11	電気の世界 化学変化と物質の質量	1〜 6
B 主として人との関わりに関すること								
思いやり、感謝								
礼儀			天下泰平の世の中	11				
友情、信頼	「走れメロス」	1						
相互理解、寛容			大航海時代によって結び付く世界	5				
C 主として集団や社会との関わりに関すること								
遵法精神、公徳心			欧米諸国における近代化	12				
公正、公平、社会正義								
社会参画、公共の精神								
勤労								
家族愛、家庭生活の充実	「字のない葉書」	10						
よりよい学校生活、集団生活の充実								
郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度			戦乱から全国統一へ、天下泰平の世の中、日本の諸地域	9 10 11				
我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	扇の的 仁和寺にある法師 短歌に親しむ	11 12 7	新しい価値観の下で 日本の諸地域	1 9 〜				
国際理解、国際貢献	モアイは語る	11	開国と幕府の終わり	12			化学変化と 原子分子 電流の性質	4〜 1
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること								
生命の尊さ								
自然愛護	クマゼミ増加の原因を探る	6					天気とその変化	10 〜
感動、畏敬の念							天気とその変化	10 〜
よりよく生きる喜び								
	国語	月	社会	月	数学	月	理科	月

	英語	月	音楽	月	美術	月	保健体育	月
A 主として自分自身に関すること								
自主、自立 自由と責任					金属で表現		「安全な運動やスポーツの行い方」	
節度、節制			校歌	4				
向上心、個性の伸長	our Project	12	コンクールの練習	9 10			体力テスト、 水泳、陸上競技、 器械運動	
希望と勇気、克己と強い意志	our Project	2					持久走	
真理の探究、創造					活を彩るデザイン 作品		ダンス	
B 主として人との関わりに関すること								
思いやり、感謝			コンクールの練習	9 10			球技	
礼儀			コンクールの練習	9 10				
友情、信頼	Start of a New School	4	コンクールの練習	9 10			球技	
相互理解、寛容					作品鑑賞		球技	
C 主として集団や社会との関わりに関すること								
遵法精神、公徳心							「交通事故の現状と原因」「傷害の原因と防止」「交通事故の防止」	
公正、公平、社会正義	Live Life in True Harmony	11					「犯罪被害の防止」「運動やスポーツが心身及び社会性に及ぼす効果」	
社会参画、公共の精神							「自然災害に備えて」 「喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ」	
勤労	Work Experience	10						
家族愛、家庭生活の充実								
よりよい学校生活、集団生活の充実							集団行動、球技 「運動やスポーツが心身及び社会性に及ぼす効果」	
郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	Our Project	9	市民歌	4				
我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度			国歌	4	日本の伝統工芸			
国際理解、国際貢献	Taste of Culture Friendship beyond Time and Border	6 12	ヴィヴァルディ バッハ ベートーヴェン		西洋美術史			
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること								
生命の尊さ	Gon,the Little Fox A Hope for Lasting	7 2			アニメーションで表現		「応急手当の意義と基本」 「きずの手当て」	
自然愛護	Leave Only Footprints	5						
感動、畏敬の念								
よりよく生きる喜び							「喫煙と健康」 「飲酒と健康」 「薬物乱用と健康」	
	英語	月	音楽	月	美術	月	保健体育	月

	技術	月	家庭	月	総合的な学習	月	学級活動	月	学校行事	月	特別活動	月
A 主として自分自身に関すること												
自主、自立 自由と責任	材料と加工の技術	4 〜	衣生活と住生活と自立、食生活と自立	4〜 12							協議会活動	通 年
節度、節制												
向上心、個性の伸長	材料と加工の技術	4 〜			KGノート	4 〜			体育大会 （応援合戦） 合唱コンクール	9 10	生徒会活動 全校集会	通 年
希望と勇気、克己と強い意志					進路学習	1〜						
真理の探究、創造												
B 主として人との関わりに関すること												
思いやり、感謝							班活動 仲間づくり	4 5				
礼儀					キャリア学習 （職場体験）	7						
友情、信頼					宿泊学習	6	班活動 仲間づくり	4 5	体育大会	9		
相互理解、寛容					宿泊学習	6	班活動 仲間づくり	4 5	体育大会	9		
C 主として集団や社会との関わりに関すること												
遵法精神、公徳心							清掃活動	通 年				
公正、公平、社会正義												
社会参画、公共の精神					キャリア学習 （職場体験）	7	清掃活動	通 年				
勤労					キャリア学習 （職場体験）	7						
家族愛、家庭生活の充実												
よりよい学校生活、集団生活の充実							仲間づくり	4	体育大会 合唱コンクール	9 10	生徒会活動	通 年
郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度			衣生活と住生活と自立、食生活と自立	4〜 12								
我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度			衣生活と住生活と自立、食生活と自立	4〜 12								
国際理解、国際貢献												
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること												
生命の尊さ	作物の栽培				平和学習 （オキナワ）	7						
自然愛護	材料と加工の技術	4 〜	身近な消費生活と環境	2〜 3								
感動、畏敬の念	作物の栽培											
よりよく生きる喜び			衣生活と住生活と自立、食生活と自立	4〜 12	平和学習	7					生徒会活動	通 年
	技術	月	家庭	月	総合的な学習	月	学級活動	月	学校行事	月	特別活動	月

中学校 第3学年 道徳教育全体計画の別葉

道徳教育の重点目標
人権についての理解を深め、意識を高めるとともに、人間尊重意識を高めるとともに、人間尊重の精神を実現していこうとする態度を養う。

学年の重点目標
①公正な判断力と社会連帯の精神を養う。　②公共の立場から、考え行動する態度を養う。

	国語	月	社会	月	数学	月	理科	月	英語	月	音楽	月	美術	月	保健体育	月	技術	月	家庭	月	総合的な学習	月	学級活動	月	学校行事	月	特別活動	月
A 主として自分自身に関すること																												
自主、自立 自由と責任			日本国憲法と 基本的人権	10	根号をふくむ式の計算 平方根の利用	6							平面作品		「医薬品の有効利用」 「休養、睡眠と健康」		情報に関する技術	4 ～			キャリア教育 （進路学習）	通 年			修学旅行	6	協議会活動	通 年
節度、節制			経済のしくみと 消費生活	11			自然と人間	1	Good Night. Sleep Tight	5	校歌	4			「食生活と健康」 「生活習慣病とその予防」 「運動と健康」						面接練習	1						
向上心、個性の伸長	あたしを束ねないで	2							A Hot Sport Today	6	コンクールの練習	9 10			体力テスト、水泳、 陸上競技、球技		情報に関する技術	4 ～			KGノート キャリア教育 （進路学習）	4 ～			体育大会 （応援合戦） 合唱コンクール	9 10	生徒会活動 全校集会	通 年
希望と勇気、克己と強い意志					式の計算と因数分解 平方根、二次方程式の 利用、三平方の定理	56 91					卒業の歌				持久走						キャリア教育 （進路学習）	通 年						
真理の探究、 創造	人工知能との未来 人間と人工知能の 創造性		現代社会の 見方・考え方	?	式の計算の利用、 二次方程式、関数と グラフ、三平方の定理	57 12	運動とエネルギー	9					立体作品															
B 主として人との関わりに関すること																												
思いやり、感謝	握手	4					生命の連続性	4			コンクールの練習	9 10			体つくり運動				家族・家庭と 子どもの成長	4～			班活動 仲間づくり	4 5	修学旅行	6		
礼儀											コンクールの練習	9 10									キャリア学習 （進路指導）	通 年						
友情、信頼											コンクールの練習	9 10			球技						学年お別れ会	3	班活動 仲間づくり	4 5	修学旅行 体育大会	6 9		
相互理解、寛容			国家と国際社会	2					Sign Language, Not Just Gestures!	7					陸上球技		情報に関する技術	4 ～			合唱コンクール	10	班活動 仲間づくり	4 5	修学旅行 体育大会	6 9		
C 主として集団や社会との関わりに関すること																												
遵法精神、 公徳心			敗戦から立ち直る日本 日本国憲法	6 9～			科学技術と人間								体つくり運動		情報に関する技術	4 ～			体育大会取組み	9	清掃活動	通 年				
公正、公平、 社会正義	故郷	9	高まるデモクラシーの 意識、日本国憲法と 基本的人権	6 10			科学技術と人間								球技 「喫煙・飲酒・ 薬物乱用のきっかけ」						平和学習							
社会参画、 公共の精神			高まるデモクラシーの 意識	6			科学技術と人間								「保健、医療機関の 利用」				家族・家庭と 子どもの成長	4～	キャリア学習 （進路指導）	通 年	清掃活動	通 年	修学旅行	6		
勤労			高まるデモクラシーの 意識、 生産の場としての企業	6 12			科学技術と人間								球技													
家族愛、 家庭生活の充実		10	日本国憲法と基本 的人権、財政と国民 の福祉	10 2			科学技術と人間												家族・家庭と 子どもの成長	4～	修学旅行	7						
よりよい学校生活、 集団生活の充実			アジアと太平洋に 広がる戦線	6			科学技術と人間								集団行動 球技		情報に関する技術	4 ～					仲間づくり	4	体育大会 合唱コンクール	9 10	生徒会活動	通 年
郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	俳句の可能性	6	私たちと現代社会	9			自然と人間	1			市民歌	4																
我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	和歌の世界	11	私たちと現代社会	9			自然と人間	1	Bentos Are Interesting	4	国歌	4	彫刻について		ダンス													
国際理解、 国際貢献	温かいスープ	2	第一次世界大戦と民族 独立の動き、私たちと 国際社会	5 2～			持続可能な社会を 目指して	2	The Story of Chocolate	9	ヴィヴァルディ バッハ ベートーヴェン		鑑賞															
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること																												
生命の尊さ	世界はうつくしいと	4	第一次世界大戦と民族 独立の動き、アジアと 太平洋に広がる戦闘	5 2～			生命の連続性	4	Faithful Elephants	7					「感染症とその予防」 「性感染症とその予防/ エイズ」		作物の栽培				平和学習 （ヒロシマ）	7			平和学習	7		
自然愛護	作られた「物語」を 超えて	6	国際社会の課題と 私たちの取り組み	3			自然と人間	1	The Great Pacific Garbage Patch	10							材料と加工の技術	4 ～										
感動、畏敬の念	挨拶	9					自然と人間	1									作物の栽培											
よりよく生きる喜び			生産の場としての企業 財政と国民の福祉	12 2			地球と宇宙		Is AI a Friend or an Enemy?	12					「喫煙と健康」「飲酒と健康」「薬物乱用と健康」 「共に健康に」						平和学習	7			平和学習	7	生徒会活動	通 年
	国語	月	社会	月	数学	月	理科	月	英語	月	音楽	月	美術	月	保健体育	月	技術	月	家庭	月	総合的な学習	月	学級活動	月	学校行事	月	特別活動	月

朝学習【1年生】

【目　標】

学習習慣を身につけ、基礎学力の定着を目指す。

自己採点により学習理解を深め、どの部分につまづきが生じているのかを生徒自らの気づきと結び付ける。

【計　画】

1時間目開始前15分間を利用し、5教科の授業で実施した学習範囲に沿った部分の復習を行う。

基本的には1日1教科とし、生徒自ら解答を参考に〇つけを行う。

	国語	社会	数学	理科	英語
第1回目	漢字・語句と詩の基本	日本地理の復習	整数・小数・分数の計算（1）	生物のつくりとはたらき	あいさつ/アルファベット（大文字）
第2回目	漢字・語句と物語の基本	世界地理の復習	整数・小数・分数の計算（2）	ものの性質	アルファベット（小文字）
第3回目	漢字・語句と説明文の基本	歴史の流れと位置の復習	倍数・約数，割合,比，速さ	地球のかんきょうと宇宙	英単語（教科・週）
第4回目	漢字・語句の基本	歴史の資料とい人物の復習	平面図形，立体	いろいろな力と電気のはたらき	英単語（月・色）/名前
第5回目	物語文を読み取る	世界の姿①	正の数・負の数	身のまわりの生物の観察	I am Meg Brown.
第6回目	説明文を読み取る	世界の姿②	正の数・負の数の加法，減法	花のつくり	Are you from Sydney?
第7回目	漢字・語句を身につける	日本の姿	加法と減法の混じった計算	植物のなかま	I am not from Sydney.
第8回目	随筆を読み取る	世界各地の人々の生活と環境①	正の数・負の数の乗法，除法/乗法と除法の混じった計算	動物のなかま	I can read *hiragana* .
第9回目	物語文を読み取る	世界各地の人々の生活と環境②	いろいろな計算/数の世界のひろがりと四則計算	いろいろな物質	This is a fish market.
第10回目	説明文を読み取る	世界の諸地域　アジア州①	文字を使った式	物質の密度	He is in Class 1B.
第11回目	漢字・語句を身につける	世界の諸地域　アジア州②	文字式の加法，減法	気体の性質	What is this?
第12回目	小説文を読み取る	世界の諸地域　ヨーロッパ州	文字式と数の乗法，除法	物質の状態変化	Where do you practice?
第13回目	説明文を読み取る	世界の諸地域　アフリカ州	関係を表す式	水溶液（1）	Come to the front./What time is it?
第14回目	小説文を読み取る	世界の諸地域　北アメリカ州	方程式とその解/方程式の解き方	水溶液（2）	Meg is by the bench.
第15回目	詩を味わう	世界の諸地域　南アメリカ州	いろいろな方程式/比と比例式	光の性質	Takuya lives in Cebu.
第16回目	文法の知識を身につける（言葉の単位）	世界の諸地域　オセアニア州	方程式の利用	凸レンズと像	Do you know him?
第17回目	古典に親しむ	人類の出現と古代文明	関数/比例	音の性質	Which does she speak,English or Japanese?
第18回目	随筆を読み取る	日本の成り立ち	反比例/比例,反比例の利用	力のはたらき（1）	I am watching TV.
第19回目	小説文を読み取る	飛鳥時代	直線と図形/移動	力のはたらき（2）	How nice!
第20回目	説明文を読み取る	奈良時代	基本の作図	火山	She wants to help people in need.
第21回目	漢字・語句を身につける	平安時代	円とおうぎ形	地震	I visited the museum last Sunday.
第22回目	古典を味わう	鎌倉幕府の成立と武士の文化	立体と空間図形	地層	You were a starter in the last game.
第23回目	文法の知識を身につける（文の組み立て）	元軍の襲来と室町幕府	立体の体積と表面積	堆積岩	There is a campground near the lake.
第24回目	文法の知識を身につける（単語の分類）	団結する民衆と戦国大名	データの活用	化石と大地の変動	会話表現

朝学習【2年生】

	国語	社会	数学	理科	英語
第1回目	詩を読む	世界の姿と日本の姿	正の数・負の数	生物のなかま①	be動詞①（現在）
第2回目	随筆を読む	世界各地の人々の生活	文字の式	生物のなかま②	一般動詞①（現在）
第3回目	小説を読む	世界の諸地域	方程式	物質のすがた①	canの文
第4回目	説明文を読む	政治の流れ	比例と反比例	物質のすがた②	名詞／a, an, the／代名詞
第5回目	古文を読む	経済・社会の流れ	平面図形	身のまわりの現象①	命令文
第6回目	漢字の読み書きと漢字の知識	文化の流れ	空間図形	身のまわりの現象②	いろいろな疑問文
第7回目	作文の基本	地域の調査	データの活用	大地の変化①	現在進行形
第8回目	文法	日本の自然環境	式の計算①	大地の変化②	一般動詞②（過去）
第9回目	文学的文章の読み方①	日本の人口・資源・エネルギー	式の計算②	化学変化と物質の成り立ち	be動詞②（過去）／過去進行形
第10回目	説明的文章の読み方①	日本の産業・結び付き・地域区分	文字式の利用	物質のつくりと化学反応式	未来の文①
第11回目	文学的文章の読み方②	日本の諸地域　九州地方	連立方程式①	化学変化と熱／化学変化と質量①	未来の文②
第12回目	説明的文章の読み方②	日本の諸地域　中国・四国地方	連立方程式②	化学変化と質量②	いろいろな文
第13回目	漢字の読み書きと熟語の知識	日本の諸地域　近畿地方	連立方程式の利用	顕微鏡／細胞のつくり	接続詞①
第14回目	文学的文章の読み方③	日本の諸地域　中部地方	1次関数とグラフ①	光合成と呼吸	接続詞②
第15回目	説明的文章の読み方③	日本の諸地域　関東地方	1次関数とグラフ②	葉・茎・根のつくりとはたらき	不定詞①
第16回目	随筆を読み味わう	日本の諸地域　東北地方	1次関数と方程式	消化と呼吸／血液の循環と排出	不定詞②
第17回目	古文を読み味わう	日本の諸地域　北海道地方	1次関数の利用	感覚器官と動物の反応	助動詞
第18回目	小説を読み味わう	結びつく世界と全国統一	平行と合同	回路と電流・電圧	動詞のing形
第19回目	論説文を読み取る	江戸幕府の成立と鎖国	証明	回路の抵抗／電流とエネルギー	会話表現①
第20回目	短歌を読み味わう	産業の発達と幕府政治の改革①	三角形	電流と磁界	不定詞③／接続詞③
第21回目	古文を読み味わう	産業の発達と幕府政治の改革②	四角形①	電流と電子／直流と交流	比較①
第22回目	文法①(活用のない自立語)	革命時代の欧米／開国と幕府の滅亡	四角形②	気象観測と気圧	比較②
第23回目	文法②(用言の活用)	明治維新と立憲国家の成立	場合の数と確立	大気中の水蒸気／前線と天気	受け身
第24回目	文法③(付属語)	日清・日露戦争と近代日本の社会	箱ひげ図とデータの活用	日本の天気	会話表現②

朝学習【3年生】

【目　標】

学習習慣を身につけ、基礎学力の定着を目指す。

自己採点により学習理解を深め、どの部分につまづきが生じているのかを生徒自らの気づきと結び付ける。

【計　画】

1時間目開始前15分間を利用し、5教科の授業で実施した学習範囲に沿った部分の復習を行う。

基本的には1日1教科とし、生徒自ら解答を参考に○つけを行う。

	国語	社会	数学	理科	英語
第1回目	漢字の読み書き語句の知識（1）	中世までの日本	2年の復習（1）	2年の復習（1）	be動詞
第2回目	漢字の読み書き熟語の知識（1）	近世の日本	2年の復習（2）	2年の復習（2）	一般動詞
第3回目	漢字の読み書き語句の知識（2）	開国と近代日本の歩み	2年の復習（3）	2年の復習（3）	進行形・命令文
第4回目	漢字の読み書き熟語の知識（2）	第一次世界大戦と日本	2年の復習（4）	2年の復習（4）	疑問詞を用いた疑問文
第5回目	漢字の読み書き語句の知識（3）		2年の復習（5）	2年の復習（5）	未来の文・助動詞
第6回目	漢字の読み書き語句の知識（4）	現代の日本と世界	2年の復習（6）	2年の復習（6）	接続詞
第7回目	漢字の読み書き語句の知識（5）	私たちと現代社会	多項式の計算	力のはたらき、物体の運動（1）	不定詞（1）・動名詞
第8回目	漢字の読み書き語句の意味・用法	人間の尊重と　日本国憲法(1)	因数分解、　式の計算の利用	物体の運動（2）	比較の文
第9回目	漢字の読み書き形の似た感じ	人間の尊重と　日本国憲法(2)	平方根	仕事とエネルギー	受け身
第10回目	漢字の読み書き慣用句	現代の民主政治	根号をふくむ式の計算	生物の成長とふえ方	現在完了（1）
第11回目		国会、内閣	２次方程式	遺伝の規則性と遺伝子、 生物の種類の多様性と進化	現在完了（2）
第12回目	漢字の読み書き類義語・対義語（1）	裁判所、三権分立		水溶液とイオン、化学変化と電池	いろいろな時制
第13回目	漢字の読み書き四字熟語	地方の政治と自治		酸・アルカリとイオン	不定詞（2）
第14回目	漢字の読み書き熟語の組み立て	くらしと経済、生産と労働	相似な図形	天体の動き（1）	不定詞（3）
第15回目	漢字の読み書き複数の音訓をもつ漢字	市場経済と金融	平行線と比　相似な図形の面積と体積	天体の動き（2）	関係代名詞（1）
第16回目	漢字の読み書きことわざ・故事成語	財政と福祉、環境保全とこれからの経済	円	月と惑星の運動、宇宙の中の地球	関係代名詞（2）
第17回目		国際社会のしくみ	三平方の定理	生物どうしのつながり、自然界を循環する物質	名詞を修飾する分詞
第18回目	漢字の読み書き類義語・対義語（2）	国際社会と地球社会	標本調査	自然環境と人間、科学技術と人間	仮定法・会話表現

17. 総合的な学習の時間　全体計画

教育目標・方針

主体性と協調性を持った生徒の育成

（1）自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成（自主）
（2）命や人権を尊重し、共に生きる生徒の育成（共生）
（3）地域や社会に貢献できる生徒の育成（貢献）

総合的な学習の目標

（1） 自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
（2） 情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方等の学び方やものの考え方を身につけさせる。
（3） 自分の生き方についての自覚を深める。

育 て た い 力

○自ら課題を見つける力
自分の置かれている状況を把握し、積極的に自分の内外に情報をもとめ、自分の課題を見つけていく姿勢や力。
○協力して物事に取り組む力
集団の中で自己実現を図るためには、互いに考えを出し合い、よりよいものを求めていく姿勢が必要。そのための相手の意見をしっかりと聞く力や、自分の意見をまとめて 相手に伝える力。
○自らを表現する力
筋道を立てて論じる力や適切な話し方、効果的な表現を考える力。
○目的に向けて行動する力
明確な目的を持ち、計画し、粘り強く取り組む力。自ら積極的に行動していく力。

学習内容と学習計画

	1年	2年	3年
学習内容と学習計画	＊興味や関心を引く学習教材を使用しながら、学習する姿勢・学習スタイル・学習の仕方を身につけさせる。 ＊ 広い視野をもって文化を理解し、異なる文化・習慣を持った人々と偏見を持たずに自然に交流し、共に生きていくための資質や能力の育成を図る。	＊生徒の興味関心を元に内容を決定し、学習意欲を引き出す。 ＊職業体験学習をとおして生活の視野を広げ、社会との関わり方やマナーを身につける。 ＊高度情報社会が進展していく中で、情報の発信・受信の基本的ルールを身につけるなど、生徒があふれる情報を主体的に選択・活用できるようにする。	＊よりよい生活の創造のために、主体的に行動し、実践する。 ＊他者を尊重する態度や他人を思いやる気持ちを育てる。
前期	・学習の仕方を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。	・宿泊学習に向け、班やクラスの集団づくりを進める中で，クラスに必要な課題を見つけ，それを解決する取り組みを考え，実行していく。 ・平和について、知識を深める。	・進路、生き方について考える。 ・暮らし方について考える。
後期	・世界の国々の特徴を調べ発表をおこなう。 ・外国の方々を招き、交流会を開く。	・職場体験学習(事前事後学習含む) ・社会と関わるためのあいさつやマナーについての学習。	・障がいとともに生きる子どもたちについて考える。 ・手話について学習する。

総合的な学習の時間の計画

時間割上の1時間分 （ 35時間 ）

月	時	1 年 内 容	月	時	2 年 内 容	月	時	3 年 内 容
4	3	学級の組織作り	4	3	学級の組織作り	4	3	学級の組織作り
5	3	クラスの集団づくりに向けて 学習基礎（学習の仕方） テストの受け方・勉強の計画	5	3	クラスの集団づくりに向けて 学習の充実についての取り組み	5	3	クラスの集団づくりに向けて
6	4	班やクラスの集団づくりに 向けての取り組み 平和学習	6	4	宿泊学習に向けての取り組み 学習の充実についての取り組み	6	4	修学旅行に向けての取り組み 平和学習
7	3	平和学習 学習の充実についての取り組み 1学期の振り返り	7	3	学習の充実についての取り組み 体育大会、文化祭に向けての 取り組み	7	3	平和学習
8			8			8		
9	4	体育大会に向けての取り組み	9	4	体育大会に向けての取り組み	9	4	体育大会に向けての取り組み
10	4	MFの取り組み	10	4	MFの取り組み	10	4	MFの取り組み
11	4	国際理解についての取り組み	11	4		11	4	障がいを持って生きることに ついて考える
12	2	2学期を振り返る	12	2	社会と関わるあいさつや マナーについて	12	2	手話について
1	3	進路について	1	3	様々な職業についての学習 職業選択と自分の進路について	1	3	暮らしについて
2	3	ふるさと学	2	3		2	3	進路について
3	2	1年間を振り返る	3	2	修学旅行に向けて	3	2	卒業にあたって

まとめ取りの時間分 （ 1年15時間　2，3年35時間 ）

学期	1 年 内 容	2 年 内 容	3 年 内 容
1学期	・学級づくりの取り組み ・集団づくりの取り組み	・学級づくり、集団づくりの取り組み ・宿泊学習に向けての取り組み	・修学旅行に向けての取り組み ・体育大会に向けての取り組み ・応援団の取り組み
2学期	・体育大会の取り組み ・MF ・国際理解の取り組み	・体育大会の取り組み ・MF ・職場体験学習	・体育大会の取り組み ・進路選択に向けての取り組み ・手話について
3学期	・ふるさと学	・修学旅行に向けて（平和学習）	・進路に関する取り組み ・卒業式に向けての取り組み

18. 図書館教育

A. 目　標

図書館利用の活発化とマナーの向上に努める。
朝読書や校内読書感想文コンクールによって読書に関心をもたせる。

B. 年間計画

	月	行	事
1学期	4	前年度図書整理	図書館指導
	5	購入図書希望調査(教師用)	図書整理
	6	図書館利用のマナーの徹底 購入図書の整理(受け入れ整理)	図書だよりの発行 読書ＰＲ用ポスター作成
	7	夏休み長期貸出	図書だよりの発行 図書整理(今年度購入分)
2学期	9	読書感想文コンクールの出品作品の選考	図書だよりの発行 図書整理
	10	読書感想文集作成	図書だよりの発行
	11	読書週間の校内ＰＲ	図書だよりの発行
	12	冬休み長期貸出	図書だよりの発行
3学期	1	市教研読書感想文集作成	図書だよりの発行 図書整理
	2	次年度の購入希望図書ｱﾝｹｰﾄ	図書だよりの発行
	3	読書賞の表彰、点検と反省	図書整理

19. 環境整美

A．目　標

1　学習環境の整美と校内の美化に努め、美的情操を高める。

2　公共物を大切にし、身のまわりの整理整頓をする態度を身につける。

3　生徒・保護者・教職員が一体となって、美しい環境づくりに取り組む。

B．努力目標

1　営繕係・・・・校内の整美点検に努める

2　清掃係・・・・清掃活動の充実に努める

3　学校園係・・・校内の緑化運動に努める

C．年間計画

一学期	備品・設備・校具の点検整備	清掃分担の作成 清掃用具の点検 学期末清掃案の作成	花壇の点検、整美
二学期	備品・設備・校具の点検整備	清掃用具の点検 学期末清掃案の作成	花壇の点検、整美
三学期	備品・設備・校具の点検整備	清掃用具の点検 学期末清掃案の作成	花壇の点検、整美

20. 情報教育

A. 目　標

①情報教育に関する研修を推進する。

②芸術鑑賞に関する資料を収集し、各学年に提供する。

③視聴覚機器の積極的な活用を推進する。

B. 年間計画

	月	行事
1学期	4	備品の点検と整備　今年度の全体計画作成　消耗品購入計画　CDラジカセの配備
		クロムブックの学年移動
	5	新規購入備品の検討　芸術鑑賞の資料収集　HDDムービーカメラのデータの保管
	6	機器の整備　芸術鑑賞の資料収集　消耗品購入
	7	備品の点検　視聴覚研修
2学期	9	備品の点検　消耗品購入計画
	10	消耗品購入
	11	機器の点検整備
	12	備品整理
3学期	1	今年度の反省　消耗品購入
	2	新年度に向けて機器の点検と確認
	3	機器の整備　廃棄備品の確認　消耗品の確認　HDDムービーカメラのデータをDVDに保存

C.情報活用能力観点別到達目標一覧　情報の科学的な理解

3観点	8要素	大項目	中項目	中学校
情報の科学的な理解	情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解	コンピュータの特性や仕組み	コンピュータの基本構成	目的に応じてソフトウェアを利用することができる。（技術）
			周辺機器	周辺機器の機能特徴、活用方法が分かる。（技術）
		メディアの特性や仕組み	情報デジタル表現と特徴	デジタル化した情報を処理できる。（技術）
			伝達メディアの特性や仕組み	各メディアの長所と短所の活用方法が分かる。（技術）
		情報通信ネットワークの特性や仕組み		情報通信のネットワークの特性や仕組みが分かる。（技術・英語）
		計測・制御の仕組み	プログラミング	簡単なプログラミングができる。（技術）
			データベース	データベースの整理整頓ができる。（技術）
			モデル化とシミュレーション	情報を理解し問題解決ができる。（技術）
	情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解	情報活用の評価・改善		情報活用方法について改善し考えることができる。（技術）

21. 特別活動の重点

A. 努力目標

・ 生徒のことは生徒にかえし、自分の問題としてとらえさせ、解決していく活動を具体的に推進し、生徒の自治能力の育成に努める。
・「生徒を変えるのは生徒である」ということを原則とし、生徒たちの力を引き出し組織していくことで、学級・学年・学校の現状をより良いものに変えていけるように支援する。

B. 重点目標

1. 学級集団づくり
   (1) すべての生徒が話し合いに参加できる場を設定する。
   (2) 進んで自分の考えや思いを言える雰囲気を作る。
   (3) 学級内の問題を取り上げ、考え、解決させていく取り組みをていねいに、ねばり強く進めていく。
      ※ 学級活動を充実させる。
      ※ 班長会議を活性化する。

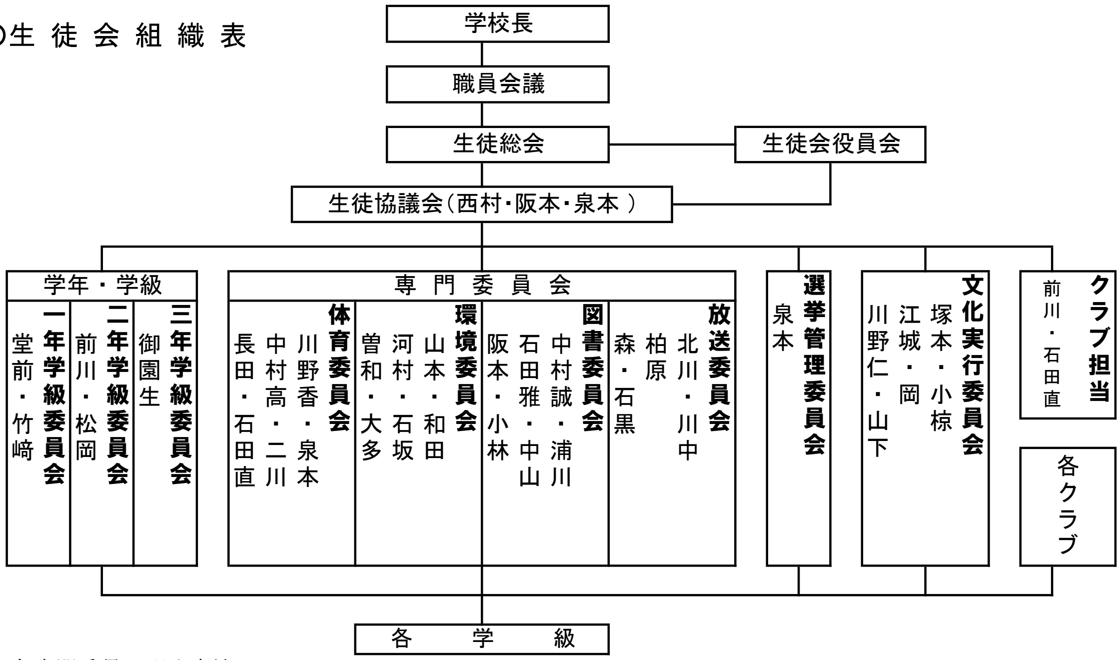
2. 学年集団づくり
   (1) 行事に取り組みながら学年集団を作る。
   (2) 学年内の問題について考えられる場を設定し、組織的な動きを作る。
      ※ 学年集会を充実させる。
      ※ 学年学級委員会を活性化する。

3. 生徒会活動
   (1) 生徒会役員が中心となり、きまりや約束事を自主管理し、より良い学校生活づくりを進められるように指導する。
   (2) 学校内の問題について考えられる場を設定、話し合える組織的な動きを作る。
      ※ 生徒集会を充実させる。
      ※ 生徒協議会を活性化する。

4. リーダーの育成
   さまざまな活動を通し、学級、学年、学校を作っていくリーダーを育てる。

5. 地域や社会への貢献
   地域や社会へ貢献し、地域の誇りとなる学校をめざす。

〇生 徒 会 組 織 表



各専門委員の選出方法

＊学級委員　２名（男１名　女１名）　＊図書委員　２名　＊選挙管理委員１名
＊体育委員　２名（男１名　女１名）　＊放送委員　１名
＊環境委員　２名　＊文化実行委員　２名（男１名　女１名）**【前期のみ】**

○部活動規定（課外クラブ）及び活動方針

１．部活動の目的

部活動は、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養、礼儀や挨拶など社会性の向上等に資するものであり、単に、知識・技術・競技力を向上させるだけでなく、多様な活動・経験を通して、人間的な成長をめざすことを目的とする。

２．部活動の意義

① 課外の時間を有効に活用する。
② 自主的な活動を通し、個性を伸ばし豊かな人間性を育てる。
③ クラブとしての結束をはかり、集団生活のあり方を学ぶ。
④ 精神と肉体を鍛え、技能・技術の向上をめざす。
⑤ 正しいマナー、あいさつ、言葉遣いを学ぶ。

３. 運営について

① 年間の活動計画並びに毎月の活動計画を作成し、計画的な活動を行うとともに、保護者にも提示し理解と協力を求める。
② 部活動顧問は複数で担当し、過度の負担が生じないようにする。

４．休養日及び活動時間の設定について

① 休養日は週１日以上設定する。
② 週当たり平日は少なくとも１日（ノークラブデー）、土曜日及び日曜日のうち少なくとも１日を休養日とすることを基本とするが、対外試合等で困難な場合にあっても、学校全体で部活動を行わない日（定期考査期間等）を含め、部ごとに年間で104日以上設定する。
③ １日の活動時間は、夏季時間帯の平日では長くとも２時間程度、冬季時間帯の平日では１時間程度、また、学校の休業日（学期中の週末を含む）は３時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。
④ 学校の休業日に練習試合等で４時間以上の活動となる場合は、生徒の健康管理に十分配慮して、休憩時間を適切に設定し、無理のないよう活動するとともに、その後に休養日を設けるなど、学校生活に支障のないように配慮する。

５．部活動規定

① クラブは顧問教師と部活動生徒で構成する。
② 部活動予算は、代表者（顧問）会議で審議し、学校長の承認を得て決定する。
③ 顧問の指導を原則とする。特別の事情の場合は、職員に連絡をし、承認を得る。
部活動係の教師と他のクラブ顧問は協力して責任をもって指導にあたる
④ クラブ練習・終了時刻　（天候・時候により変更）・停止期間

期　　間	クラブ終了時刻	下校時刻
２月～９月	17:15	17:30
１０月～１月	16:45	17:00
家庭訪問、懇談会、 テスト最終日、 午前中授業	16:45	17:00

※午前中で授業の終わる時
家庭訪問・懇談期間中
テスト最終日
部活終了 ： 16時45分
下校時刻 ： 17時00分

＊ 日・祝日　顧問の指導による
＊ 早朝練習　顧問の指導により、朝学活・学年集会に支障のないようにすること
時間帯　7時00分～8時00分（原則定期テスト1週間前は停止）
＊ 停止期間　定期テスト1週前は原則練習を停止する

⑤ 土・日・祝日の活動は顧問が必要と認める場合、学校長の承認を得て活動することができる。
また、終了時刻は上の表を参考にする。
⑥ 職員研修の日は原則として活動しない。
⑦ 部外者の参加は、顧問の承認を得て行う。ただし、責任者にはなれない。
⑧ 派遣費は公的行事に支給される。ただし、正選手（代表者）と補欠を含め16名を限度とする。
（ただし、クラブにより人数・金額の上限あり）
⑨ キャプテン会議を部活動係の教師、クラブ顧問、代表生徒間で開き、種々の問題の解決をはかり、クラブ活動の発展を期す。
⑩短縮日に昼食を忘れた場合、自分で外へ買いに行ったり、家に食べに帰ったりすることは禁止とする。
（忘れた場合は顧問に申し出ること。昼食は顧問に指定された場所で食べる事を原則とする）
⑪買い食いをしない。
⑫下校時刻を守る。
⑬練習場所・更衣場所は、使用したクラブで責任を持って後始末をすること。
⑭更衣場所は、各クラブで決められた場所を使用すること。
⑮貴重品は、必要でない場合持ってこない。どうしても必要な貴重品は各クラブ顧問にあずける。

6、指導について
① 部活動の指導に当たって、体罰は、いかなる理由があっても、
決して許されるものではない。また、威圧的な言動等による指導によって、生徒の自発性を損なうことの無いよう考慮して指導に当たること。
② 適切な指導方法、コミュニケーションの充実等により、生徒の意欲や自主的、自発的な活動を促す。

7、その他
① 事故の未然防止のため、施設・設備の点検を定期的に実施する。
② 無理のない安全な活動メニューを心掛け、自主的に行うことを基本とする。
③ 大会参加や練習試合等については、日程等を十分に考慮し、過度な負担とならないようにする。
④ 夏期部活動停止基準
WBGT３１℃を超えた場合は、原則運動部は活動停止
どうしても実施しなければならない場合は、複数の顧問がついて、
15分毎に休憩給水を行い、活動時間は1時間を限度とすること。

○部活動組織表

運動部	顧　問
バスケットボール男子	石田直、石坂、竹﨑、土井
バスケットボール女子	石田雅、長田、中村高、森
卓球　男子	小林、曽和、前川
卓球　女子	大多、松岡、山下
硬式テニス　男子	川野香、中村誠、和田
剣　道	泉本、川中、中山、益本
陸　上	岡、小椋、御園生
サッカー	川野仁、北川、堂前
ソフトテニス	阪本、二川、山本

文化部	顧　問
吹奏楽	河村、塚本、西村
文化① 地歴・家庭科	江城、石黒
文化② 美術・将棋	浦川、柏原

※ 全員顧問制
事務職員・養護教諭は含まない
生徒指導主事・生徒会主担は配慮する
引率は全職員で協力して行う

○ 生徒会活動年間報告

	生徒会	学級委員会	環境委員会	体育委員会	図書委員会	放送委員会	文化実行委員会	選挙管理委員会	応援団	キャプテン会議
一学期	入学式・対面式・離任式の取り組み スローガン作り あいあい活動 応援団の準備 連合生徒会 平和登校	仲間づくり ※年間を通して学年集会の企画運営 学年行事への取り組み	消臭剤作り ｜ 校内または校外の美化活動の取り組み 大掃除 油引き	ラジオ体操 挨拶活動 体育館開放 水泳の授業について 体育大会に向けて （種目説明・エントリー	図書室の利用 マナーの徹底 図書の貸出 図書の整理 読書PR 夏休み期間の貸出について 購入本の整理	昼食時と終学活の放送の企画・運営	合唱に向けての話し合い MFの取り組み クラスのリーダーとしての取り組み 自由曲・伴奏者の決定		団発表 団長募集 団長選挙 リーダー選出 団長会議 リーダー会議 役付け会議 垂れ幕作製	キャプテン会議 クラブ紹介 クラブミーティング キャプテン会議
二学期	体育大会への取り組み 体育大会 あいあい活動 後期役員選挙 MF 小学校体験入学	仲間づくり 体育大会への取り組み 学年行事への取り組み	あいさつ活動 ごみ軽減の取り組み 大掃除・油引き	体育大会の取り組み 学年行事への取り組み	図書の貸出 図書室の飾り作り 図書の整理 ポスター作り 冬休み期間の貸し出しについて おすすめの本のポップ作り	昼食時と終学活の放送の企画・運営 体育大会の取り組み MFの取り組み	MFの企画・運営 全体会の企画・運営 MFの反省	後期役員選挙に向けての取り組み	リーダー会議 役付け会議 応援練習 リハーサル 本番 引継ぎ講習会	キャプテン会議
三学期	あいあい活動 お別れ会・卒業式の取り組み 次年度前期役員選挙	仲間づくり お別れ会・卒業式の取り組み 学年行事への取り組み 1年間の反省	校内または校外の美化活動 大掃除 油引き 1年間の反省	学年行事への取り組み 1年間の反省	図書の貸出 図書の整理 図書便りの発行 お守りづくり おすすめの本のポップ 1年間の反省	昼食時と終学活の放送の企画・運営 1年間の反省		前期役員選挙に向けての取り組み		キャプテン会議

22. 生徒指導部

1　現状と課題

本校は児童数の多い２つの小学校が合わさり、大阪府下でも有数の中規模校となっている。
基本的な生活習慣がしっかりしている生徒も多いが、一方で生活基盤が崩れる中で
さまざまな問題を抱え、それを不登校や問題行動として表出する生徒も少なくない。

（１）基本的生活習慣に対しての指導。
（２）さまざまな理由により不登校になっている生徒への対応。
（３）学習に積極的に取り組ませること。
（４）集団生活の意義を理解させること。

２　生徒指導の重点目標と具体的指導

① 基本的生活習慣（学習習慣）を身につけさせる。
- 時間を守る指導　・あいさつをする指導　・正しい言葉遣いの指導
- 授業規律の指導（小学校との連携）

② きちんとした集団生活が行えるようにさせる。
- きまりを守る指導　・頭髪、服装など身だしなみの指導
- 集会の指導　・部活動の指導
- 公共物を大切にする指導
- クラスの子どもたちとつなげる仲間づくりの指導

③ 善悪の正しい判断力と行動力を身につけさせる。
- 良いことはほめ、制止すべきことに対しては、それを怠らない指導

④ リーダーを育成する。
- クラス、委員会、生徒会、部活動を活性化する指導

⑤ いじめ・不登校対策に取り組む。
- いじめをおこさせないための集会・学年集会・学級での仲間づくりの指導
- 生徒支援委員会との連携
  対応の一本化（生徒指導主事を中心）によって不登校を解消させる。
- 人権教育を通じてこどもたちの人権感覚を養い、他者理解を促す。

以上の目標を達成するために、

○ 生徒との対話による指導をねばり強く続ける。
- 夏季休業期間中に補充学習の必要な生徒を集め、学習の定着をはかる。
- 教室に入れない生徒に対して話し込み指導を授業空き教員が行う。
- 定期的にカウンセリング週間を設ける。

○ 保護者（地域）との連携を密にして、保護者の協力を引き出す。
- 保護者に学校の実態を知ってもらうために参観を行う。
- 問題行動を起こす生徒の保護者へのアプローチ(家庭訪問など)を積極的に行う。
- 学校行事や学年行事があるときには、保護者に来校を願う。

○ 生徒の心に響く道徳的指導を行う。
- 生徒指導だよりを定期的に発行する。
- 全校集会で生徒指導主事中心に成長を促す指導をおこなう。
- あいさつ活動を生徒会本部とタイアップして実施する。
- 美化キャンペーン期間中にボランティア生徒と一緒に実施する。

○ 問題行動の対応として場合によっては、関係諸機関とも連携をとる。
- 河内長野警察や他市警察署との連携
- 富田林少年サポートセンターとの連携
- 子ども家庭センターや子育て支援センターとの連携
- 家庭裁判所調査官との連携
- 保護観察所、保護司、協助員などとの連携

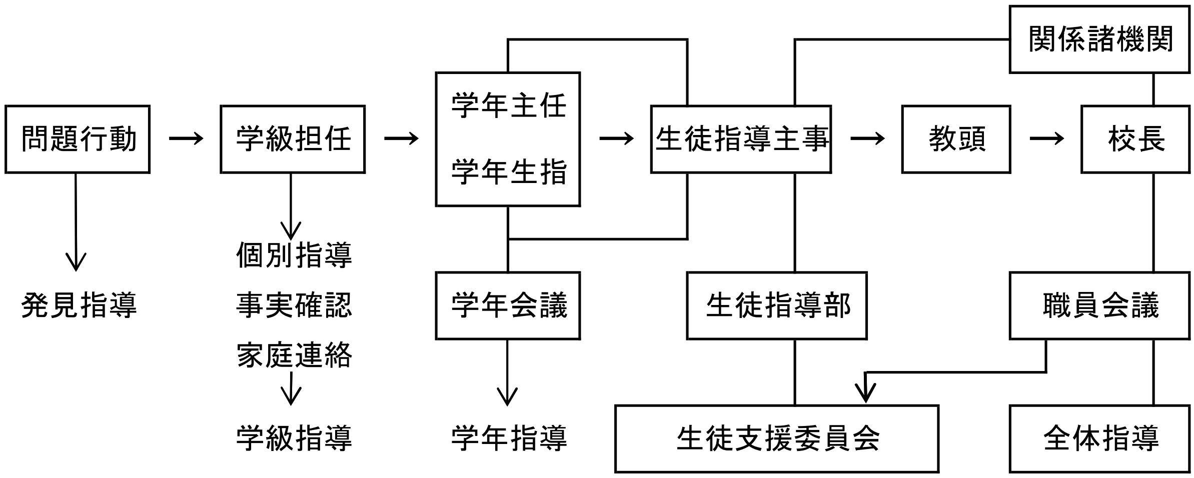
〇緊急生徒指導体制

・問題行動が起こったときは、千代ナビの「問題行動チャート」をもとに、迅速な対応をする。

・いじめが起こったときは、千代ナビの「いじめ対応チャート」をもとに、迅速な対応をする。

・欠席が続いたときは、千代ナビの「欠席対応チャート」をもとに、迅速な対応をする。

・問題の把握
関係生徒から事情を聞き、その事象・背景などを把握する。
・指　導
タイミング・場所・雰囲気などに配慮して指導を行う。
・連　絡
保護者へ、事情説明・指導の報告を行うとともに、職員への連絡を行う。



※ 生徒支援委員会
校長・教頭・首席・教務主任・生徒指導主事・学年主任・児童生徒支援加配・
支援教育コーディネーター・各指導部長

23. 人権教育

目　標

日常の教育活動の中で、人の立場に立って考え、命を大切にする生徒の育成に努める。

1．自分の思いや意見を出せるクラスを作る。

2．互いの違いを認め合い支え合うことの出来る生徒を育てる。

3．差別しない・差別を許さない生徒を育てる。

人権教育の全体計画

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
府・市教育方針
府・市人権教育方針

現代社会からは核家族化、少子化と情報化の中にあって、子どもたちは様々な意味での生活体験が欠如している。従って豊かな生活体験を通し、人としての優しさ豊かさを身につける場を与えていきたい。

学校教育方針

・自ら考え、判断し、行動できる生徒を育成する。

・命や人権を尊重し、共に生きる生徒を育成する。

・地域や社会に貢献できる生徒を育成する。

人権教育の目標

日常の教育活動の中で人の立場に立って考え、命を大切にする生徒の育成に努める。

1　自分の思いや意見を出せるクラスを作る

2　互いの違い異なりを認め支え合える豊かな人間作りを進める。

3　差別をしない・差別を許さない生徒を育てる。

家庭地域の実態

多種多様な環境が混在し家庭により価値観が様々である。

生徒の実態

自己中心的な傾向をもつものも見られるが、総合的には明るく素直である。

保護者・教師の願い

学習だけでなく、委員会活動をはじめ。地域の活動、家庭の手伝いなどの自主的な活動を通じ、他を思いやり優しい心を持った豊かな人間への成長。

学　年　の　重　点　目　標		
1　年	2　年	3　年
人権の尊さに目を開かせ、差別を許さない感性を育てる。相手の立場を理解し、協力しあえる仲間づくりに努める。	人権の学習を通してともに支え合う仲間（集団）づくりに努める。	人権を正しく理解したうえで、今何をしなければならないのかを考えさせる。

各教科	特別活動	その他
教科の特性に応じ、教材の精選と構造化をはかる。 学習に遅れがちな生徒のつまずきの早期発見と、その指導を基本にすえた学習活動を展開する。	相互理解を根底に、自主的な実践を通してよりよい集団の中に生きる自主的自立的態度を養う。	・お互いを思いやり、大切にする態度を養う。 ・新型コロナウィルス感染症に対する正しい知識と理解を深めて、差別を許さない集団づくりを充実させる。
・目標の明確化に努め、教育機器を活用し、効率の高い指導を推し進める。 ・基礎学力の定着をはかるための指導法や指導の機会・場の工夫を行う。 ・指導形態の工夫により、生徒が自主的・意欲的に取り組む学習活動の研究を進める。	集団の一員としての自覚とその役割の遂行を促すとともに、自ら積極的に取り組む自主的態度を養う。	・時と場に応じた正しい言葉づかいや行動を身につけさせる。 ・仲間と共に励まし助け合う姿勢を養う。 ・時間厳守、身の回りの整頓などを含め、基本的生活習慣、行動様式を身につけさせる。

○　人権教育の項目別目標

	年間指導計画		
	1 年	2 年	3 年
目標	・人権の尊さに気づき、差別を許さない心をもつ。相手の立場を理解し、協力し合える仲間作りに努める。 ・人権問題を正しく理解した上で、今何をしなければならないかを考える。		
仲間づくり	一人ひとりを大切にし、人の立場にたって考え、集団の中でおたがいに支えあっていく仲間づくりを進める ○ 学級づくり ○ 校外学習に向けて	一人ひとりを大切にし、人の立場にたって考え、集団の中でおたがいに支えあっていく仲間づくりを進める ○　学級づくり ○　宿泊学習に向けて	一人ひとりを大切にし、人の立場にたって考え、集団の中でおたがいに支えあっていく仲間づくりを進める ○　学級づくり ○　修学旅行に向けて
部落問題	差別と闘う人々の姿を学ぶ ○ 身近な差別	差別と闘う人々の姿を学ぶ 職業と部落問題の関係を学ぶ ○ 就職差別	差別と闘う人々の姿を学ぶ 差別の現実を知る ○ 結婚差別、差別発言
障がい者理解	「障がい」がある人々が抱えている問題について学ぶ。 「障がい」がある人と共に生き、お互いに支えあう集団を育てる ○ フレックスについて	「障がい」がある人々が抱えている問題について学ぶ。 「障がい」がある人と共に生き、お互いに支えあう集団を育てる ○ バリアフリー ○ 職業における障がい者理解	「障がい」がある人々が抱えている問題について学ぶ。 「障がい」がある人と共に生き、お互いに支えあう集団を育てる ○ 手話
平和教育	戦争の被害について学び、平和の尊さを知る	戦争の本質に迫り、日本の過去と現在の姿を学習する	世界の紛争や戦争の現状を踏まえ、大きな視野に立ち、平和の意義について考える
学年別課題	【国際理解】 諸外国の文化に親しみ、日本に住む外国の人々とのふれあいを通じて、お互いを認め合える集団を育てる ○ 在日外国人問題 ○ 世界の現状を知る	【職業体験】 職業体験を通じて自分の進路を考える。いろいろな職業を知る。社会人として、必要なマナーを学ぶ ○ 職業における国籍問題 ○ 職業における男女格差	【福祉問題】 手話学習を通じて、聴力に障がいがある方々の思いや生活を知る。また、自分のできることや、よりよい福祉環境づくりを考える
共生教育	相手との違いを改めて知る中で、ジェンダー意識を持ち、お互いを尊重し支えあう気持ちを持つ ○ LGBT	人の誕生までを科学的に知り、自他の生命の尊さを考える ○ エイズ、性感染症 ○ 異性とのつきあい方 （デートDVなど） ○ LGBT	相手を正しく理解し、社会の一員として、責任のある態度を養う ○ 薬物、妊娠・出産、性感染症 ○ LGBT
進路	将来の夢、身近な目標を持つことにより、今の自分を見つめる	職業体験を通じて自分の進路を考える。また、進学等についての情報、現状を伝える	自分・仲間の進路を大切にできる集団づくりをすすめる

○　人権教育学年別指導計画・研修計画

	1　年	2　年	3　年	人権研修	市人研
4	仲間づくり	仲間づくり	仲間づくり	学年人権研	総会
5	障がい者理解	障がい者理解	平和学習	校内人権研	
6	(共生学習)	共生学習		学年人権研	研究部代表者会議
		(性に関する教育)			校区人権研
	いじめ	いじめ	いじめ		
			進路学習		人権教育講座
					夏季研
7	平和学習	平和学習	仲間と進路		現地学習会
8	平和登校日	平和登校日	平和登校日		大人教夏季研
9	仲間づくり	仲間づくり	仲間づくり	学年人権研	人権教育講座
			障がい者理解		
10	在日外国人問題	職業選択における		校内人権研	大人教
		様々な差別問題			
		・男女格差	差別を学ぶ	学年人権研	全同教
11	国際理解	・国際問題	・部落問題		
		・障がい者理解など	・在日外国人問題		
	LGBT	LGBT	LGBT		
		職業体験にむけて	・共生　など		
12	国際理解	進路学習	・生き方について	学年人権研	
1	身近な差別	職業体験のまとめ	進路	学年人権研	研究部代表者会議
		共生学習			校区人権研
	進路		親楽習		
			共生学習	学年人権研	冬季研
2		部落問題			あゆみ編集会議
	情報モラル	情報モラル	情報モラル		
		修学旅行に向けて		校内人権研	南人教実践交流会
		進路			
3	まとめ	まとめ	まとめ	まとめ	あゆみ編集

24. 支援教育

目標

共に学び共に育つ支援教育の視点を基礎とし、障がいのある生徒一人ひとりに応じた教育を行い、
社会の一員として主体的に生きる力を育む。

① 日常の生活習慣を身につけさせ、運動機能、感覚機能の調和的発達をはかる。
② ことばの理解を深め、円滑なコミュニケーション能力を育てる。また、学級活動・学年・学校行事など
通常学級の生徒と活動を共にする機会や郊外での交流活動を多く設けることにより、
集団生活へ参加する力を育てる。
③ 家庭との連携を密にし、一人ひとりの能力・特性を把握し、それぞれに応じた教育課程を編成し実施する。
④ 職業体験など様々な活動に取り組むことで社会的自立をはかり、
本人にとって最も適切な進路選択ができるよう努める。

年間計画

月	
4	教育方針の確認（指導目標、年間計画）。 教育課程の編成。 個別の指導計画の作成。困り感シートの作成。 入級生の把握と指導。1学期の学習計画。支援教育方針等提出書類作成。生徒の情報交換。
5	学年行事（修学旅行や校外活動、宿泊学習）の取り組み。
6	通常学級・支援学級の生徒の様子の把握。学年行事（宿泊訓練）の取り組み。 市人研・市教研テーマへの取り組み。小中連携しての情報交換。
7	市内中学校交流会への参加。通常学級との交流。研修会への参加。
8	市人研・市教研に参加。校区支援学級研修に参加と小中情報交換。
9	指導計画の確認。2学期の学習計画。生徒の情報交換。諸行事への参加と学年の取り組み。 研修会への参加。
10	小中支援学級で学習指導法や教材等の情報交換。なかよし運動会への参加。 支援教育研修会への参加。校内研修会
11	市教研研究集会への参加。　小中交流会への参加。
12	市内中学校交流会への参加。通常学級との交流。提出書類作成（障がいの状態一覧表）
1	指導計画の確認。3学期の学習計画。新年度入級生の情報交換。進路の指導。なかよし作品展への作品制作
2	なかよし作品展への参加。小中連携しての情報交換。新入生と保護者との面談。
3	お別れ会。年間の反省。個別の支援・指導計画の総括

25. 通級教室

目　標

通級指導教室とは、日常は通常の学級で勉強しながら「言葉」や「コミュニケーション」「情緒」などについて、何らかの個別の援助を必要としている子どものための教室です。学校生活の色々な場面で、不安を抱えて様々な要因で本来の力を出し切れない子どもに対して、それぞれの特性に応じた指導を行い、生き生きとした楽しい生活を送れるよう支援することを目的としています。

種　別

◎言語障がい教室

・器質的、機能的な構音障がい
・吃音等、ことばにおけるリズムの障がい
・言語機能の基礎的な事項（話す、聞く等）に要配慮等

◎自閉症・情緒障がい教室
◎発達障がい教室
◎学習障がい（LD）・軽い自閉傾向・ADHD等

年間計画

月	
4	教育方針の確認（指導目標、年間計画）。個別の指導計画の作成。困り感シートの作成。小中通級相談会 入級生の把握と指導。1学期の学習計画。支援教育方針等提出書類作成。生徒の情報交換。
5	学年行事（修学旅行や校外活動、宿泊学習）の取り組み。支援小中連絡会。小中通級相談会
6	通常学級・通級生徒の様子の把握。学年行事（宿泊訓練）の取り組み。 小中連携しての情報交換・小中通級相談会。
7	研修会への参加。支援小中説明会。小学校通級教室の保護者説明会。小中通級相談会。
8	小中情報交換。提出書類作成。小中通級相談会。
9	指導計画の確認。生徒の情報交換。諸行事への参加と学年の取り組み。 研修会への参加。小中通級相談会。就学前相談。
10	小中通級相談会。就学前相談。
11	小中連携しての情報交換。小中通級相談会。　市内なかよし卓球大会への参加。
12	小中通級相談会。通常学級との交流。提出書類作成（障がいの状態一覧表）
1	指導計画の確認。新年度入級生の情報交換。小中通級相談会。
2	小中連携しての情報交換。新入生と保護者との面談。小中通級相談会。
3	年間の反省。個別の支援・指導計画の総括。小中通級相談会。

26. 進路指導の重点

A．目　標

生徒に「生きる目標」を自覚させるとともに「生きる力」を養い、
「自らの進路」を見つめさせて個性に応じた進路を保障する。

B．具体的な取り組み

1．カウンセリングや個人懇談等を通して生徒理解に努める。
2．自己を見つめさせ、人生の目標を考えさせる。
3．進路情報を収集するとともに進路説明会、進路学活、進路通信、
　掲示等を通して、保護者･生徒への情報の提供を行う。
4．高校や専修学校等の体験入学会や学校見学会への参加を促し、
　いろいろな学校等の特色を理解させることに努める。
5．地元高校との連携を図っていく。

年間計画

月	1年生	2年生	3年	その他
4	進路指導計画の作成	進路指導計画の作成	進路指導計画の作成	
5				中高連絡会
6			[学活]中学校卒業後の進路 保護者向け校内進路説明会	
7			[学活] 入試の仕組み いろいろな学校の概要	教師対象高校 説明会に参加 (各高校)
8			高校の見学･体験入学･合同説明会	
9		職業体験に向けて	第1回進路希望調査	
10			第2回進路希望調査 体験入学･支援学校見学会 進路写真･進路ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ	私立高校説明会に参加、保護者対象高校説明会、地元高校保護者説明会
11	[学活] 「自己を知る。 毎日の学習と進路」	職業体験の実施 職場体験のまとめと発表	第3回進路希望調査 職場見学･適正検査 体験入学 進路懇談会 [学活]「進路決定に向けての準備」	専修･専門学校 説明会に参加
12		[学活] 「多様な進路と 入試制度」	進路相談と進路調査 職業相談 面接練習 進路懇談会 (私立、公立特別選抜希望校決定)	
1			私学出願 他府県私学入試	高校との教育相談
2	[学活] 「将来の希望･ つきたい職業･ 働くことの意義･ 職業調べ等」		私学入試･発表 専修専門学校入試･発表 公立特別選抜出願･入試･発表 第4回進路希望調査 公立一般選抜進路懇談会	
	事業所へのアンケート [学活] 「1年をふりかえって」	[学活] 「1年をふりかえって」	公立一般選抜出願･入試･発表 特別支援学校入試	進路資料の作成 中高連絡会

27. 健康安全

【学校保健計画】
目　標
1．　生徒がすすんで、保健活動や健康管理をできるように計画的に指導する。
2．　生徒・職員が協力して、保健環境の整備に努める。
3．　保健行事を円滑に運営する。
4．　職員の危機管理の意識向上に努める。

月	保健教育	保健管理	組織活動
4	・ほけんだよりの発行 （健康診断の意義と受け方、保健室の利用の仕方等） ・定期健康診断の事前・事後指導	・欠席調査の実施 ・宿泊・修学旅行前健康調査の実施（2・3年） ・健康診断の計画の実施と事後措置（身体測定、視力・聴力検査、運動器検診、尿検査1次等） ・保健調査票より要配慮生徒の把握と対応の共通理解	・学校保健計画の立案と実施 ・部会の実施 ・定期健康診断の準備・片付け
5	・ほけんだよりの発行 （喫煙防止、熱中症予防等） ・定期健康診断の事前・事後指導	・欠席調査の実施 ・宿泊・修学旅行前健康調査のまとめと共通理解 ・健康診断の計画の実施と事後措置（心臓検診1次、内科検診、結核検診、耳鼻科検診、眼科検診、尿検査2次等）	・部会の実施 ・定期健康診断の準備・片付け
6	・ほけんだよりの発行 （宿泊行事前の指導、歯や口腔の健康、プール前の指導、梅雨の時期のケガ予防等） ・定期健康診断の事前・事後指導	・欠席調査の実施 ・宿泊・修学旅行の健康管理 ・健康診断の計画の実施と事後措置（心臓検診2次、歯科検診等） ・水泳時の緊急体制と健康管理 ・熱中症の予防（WBGT値の測定等）	・部会の実施 ・定期健康診断の準備・片付け
7 8	・ほけんだよりの発行 （宿泊行事前の指導、熱中症の予防等）	・欠席調査の実施 ・健康診断の事後措置 （結核精密検査、心臓事後指導等） ・水泳時の緊急体制と健康管理 ・熱中症の予防（WBGT値の測定等） ・医薬品の点検	・部会の実施
9	・ほけんだよりの発行 （ケガの予防、防災について等）	・欠席調査の実施 ・熱中症の予防（WBGT値の測定等）	・部会の実施 ・歯科衛生指導の検討・準備
10	・ほけんだよりの発行 （目の健康、薬の正しい使い方等） ・救急救命講習（2年）の実施	・欠席調査の実施 ・色覚検査希望調査の実施	・部会の実施
11	・ほけんだよりの発行 （正しい姿勢、換気について等）	・欠席調査の実施 ・尿検査の実施と事後措置 ・色覚検査（1年）の実施と事後措置	・部会の実施 ・学校保健委員会の検討・準備
12	・ほけんだよりの発行 （感染症の予防、冬休みの過ごし方等） ・歯科衛生指導（1年）の実施	・欠席調査の実施 ・医薬品の点検	・部会の実施 ・薬物乱用防止教室の検討・準備 ・学校保健委員会の検討・準備
1	・ほけんだよりの発行 （受験生に向けての健康管理、感染症の予防等） ・薬物乱用防止教室（1年）の実施	・欠席調査の実施	・部会の実施 ・学校保健委員会の検討・準備
2	・ほけんだよりの発行 （花粉症、心の健康等） ・性教育（1・2・3年）	・欠席調査の実施 ・新年度の計画と準備	・部会の実施 ・学校保健委員会の実施
3	・ほけんだよりの発行 （耳の健康、1年のまとめ等） ・卒業生へ成長記録の作成・配布	・欠席調査の実施 ・1年間のまとめと反省 ・健康診断の整理 ・校区内小学校との引き継ぎ連絡会の実施 ・新年度の計画と準備	・部会の実施

【学校安全計画】

1. 生徒がすすんで、安全管理をできるように計画的に指導する。
2. 生徒・職員が協力して、安全環境の整備に努める。
3. 避難訓練を行い、平時から災害発生時の対応を身につける。
4. 職員の危機管理の意識向上に努める。

月	安全教育	安全管理	組織活動
4	・避難経路の確認	・教室の整備 ・通学路の点検 ・運動場の整備 ・緊急時の校内体制の共通理解	・学校安全計画の立案と実施 ・部会の実施 ・交通安全指導の検討・準備 ・避難訓練の検討・準備 ・教職員救急救命講習の検討・準備
5	・交通安全指導の実施 ・避難訓練(地震)の実施	・飲料水の水質検査	・部会の実施 ・避難訓練の報告書の作成・消防署への提出 ・教職員救急救命講習の実施
6	・プール前の指導の実施	・プール・その周辺の整備と清掃 ・プールの水質検査	・部会の実施 ・不審者対応訓練の検討・準備(隔年)
7 8		・安全点検の実施 ・校内の修繕 ・トイレ・手洗い場の清掃と点検	・部会の実施 ・不審者対応訓練の実施(隔年)
9		・運動場の整備	・部会の実施 ・交通安全指導の検討・準備 ・避難訓練の検討・準備 ・避難訓練の計画書作成・消防署への提出
10	・交通安全指導の実施 ・避難訓練(火災)の実施	・教室の照明設備の点検	・部会の実施
11		・飲料水の水質検査	・部会の実施
12	・ストーブの使用と換気の指導	・ストーブの設置 ・安全点検の実施 ・校内の修繕 ・トイレ、手洗い場の清掃と点検	
1	・ストーブの使用と換気の指導	・校内の修繕 ・教室の空気検査 ・ストーブの点検	
2	・ストーブの使用と換気の指導	・ストーブの点検	・部会の実施
3		・安全点検の実施 ・校内の修繕 ・ストーブの撤去 ・教室、カーテンの整備 ・トイレ、手洗い場の清掃と点検 ・1年間のまとめ、反省	

●食に関する指導の全体計画　　河内長野市立千代田中学校

現状	学校教育目標	根拠
安定した生活習慣が身に付いていない生徒が多く、家族で夕食を摂れない家庭が多い。 →	学 校 教 育 目 標 「主体性と協調性を持った生徒の育成」 め ざ す 生 徒 像 ・高い理想を持って自ら学び続ける生徒（主体性） ・互いを認め合い協同して未来を創造する生徒（協調性）	← 学習指導要領 食育基本法 食育推進基本計画 教育委員会の方針

↓

食 に 関 す る 指 導 の 目 標

①食事の重要性、食事をすることの楽しさ・喜びを理解する。
②食文化等についての理解を図り、食習慣と健康な生活とのかかわりについて正しい知識や技能を身につける。　（知識・技能）

③成長期の望ましい食事のとり方と栄養素の働きについて正しい知識を身につけ、自ら管理できる能力を養う。
④食の安全についての知識を習得し、自ら選択し判断できる力を身につける。　（思考力・判断力・表現力等）

⑤食の文化や各地の産物について理解し、持続可能な食のあり方について考える。
⑥食事のマナーについて正しい知識などを身につけ、食事を通したコミュニケーション能力を養い、望ましい人間関係をとれる能力を身につける。
⑦毎日の生活の中で、食事の持つ役割について考え、生産者への感謝や尊敬する心を育てる。　（学びに向かう力・人間性等）

↓

幼稚園 保育所 → 小学校 →
幼・保・小との連携における基本方針

各 学 年 の 食 に 関 す る 指 導 目 標		
1年次	2年次	3年次
・家庭での日々の生活や生活環境の学習を通して、規則正しい生活習慣と食事の大切さ、家庭における自らの役割を考える。 ・食事が大切なコミュニケーションの場であることを理解し、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	・栄養素の働きと正しい摂取バランスについての知識を身につける。 ・食材の種類と含まれる栄養素・正しい食材の選択方法などについての理解を深め、自分の摂取する食品を選択できる能力を身につける。	・年代によって配慮されるべき栄養バランスや食事について理解する。 ・これまでの成長を振り返り、出生から現在までの食と心身の発達について考え、主体的によりよい食習慣を形成しようと努力する態度を養う。

			学 期 ご と の 指 導 目 標		
特別活動・終礼時など	学級活動及び昼食時の時間 食に関する指導 昼食指導		食事ならびに朝食の大切さを理解する。食事をする時の環境・衛生に配慮できる能力を身につける。（年間を通して）		
			1学期	2学期	3学期
		1年	朝食の大切さを知ろう 暑さに負けない食事を作ろう	日本の食事の良いところを知ろう	楽しい昼食時間の持ち方やマナーについて考えよう
		2年	成長期における食事の大切さを知ろう	運動と食事の関係を知ろう	食材を扱っている職場に行き、食事について調べよう
		3年	睡眠・食事と健康の関係を知ろう	食べ物に使われている食材について調べよう	食事を作ってくれている人への感謝を表そう
		行事等	身体測定　内科検診　歯科検診 家庭訪問　宿泊行事前健康診断 授業参観	授業参観　体育大会	飲料水水質検査
			1　年	2　年	3　年
教科との関連	技術・家庭科（家庭科分野）		食品と栄養素のかかわりについて知る バランスの取れた食生活についての理解 食事のマナーの理解	家庭生活と食品の消費についての理解 食品の正しい選択や環境に配慮した消費生活についての理解	幼児の成長と心身の発達の理解 生活を取り巻く環境の理解 食の安全性の理解
	保健体育		体つくり運動を通した健康や安全についての理解	健康と環境についての理解	健康な生活と疾病予防についての理解
	国　語		古典文学に見る食文化（地域食や行事食　海外の伝統料理など）を知る		
	社　会		世界各地および日本国内の地理的特徴・生産される食品や文化の違いを知る	歴史の流れと食文化を知る	現代の暮らしと食生活について知る
	理　科		動植物の種類や生育システム、自然と環境のかかわりを知る	人体の仕組み 栄養素の消化吸収システムを知る	気候や風土の生活への影響を知る
道　徳			1　主として自分自身に関すること（1）　2　主として他人とのかかわりに関すること（1）（2） 3　主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること（1）（2） 4　主として集団や社会とのかかわりに関すること（5）（6）（8）（9）（10）		
家庭・地域との連携			学校だより、保健だより、PTA運営委員会、PTA研修会などを通じて広く家庭・地域に食育の大切さを知らせる		
総合学習			世界の国々の食文化を知る	食に関するマナーを知る	世界の食糧事情や環境について考える

28. 主権者教育

1．目 標

自分たちの社会で起こっている問題を自分たちの問題として捉え、考え、行動することができる力をこどもたちから引き出す

将来、こどもたちに必要な力は…
- 主権者として社会の中で自立し、他者と協働しながら持続可能な共生社会を形成する力
- 社会の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担う力

2．本年度の重点目標

- 学校の課題に気づき解決に向けて考え議論し行動する生徒会、委員会活動
- 学年、クラスの課題に気づき解決に向けて考え議論し行動する
  学級委員会、学級会、班長会
- 社会(地域を含む)の課題に気づき解決に向けて考え議論する、人権をベースとした道徳

3．各学年の指導計画

《年間》	1　年	2　年	3　年
4月	学級開き　学級班づくり 委員会・学級の係り決め	学級開き　学級班づくり 委員会・学級の係り決め	学級開き　学級班づくり 委員会・学級の係り決め
5月	班長会議　委員会活動	班長会議　委員会活動	班長会議　委員会活動
6月	校外学習	宿泊学習	平和学習　修学旅行
7月	平和学習	職場体験学習	平和学習
8月	平和登校	平和登校	平和登校
9月	学級班づくり　班長会議 応援縦割り活動　体育大会	学級班づくり　班長会議 応援縦割り活動　体育大会	学級班づくり　班長会議 応援縦割り活動　体育大会
10月	生徒会選挙	生徒会選挙	生徒会選挙
11月	MF	MF	MF
12月	国際交流		進路学習（生き方を考える）
1月	学級班づくり　班長会議	学級班づくり　班長会議	学級班づくり　班長会議
3月	生徒会選挙	生徒会選挙	生徒会選挙

《教科》	1　年	2　年	3　年
道　徳	トマトとメロン あったほうがいい？ 違いを乗り越えて あふれる愛 震災を乗り越えて 役に立つことができるかな	挨拶は言葉のスキンシップ リスペクト　アザース 体験ナースを通して 行動する建築家　坂　茂 避難所にて	本とペンで世界を変えよう 町内会デビュー 塩むすび あるレジ打ちの女性 世界を動かした美
社　会	日本の姿 世界と比べた日本の地域的特性	私たちが住む日本 世界からみた日本の姿 日本の地方のようす 身近な地域を調べてみよう 近代の日本と世界 近代国家へのあゆみ	近現代の日本と世界 近代国家へのあゆみ 国際化する日本と世界 わたしたちの生活と現代社会 日本国憲法の基本原則 民主政治のしくみ 私たちの生活と政治・経済・福祉 私たちと国際社会の課題
家　庭		身近な消費生活と環境	私たちと家族・家庭と地域

29. キャリア教育

（1）目標

「生きる力」の育成

～確かな学力，豊かな人間性，健康・体力～

・肯定的自己理解と自己有用感の獲得　　・進路計画の立案と暫定的選択

・興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成　・生き方や進路に関する現実的探索

	1　年	2　年	3　年
目　標	・自己を見つめ、自己の特性などを考えさせる。 ・自己と他者の違いに気付き尊重しようとする。 ・ 集団の一員としての役割を理解し，それを果たそうとする。 ・職業とは何か、働くことの意味を学習し、自分の将来の姿を考える。	・ 自分の言動が他者に及ぼす影響について理解する。 ・ 社会の一員としての自覚が芽生えるとともに，社会や大人を客観的にとらえる。 ・職場体験ではたらく人に学び、「生き方」に触れる。 ・現実の社会に内在する職業に関する偏見などが間違いであることを学習し、自己の進路を見つけられる意識をもたせる。	・自己と他者の個性を尊重し人間関係を円滑に進める。 ・高校体験入学・見学会を通して、なかまとともに、自分の進む道、進路を考え、決定していく力を養う。 ・学歴社会など身近なところから世の中の矛盾を見抜き、自分の進路となかまの進路をかかわらせ、生き方の問題としてとらえる。

（2）年間計画

	1　年	2　年	3　年	
4月	学級開き 班づくり・なかまづくり	学級開き 班づくり・なかまづくり	学級開き 班づくり・なかまづくり	
5月			修学旅行に向けて	
6月	カウンセリング	カウンセリング 宿泊学習	進路説明会 カウンセリング 修学旅行	
7月	個人懇談会	個人懇談会	個人懇談会	
8月	平和登校日	平和登校日	平和登校日 高校体験入学	↑
9月	体育大会への取り組み 体育大会	体育大会への取り組み 体育大会	体育大会への取り組み 体育大会	高校説明会
10月	MF	MF	MF 進路説明会 カウンセリング	
11月	カウンセリング	カウンセリング 職業体験(事前事後学習含む)	進路懇談① MF	
12月	個人懇談会	個人懇談会	個人懇談会（進路懇談）	↓
1月	職業調べ		進路決定	
2月	進路学活	進路学活	私立高校入試	
3月	2年生に向けて	3年生に向けて	公立高校入試	

※ 活用資料　「夢や志を育む教育」 他

（3）キャリアパスポートの活用

学年の進級・学期などの節目には、自己を見つめなおすためにキャリアパスポートを利用し、新たな目標をたてたうえで、将来の生き方や考え方に結び付けさせる。

30. いじめ防止

大阪府河内長野市立千代田中学校いじめ防止基本方針

平成26年２月22日施行
令和６年４月１日改正

第１章　いじめ防止に関する本校の考え方

１　基本理念

　いじめは、その生徒の心を将来にわたって深く傷つけるものであり、生徒の成長に大きな影響を及ぼし、場合によっては命さえも奪ってしまう、まさに人権に関わる重大な問題である。まずは全教職員が、いじめはもちろん、いじめにつながる行為、そしてそれらをはやし立てたり傍観したりすることさえも、この学校から無くしていくのだという強い意志を持つことが必要である。また、生徒のどんな些細な変化も見逃さない感覚の鋭さを持ちながら、常に生徒の心に寄り添い、その声を聴き受け止めることが大切である。そのことが、いじめ事象の発生や深刻化を防ぎ、いじめに向かわない生徒集団を育成することになる。

　そのためには、教育活動の全てにおいて人権を大切にする心を育てなければならない。教職員自身が、あたたかさにあふれた人権感覚を持ち、生徒一人ひとりを多様な個性を持つかけがえのない存在として尊重し、常に生徒のありのままを認めることで心をあたためるという視点を持った指導を徹底することが重要となる。

　本校はいじめの未然防止のために、お互いのありのままを認め合い一人ひとりの「命をとことん大切にする」人権教育の視点を持って集団づくりと授業づくりに取り組んでいる。いじめは命さえも奪う重大な人権侵害であり絶対に許さないという認識のもとに、ここに千代田中学校いじめ防止基本方針を定める。

２　いじめの定義

　「いじめ」とは、ある生徒に対して、当該生徒が在籍する学校に在籍している等、当該生徒と一定の人的関係にある他の生徒が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。

　具体的ないじめの現われ方には，以下のようなものがある

- ➢冷やかしやからかい，悪口や脅し文句，嫌なことを言われる
- ➢仲間はずれ，集団による無視をされる
- ➢軽くぶつかられたり，遊ぶふりをして叩かれたり，蹴られたりする
- ➢ひどくぶつかられたり，叩かれたり，蹴られたりする
- ➢金品をたかられる
- ➢金品を隠されたり，盗まれたり，壊されたり，捨てられたりする
- ➢嫌なことや恥ずかしいこと，危険なことをされたり，させられたりする
- ➢パソコンや携帯電話等で，誹謗中傷や嫌なことをされる 等

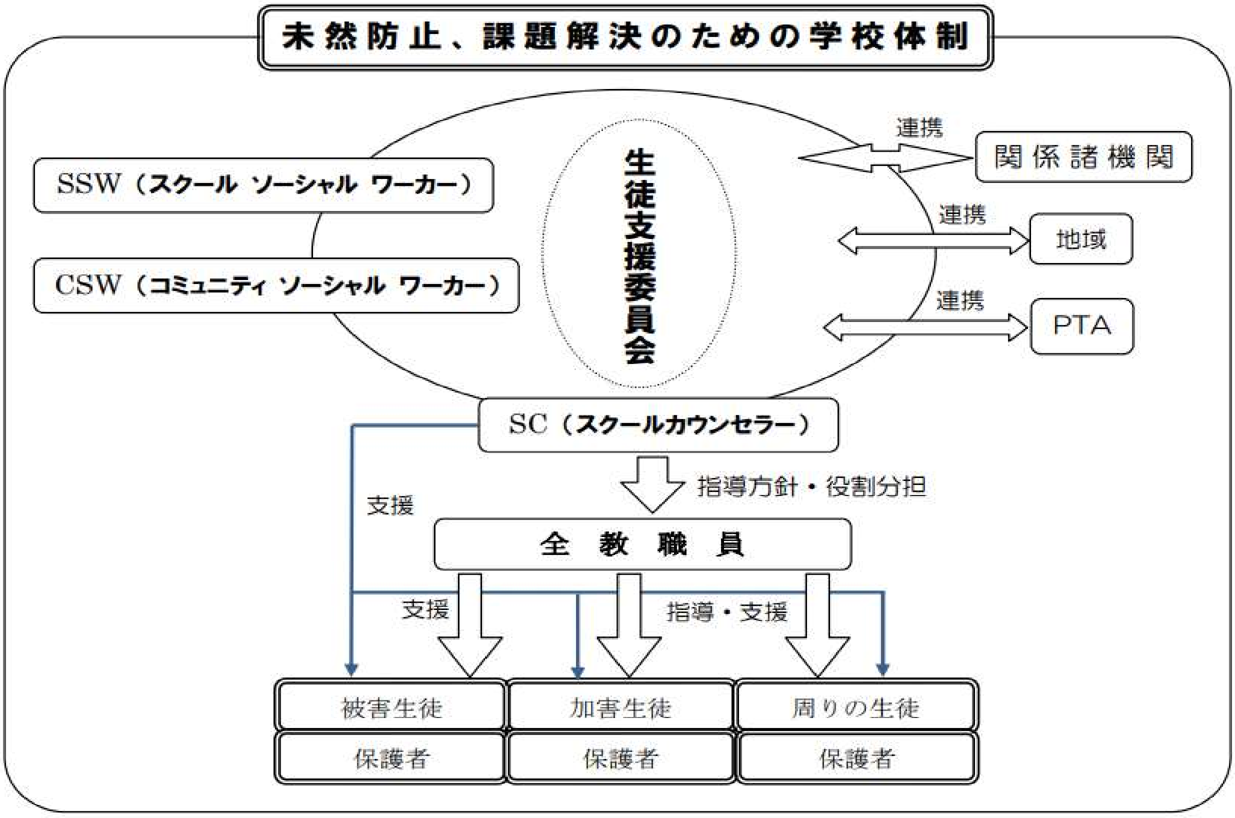
3　いじめ防止のための組織

(1) 名称　　「生徒支援委員会」

(2) 構成員

校長、教頭、首席、生徒指導主事、児童生徒支援コーディネーター、養護教諭、各学年主任、教務主任、特別支援コーディネーター、通級指導教室担当教員、SC、各指導部長、生徒会主担

※構成員は次の図を基本とするが、必要に応じて追加することができるものとする。



(3) 役割

ア　学校いじめ防止基本方針の策定

イ　いじめの未然防止

ウ　いじめの対応

エ　教職員の資質向上のための校内研修

オ　年間計画の企画と実施 、 進捗のチェック

カ　各取組の有効性の検証

キ　学校いじめ防止基本方針の見直し

4 取組状況の把握と検証

生徒支援委員会は、毎月１回開催し、取組みが計画どおりに進んでいるかの確認、いじめ対応の確認、必要に応じた学校基本方針や計画の見直しなどを行う。

５ 年間計画　　　　　本基本方針に沿って、以下のとおり実施する。

※年度当初に千代田ナビゲーションを配布し、千代田中学校いじめ防止基本方針を周知する。

	生徒	学校全体
4月	【1年生は入学式、2.3年生は家庭訪問で千代ナビを配布】 【生活班づくり】（居場所づくり、仲間づくり） 【生徒アンケートの実施】 （不安や心配事など、こどもの声を聴く）	第1回生徒支援委員会 （年間計画の確認）（生徒の状況確認・情報共有） 【今年度の取り組みについて職員会議で確認】 【「千代田中学校いじめ防止基本方針」についてHP更新】
5月	【生徒アンケート・こころのアンケートの実施】	第2回生徒支援委員会（職員会議で情報共有）
6月	【カウンセリング週間】（生徒の思いに寄り添う） 1年:【校外学習】 2年:【宿泊学習】 3年:【修学旅行】 （お互いのことを知り、仲間づくりにつなげる）	第3回生徒支援委員会（職員会議で情報共有）
7月	【三者懇談】 （学校生活の様子や家での様子を情報交換する） 【2年生 職場体験】（社会性の育成）	第4回生徒支援委員会（職員会議で情報共有）
9月	【生活アンケートの実施】 【生活班づくり】 【体育大会】（縦割り集団による関係づくり）	第5回生徒支援委員会（職員会議で情報共有）
10月	【生活アンケート・こころのアンケートの実施】	第6回生徒支援委員会（職員会議で情報共有） 【研究授業Ⅰ・研究授業Ⅱ】 （すべてのこどもたちがつながり合い学び合う授業）
11月	【カウンセリング週間】 【千代田ミュージックコンクール】（つながりと支え合い） 【3年生 三者懇談】（進路懇談）	第7回生徒支援委員会（職員会議で情報共有）
12月	【三者懇談】	第8回生徒支援委員会（職員会議で情報共有）
1月	【生活班づくり】	第9回生徒支援委員会（職員会議で情報共有） 【今年度の取り組みの検証】
2月	【生活アンケート・こころのアンケートの実施】 【カウンセリング週間】	第10回生徒支援委員会（職員会議で情報共有） 【今年度の取り組みの検証・来年度の取り組みについて】
3月	【クラスや学年で1年間の振り返り】	第11回生徒支援委員会（職員会議で情報共有） 【来年度の取り組みについて】

第２章　いじめ防止

１　基本的な考え方

いじめの未然防止にあたっては、学びの場である学校・学級自体が、「命をとことん大切にする」人権尊重のあたたかい思いにあふれた環境であることが求められる。その環境を基盤として、人権に関する知的理解及び人権感覚を育む学習活動を各教科、特別活動、総合的な学習の時間をはじめ、学校生活のすべての場面で、それぞれの特質に応じ、総合的に推進する必要がある。

特に、生徒の自尊感情や自己有用感を高めることで、他者の痛みや感情を共感的に受容するための想像力や感受性を身につけることができるようにすること、そうすることでお互いのありのままを認め合える対等で豊かな人間関係を築くことができるようにすることに重点を置き、そのための学習活動の具体的な取り組みを考え実践していく必要がある。そして、その取組みを継続していくことで、信頼に基づいた人間関係づくりや人権を尊重した集団としての質を高めていくことが大切である。

２　未然防止のための学校体制

いじめの未然防止については、生徒支援委員会が担う。
生徒支援委員会は月に１回、会議を持つことで
未然防止の取り組み（主として成長を促す指導）を推進する。

３　いじめの防止のための措置

⑴ いじめについての共通理解を図るため、平素から全教職員、全校生徒が「命をとことん大切にする」ための人権感覚を磨く必要がある。教職員の研修を充実させせつつ、道徳など生徒の人権に学習を適切に行い、学習した内容に基づいて必ず生徒にふり返らせ、生徒自身の問題としてとらえ考えさせる丁寧な取り組みを実施する。

⑵ いじめに向かわない態度・能力を育成するために、自他を認め合い、尊重し合える態度を養うことや、生徒が円滑に他者とコミュニケーションを図る能力を育てることが必要である。

　そのために、集団づくりと「すべてのこどもたちがつながり合い学び合う授業」に取り組む。いかにして生徒にお互いのありのままを認め合い尊重させるか、いかにして生徒同士をつなげるかについて集団づくりと支援教育の視点を持ちながら授業内容を創造する。

⑶ いじめが生まれる背景には、生徒の自尊感情や自己有用感の低さがある。生徒の学校生活のうち、一日の大半を占める授業の時間において、全ての生徒の自尊感情や自己有用感を高めることが絶対に必要である。

　また授業だけでなく行事、特別活動においても、集団づくりの本来の意義に立ち返り、一部の生徒だけではなく全ての生徒一人ひとりが集団に貢献できる場面を丁寧に設定し自己有用感を高めることで自尊感情を高める取り組みを考え実施することが必要である。

⑷ いじめを助長するような教職員の不適切な認識や言動等、指導のあり方に注意を払うため、生徒指導のあり方について共通認識を持つ必要がある。

　全教職員で取り組むべきは、「生徒の心に寄り添うことで心をあたためる生徒指導」である。心のあたたまった状態の生徒はいじめには向かわない。生徒の心をあたためるために、まずは教職員から生徒のもとに足を運び「こどもの声を聴く」ということを大切にする。

⑸ 生徒が自らいじめについて学び、取り組むために、生徒会活動を充実させる必要がある。

　生徒会は本来、生徒自身の力で学校生活を安心できる安全なものにする、つまりお互いの人権を守り合うための自治組織である。いじめという人権の侵害は安心できる安全な生活を奪うものである。いじめで生きにくさを感じている生徒がいるならば、その生活を安心できる安全なものに回復させていくための組織として、また自分たちが生活する「社会」としての学校を、お互いのありのままを認め合うことでお互いの人権を守り合い、いじめに向かわなくてもよい学校にするための組織として生徒会を機能させなければならない。そのための十分な支援を、生徒会担当を中心として教職員全員で取り組む必要がある。

３章　早期発見

１　基本的な考え方

いじめの特性として、いじめにあっている生徒は、いじめを受けていることを認めることは恥ずかしいことだと考えたり、いじめの拡大を恐れるあまり誰にも訴えることができないことが多い。また、自分の思いをうまく伝えたり訴えたりすることが難しいなどの状況にある生徒がいじめにあっている場合は、隠匿性が高くなり、いじめが長期化、深刻化することがある。

それゆえ、教職員には、生徒の何気ない言動や行動の変化、服装をはじめとする様子の変化の中に傷つけられた心の訴えを感じ取る鋭い感性、隠れているいじめの構図に気づく深い洞察力、いじめに向かわない集団にしていこうとする熱い行動力が求められている。

全教職員が、日々、生徒一人ひとりの様子をしっかり見る必要がある。
一見、同等にふざけ合っているように見えても、いじめの構造の中で序列化され下位に置かれ苦しみもがいている生徒がいる場合がある。行動、言動、服装など生徒が示す
どんな小さな変化も見逃してはならない。自傷行為や他傷行為、体調面での顕著な変化、
連続した遅刻や欠席などは危険信号と捉え、絶対に見逃してはならない。

また生徒の変化に気づいた場合、教職員が一人で抱え込むのではなく、日常から学年や分掌を超えて積極的に生徒の情報交換を行い、情報を共有し、組織として対応していく必要がある。

２　いじめの早期発見のための措置

（1）実態把握の方法として、４月、６月、９月、１１月、２月にアンケートを実施する。
定期的な教育相談としては、６月、１１月にカウンセリング期間を実施する。
日常の観察として、全職員が生徒の登校から下校までの様子を丁寧に見ることはもちろん、個人ノート(ＫＧノート)や班ノート、班長会議等も活用し積極的に情報収集をする。

（2）保護者と連携して生徒を見守るため、日常から丁寧な家庭連絡を実施し、
生徒の家庭での様子を把握する。
また、三者懇談においても、生徒の家庭での様子を把握することに努める。

（3）生徒、その保護者、教職員が、抵抗なくいじめに関して相談できる体制として、
生徒指導主事・児童生徒支援コーディネーター・養護教諭が中心に相談の窓口とする。
また、スクールカウンセラーや生徒支援員とも連携し、教員とは違う立場でも相談を受けられるようにする。

（4）ＰＴＡ総会、学校便り等により、相談体制を広く周知する。
生徒支援委員会により、相談体制が適切に機能しているかなど定期的に点検する。

（5）教育相談等で得た生徒の個人情報については、その対外的な取扱いについては、生徒の不利益が生じないように慎重を期す。

第４章　いじめに対する考え方

１　基本的な考え方

　いじめにあった生徒のケアが最も重要であるのは当然であるが、いじめ行為に及んだ生徒の原因･背景を丁寧に把握、理解しながら指導に当たることも非常に重要である。
近年の事象を見るとき、いじめた生徒自身が深刻な課題を有している場合が多く、
相手の痛みを感じたり、行為の悪質さを自覚することが困難な状況にある場合がある。
よって、いじめた当事者が、なぜいじめるという行為に至ってしまったのかを自分自身としっかり向き合うことで認識し、心から悔い、相手に謝罪、その後二度といじめはしないということはもちろん、いじめを無くそうという前向きな気持ちに至るように、丁寧に支援することと継続的に指導することが必要である。いじめを受けた当事者は、仲間からの励ましや教職員や保護者等の支援が必要不可欠であるのは当然のことであるが、何よりいじめた当事者の自己変革する姿に、人間的信頼回復のきっかけをつかむことができると考える。
　そのような、事象に関係した生徒どうしが、豊かな人間関係の再構築をする営みを通じて、事象の教訓化を行い教育課題へと高めることが大切である。
　具体的な生徒や保護者への対応については、
（別添）「４つのレベルに応じたいじめ対応チャート」をに従って、外部機関とも連携する。

２　いじめ発見・通報を受けたときの対応

(1) ささいな兆候であってもケース会議を行い、いじめの疑いがある行為には、早い段階から的確に関わる。遊びや悪ふざけなど、いじめと疑われる行為を発見した場合、まずその場でその行為を止める必要がある。また生徒や保護者から「いじめられた」あるいは「いじめではないか」などの相談や訴えがあった場合には、真摯に対応する。
その際、被害生徒や、いじめやいじめと思われる事象を知らせてきた生徒の安全を確保するよう配慮する。

(2) 教職員は一人で抱え込まず、速やかに生徒指導主事か児童生徒支援コーディネーターに報告し、当該学年主任と情報を共有する。

(3) その後、生徒指導主事か児童生徒支援コーディネーター、または当該学年主任が中心となって、関係生徒から事情を聴き取るなどして、いじめの事実の有無の確認を行う。

(4) 聴き取った事情を緊急に招集可能な生徒支援委員会メンバー（ただし、管理職１名は必ず含む）に報告、情報を共有し、生起した事象の事実を確認。「いじめ」か「いじめに向かう事象」かを判断する。必要な場合は臨時生徒支援委員会を行う。

(5) 判断の結果、いじめとして認知した場合、管理職が教育委員会に報告し、つなぐべき関係諸機関等について相談する。

(6) 被害・加害の保護者への連絡については、家庭訪問等により直接会って丁寧に行う。

(7) いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものと認められるときは、いじめられている生徒を徹底して守り通すという観点から、所轄警察署と相談し、対応方針を検討する。

(8) 生徒の生命、身体または財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、
重大事態として直ちに所轄警察署に通報し適切に援助を求めると共に、
事実関係を明確にするために生徒支援委員会が調査をおこなう。

(9) いじめにより相当の期間学校を欠席せざるを得ない場合も重大事態として管理職が
教育委員会に報告すると共に、生徒支援委員会が事実関係を明確にするための調査をおこなう。

(１０) 重大事態において、学校主体の調査では対応及び同種の事態の発生の防止に
必ずしも十分な結果を得られないと判断する場合や、学校の教育活動に
支障が生じるおそれがあるような場合には、教育委員会にその対応の一部を委ねる。

３　いじめられた生徒又はその保護者への支援

生徒支援委員会が中心となって、いじめられた生徒が落ち着いて教育を受けられる環境を
確保し、当該生徒に寄り添い支える体制をつくる。
その際、当該生徒にとって信頼できる人（親しい友人や教職員、家族、地域の人等）と連携する。
必要であればスクールカウンセラーとも連携する。状況に応じて、いじめた生徒の別室指導や
出席停止などにより、いじめられた生徒が落ち着いて教育を受けることができる環境を
確保する場合もある。

４　いじめた生徒への指導またはその保護者への助言

(1) 速やかにいじめを止めさせた上で、いじめたとされる生徒からも事実関係を聴き取る。
いじめに関わったとされる生徒からの聴き取りにあたっては、個別に行うなどの配慮をする。

(2) 事実関係を聴き取った後は、迅速にいじめた生徒の保護者と連携し、協力を求めるとともに、
継続的な助言を行う。

(3) いじめた生徒への指導に当たっては、当該生徒が抱えている問題など、
いじめの背景に目を向け、当該生徒に自身の内面と丁寧に寄り添い向き合わせることで
当該生徒の健全な人格の発達を支援し心情の変容を促す。
その上で、いじめは人格を傷つけ、生命、身体または財産を脅かす人権を
侵害する行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させる。
さらに、その後二度といじめはしないということはもちろん、
いじめを無くそうという前向きな気持ちに至るように、複数の教職員が連携し、
必要に応じてSCの協力を得て組織的に丁寧な支援と継続的な指導を行う。

５　いじめが起きた集団への働きかけ

⑴ いじめに関わった生徒に対しては、正確に事実を確認するとともに、関わった生徒が抱える問題など、いじめの背景に目を向け、自身の内面に丁寧に寄り添い向き合わせる。その上で、いじめを受けた生徒の心情への共感性を育てる。

　いじめを見ていたり、同調していたりした生徒に対しても、人ごとではなく自分の問題として捉えさせる。同調していたりはやし立てたりしていた「観衆」、見て見ぬふりをしていた「傍観者」として行動していた生徒に対しては、そうした行為がいじめを受けている生徒にとっては、いじめによる苦痛だけでなく、孤独感・孤立感を強める存在になっているのだということを理解させるようにする。「観衆」や「傍観者」の生徒は、いつ自分が被害を受けるかもしれないという不安を持っていることが考えられる。それらの生徒が安心して生活できるようにするために、集団づくりの原点に立ち戻り、当該学級、学年のすべての生徒に自らの集団について自分自身の問題としてふりかえり考える機会を設定する。その上で、いじめを生み出さない、安心できる安全な居場所を自分たちでお互いに保障し合える集団づくりに取り組むことができるよう丁寧な支援と継続的な指導が必要である。

⑵ いじめが認知された際、被害・加害の生徒だけの問題とせず、全校生徒が自分たちの社会である学校の中で起きた社会問題として捉え、学級会、学級委員会、生徒会等で考えていく活動を組織し、取り組んでいけるよう全ての教職員でその活動の支援をする。

　全ての生徒が、お互いの命をとことん大切にする集団づくりを進めるため、まずは担任が生徒一人ひとりのありのままを認め尊重する学級経営に取り組み生徒との信頼関係を育むとともに、すべての教職員が集団づくりを意識して担任を支援し、生徒どうしが互いの命をとことん大切にすることができるように、お互いのありのままを認め尊重することで信頼関係を構築し、学校生活を安心して過ごせるよう努める。

　また認知されたいじめ事象について、生徒が抱えている地域や家庭等における背景を理解し、学校における人権教育の課題とつなげることにより教訓化するとともに、いじめに関わった生徒の指導を通して、その背景や課題を分析し、これまでの生徒への対応のあり方を見直す。その上で、人権尊重の観点に立ち、授業や学級活動、生徒会活動を活用し、生徒のエンパワメントを図る。その際、必要があればスクールカウンセラーとも連携する。

　体育大会や千代田ミュージックコンクール、校外学習や修学旅行等の学校行事は、集団づくりの絶好の機会ととらえ、生徒どうしが、集団としてひとつのことを成し遂げるとき意見が異なる他者との関係をどのようにしてつくればよいのかを学ぶことができるよう適切に支援する。

６　ネット上（SNS等）のいじめへの対応

⑴ ネット上（SNS等）の不適切な書き込み等があった場合、
まず学校として問題の箇所を確認し、その箇所を印刷等の方法で保存するとともに、
こども支援委員会において対応を協議し、関係生徒からの聞き取り等の調査、
生徒が被害にあった場合のケア等必要な措置を講ずる。

⑵ 書き込みへの対応については、削除要請等、被害にあった生徒の意向を尊重するとともに、
当該生徒・保護者の精神的ケアに努める。
また、書き込みの削除や書き込んだ者への対応については、必要に応じて、
大阪法務局人権擁護部や所轄警察署等、外部機関と連携して対応する。

⑶ 情報モラル教育を進めるため、「情報の受け手」として必要な基本的技能の学習や「
情報の発信者」として必要な知識・能力を人権教育の視点を持って学習する機会を設ける。

⑷ ネット上（SNS等）のいじめに関しても、被害・加害の生徒だけの問題とせず、
全ての生徒が自分たちの社会である学校の中で起きた社会問題として捉え、
学級会、学級委員会、生徒会等で考えていく活動を組織し、
取り組んでいけるよう、全ての教職員がその活動の支援をする。

７　いじめの解消

⑴ 生徒支援委員会のスクリーニングにおいて、
いじめが解消したと思われる被害生徒については、いじめ発生から3ヶ月経過後、
当該生徒の担任を中心として当該生徒とその保護者に面談等をおこない、
いじめが解消しているかどうかについて聴き取る。

⑵当該生徒、保護者ともにいじめの解消を認めた場合は、いじめは解消したものとする。

⑶いじめ解消後も当該生徒が卒業するまでて教職員で見守りを継続する。

４つのレベルに応じた　**問題行動への対応チャート**　河内長野市立千代田中学校

ねらい
①問題行動による被害生徒の被害の拡大を未然に防ぎます。
②加害生徒の加害行為を早期に指摘し、本人の自覚を促し保護者の協力を要請します。
③教員が適切な指導を行えるようにします。

➢警察と連携が必要な事案については、レベルに関わらず警察への相談や通報を行います。
➢被害生徒・保護者の意向（警察への相談・通報・被害届の提出等）をよく聞き、適切に対応します。

レベル１　担任・学年生徒指導担当が中心となり、注意や指導・改善を行います

◇無断欠席・遅刻　◇反抗的な言動　◇対教師暴言　◇授業妨害　◇服装・頭髪違反
◇落書き　◇言葉によるからかい　◇無視　◇仲間はずれ　◇悪口・陰口・暴言　など
（例）授業中にトイレに行くと言って教室を出たが、正当な理由もなく中々教室に戻って来なかった。
（例）休憩時間に遊び方を注意されたが、その教員に対して「うざい」「死ね」と言って遊び続けた。

レベル２　生徒指導主事が中心となって、学校全体で共通理解をはかり、注意や指導・改善を行います

◇暴力・傷害行為　◇誹謗中傷行為　◇SNS等のトラブル　◇エスケープ
◇深夜はいかい　など
（例）生徒Aは朝家を出たが、登校途中に生徒Bと待ち合わせをし、２人は公園で遊んで登校した。
（例）「大阪府青少年健全育成条例」の時間に従わず、数人で公園やコンビニに集まっていた。
＊原則、同様の行為を繰り返す場合は、レベル３の対応を行うこととします。

レベル３　生徒指導主事と管理職が中心となり、注意や指導・改善を行います

◇対教師暴力　◇脅迫・強要行為　◇器物破損　◇迷惑行為（近隣トラブルなど）
（例）スマホを所持していたことを教員に注意され、イライラしたのでその教員にスマホを投げつけた。
（例）音楽を大音量で流していたので、近所の方に注意されたが、「うざい」「だまれ」と暴言を繰り返し言った。

レベル４　関係諸機関と連携して指導・改善を行います

◇恐喝行為（金銭が絡む賭け事）　◇喫煙　◇飲酒　◇危険物の所持　◇窃盗行為
◇無免許運転　◇性犯罪　◇違法薬物の所持　◇放火（火遊び）　◇家出　など
＊被害生徒の状況を考慮し、被害生徒の保護、加害生徒への教育的指導という見地から必要があると判断した

	担任	学年	生徒指導主事	管理職	関係諸機関等
レベル１	○	○			
レベル２	○	○	○		
レベル３	○	○	○	○	（○）
レベル４	○	○	○	○	○

☆どのレベルにおいても、その子が抱えている状況に応じて、段階的指導（スモールステップ）で対応します。

４つのレベルに応じた　**いじめ対応チャート**　河内長野市立千代田中学校

ねらい

① 生徒の命を守ることを最優先に考えます。

② 学校として、いじめが起きにくい、あるいはいじめを許さない環境づくりをおこないます。

③ いじめに発展しそうな芽を早期発見・対応し、安心して通うことができる学校づくりをおこないます。

④ 定期的に生活アンケートやカウンセリング週間を実施し、相談できる環境づくりをおこないます。

レベル１　言葉によるからかいや無視をするなど

・担任や学年教員を中心に対応します
◇言葉によるからかい　◇無視　◇仲間はずれ　◇悪口・陰口・暴言　◇攻撃的な言動
（例）生徒Aが生徒Bに「太っている」や「チビやな」など、生徒Bの身体的特徴を言い続けた。
（例）生徒Aが席替えで生徒Bの近くになったとき、「最悪・きもい・いやだ」と言った。
（例）生徒Aが友達に、「生徒Bを無視してな」とお願いした。　など

レベル２　物を隠す・蹴る・たたく・足をかけるなど、精神的苦痛を伴う実害があるなど

・当該生徒に関わる教員や生徒支援委員会が中心に対応します
◇暴力・傷害行為（蹴る・たたく・足をかけるなど）　◇誹謗中傷行為（SNSトラブル含む）　など
（例）生徒Aは冗談のつもりで生徒Bを一方的にたたき続けていた。しかし、実は生徒Bはイヤだった。
（例）生徒Aが生徒Bに気づかれないように日常の様子を動画で撮影し、勝手にSNSにアップしていた。
それを見た他の生徒が生徒Bに「死ね」や「うざい」「きもい」など、誹謗中傷するコメントを書き込んだ。
＊原則、同様の行為が続く場合は、レベル３の対応を行うこととします。　など

レベル３　万引きの強要・集団での暴力行為・服を脱がせるなど、重度の実害があるなど

・生徒支援委員会や管理職が中心に対応します。また、関係諸機関と連携することもあります。
◇集団での暴力・傷害行為　◇脅迫・強要行為（屈辱的な行為をさせるなど）
（例）生徒Aは生徒Bに、「土下座しないと秘密をバラス」と脅した。　など

レベル４　犯罪に関わるような場合

・関係諸機関と連携して対応します
◇刃物や金属バットなど道具を用いての暴力・傷害行為　◇恐喝行為
◇被害側が自傷行為やPTSDと診断されるなどの状況に至ったとき　など
（例）「殴られたくなければ、明日までに現金を持ってこい」と脅した。　など

	担任	学年	生徒支援委員会	関係諸機関等
レベル１	○	○	○	
レベル２	○	○	○	
レベル３	○	○	○	○
レベル４	○	○	○	○

※どのレベルにおいても、被害生徒の状況に応じて対応します。

4つのレベルに応じた　欠席対応チャート　河内長野市立千代田中学校

ねらい

① 欠席生徒に早期対応し、丁寧に関わることで長期化することを未然に防ぎます。

② 生徒が早期に学校復帰できるように、関係機関との連携体制づくりをおこないます。

③ 欠席状況の重篤度に応じた学校の対応について、あらかじめ生徒・保護者等に理解・協力を求めます。

レベル1　直近30日以内の欠席が5日に達した場合、または連続欠席が3日に達した場合

・当該生徒に関わる教員や生徒支援委員会が中心に対応します

◇生徒の表情　◇生徒の生活リズム　◇生徒の友人関係　◇登校への意欲

◇心身の状態　◇家庭での様子　◇校内適応指導教室（なごみ）登校の提示　など

レベル2　長期欠席（学期内で10日に達した場合、年間30日に達した場合）かつ、家庭との連絡が取れる状態

・生徒支援委員会や管理職が中心に対応します

・継続的な電話連絡、家庭訪問をし、学校とのつながりを切らない。

・校内の対策会議をスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも参加し実施する。

・学校復帰を最終的なゴールとし、本人、保護者の意向を取り入れた登校の仕方（行事への参加の仕方も含め）を、スモールステップで提示する。

＊この時点で、学校としては不登校生徒として支援していきます。

レベル3　長期欠席（学期内で10日以上、年間30日以上）かつ、家庭との連絡が困難な状態

・関係諸機関と連携して対応します

・長期的に連絡が取れない場合、学校には公的機関への通告義務があることを管理職が保護者に説明する機会を設ける。また、校内の対策会議を定例化し、目的意識を持った組織的対応をする。

また、必要な場合は関係機関を含めた対策会議を実施する。

レベル4　年間の出席日数が10日以下かつ、家庭との連絡が困難な状態

・長期的に家庭との連絡が取れない場合は、関係諸機関に相談、あるいは通告する。

・学校だけでケースを抱えることなく、関係機関を含めたチームで対応する。

	担任	学年	生徒支援委員会	管理職	関係諸機関等
レベル1	○	○	○		
レベル2	○	○	○	（○）	
レベル3	○	○	○	○	（○）
レベル4	○	○	○	○	○

〈市の小中一貫目標〉

【ふるさととのつながりによる豊かな学び】目標８一貫性のある指導体制の構築　①いじめや不登校件数の増加、複雑化する課題への小中の連携強化
②少子化による社会性や協調性の育成への課題懸念

〈市の小中一貫教育推進方針重点施策〉

【義務教育終了までの校種間の円滑な接続のための取組みの充実】
■小中一貫した授業スタンダードを確立し、ユニバーサルデザインの観点を踏まえたわかる授業づくり（構造化、ICT 有効活用、視覚化など）
■授業の中で意見を出し合い考え議論する場面を取り入れ、ともに学び合う学習集団づくりの研究を推進
■実情に応じた小中一貫教育の教育活動の推進

千代田中学校区小中一貫教育グランドデザイン

CHIY☺KKUSU

・河内長野市立楠小学校
・河内長野市立千代田小学校
・河内長野市立千代田中学校

誇りを胸に生きる子どもに
～自分に誇りを　学校に誇りを　地域に誇りを～

自己肯定感・自己有用感を高める取組みを！
主体性・協調性を高める取組みを！

【学びをつなぐ】
これからの社会を生き抜くための学力向上

●9年間を見通したカリキュラムマネジメントの実施
・乗り入れ授業（算数）
・学力向上研究授業（相互授業参観と討議会）
★「思考力」向上
★伝え合う言語活動（ペア学習や班学習）の充実
・小中合同夏季研修会 ★学力向上
・中学校教員による小学校授業参観
・家庭学習習慣向上のための KG ノートの模範集作成
・家庭学習の手引を共有（小・小）
・漢検、算検、英検の実施

●総合的な学習の時間におけるキャリア教育やふるさと学など、系統性のある教育活動の実施
・総合的な学習の時間研究授業・討議会実施
・校区人権教育研究授業・討議会実施

【なかまをつなぐ】
実践できるコミュニケーション能力の向上

●小小・小中交流活動の推進
・小中各体験入学・中学校部活動部員との交流
・中学校美術部、吹奏楽部の小学校での作品展示・演奏会
・生徒会役員の小学校訪問
・地域ディキャンプへの参加
・校区合同あいさつ活動（あいあい活動年間3回）
・校区美化キャンペーン
・清掃活動の充実

●学習・生活のきまり、授業の UD 化の共通指導
・3校統一学習規律（チャイム着席・名札着用・授業中の規律など）の更新
・3校統一学校ルール・生指文書の更新
・中学校入学前教育相談（生活）
・生徒指導出前授業（生指・コーディネーター）
・小小連携した卒業式対応　　・小中合同 SNS 講演会
・中学校入学前教育相談（学習）

【心をつなぐ】
リーダーシップや思いやりの心の育成とチャレンジ精神や自尊感情の高揚

●児童生徒指導及び支援教育の視点からの連携
・UD の観点をすべての教育活動に取り入れる（研修実施）
・小中支援教育部会を年10回以上実施・丁寧な情報共有・クラス替え
・児童会・生徒会活動によるリーダー育成と交流

●相互理解を深めるための教職員交流
・千代田中学校区バラエティフェスタへの参加
・主任児童委員、福祉委員、保護司との連携
・3校合同教員研修会・3校合同 PTA 研修会
・学力向上部・支援教育部・生徒指導部の合同会議

●自己有用感・自尊感情の高揚
・互いを認め、支えあえる「集団づくり」の推進
・自己有用感・自尊感情を高める取組みの推進
・各校の取組みの情報共有

人権・道徳教育の推進と充実
一人ひとりの命を大切にし、互いの違いを認め合う安心安全な居場所づくり

〈子どもの実態〉

［成果］・素直　・やさしい　・学校が好き　・友だち思い、友だちが好き　・勉強をわかりたい
［課題］・不登校になる子どもが増えている　・遅刻者が多い　・家庭学習時間が短い　・規範意識、基本的生活習慣を高める必要のある背景を抱える子　・家庭でのスマホやゲーム等の時間　・SNS などを利用したいじめなど子ども同士の人間関係の乱れ

〈保護者・地域の願い〉

◆元気に楽しく安心して通える学校にしてほしい　◆楽しくわかりやすい授業をしてほしい
◆いじめや暴力のない学校にしてほしい　◆きちんとした生徒指導をしてほしい
◆希望の進路に導いてやってほしい　◆わが町の誇り得る「地域の学校」として、歴史と伝統を築いてほしい　◆地域の一員としてのマナーを守り、地域を支える主体を育ててほしい

31.小中一貫教育

（1）年間計画

月	小　中　連　携　活　動　内　容
4	小中連絡会
5	小中連絡会
6	あいさつ活動
7	小中連絡会　校区合同研修（生徒指導・学力向上・道徳人権）
8	
9	小中連絡会
10	バラエティーフェスタ　あいさつ活動
11	美化キャンペーン（地域清掃活動）　小中連絡会
12	中学校半日体験入学（6年生）
1	小中合同校区人権研修
2	あいさつ活動　新１年生小学校体験入学　　小中連絡会
3	小中生指連絡会

☆小中異学年交流の実施，　地域行事（バラエティフェスタ）参加
☆コミュニティスクール活動
（チヨックス駅前あいさつ活動、千代田美化キャンペーン参加，地域花いっぱい活動）

（2）令和６年度の担当者
◇コーディネーター：千代田中（二川）　　楠小（門前）　　千代田小（藪下）
◇小中相互乗り入れ授業
〇千代田中→楠小・・・【6年数学】
〇千代田中→千代田小・・・【６年数学】

（3）校内研究授業・研修会

	千代田小	楠小	千代田中（校内研修会を含む）
	豊かな人間性を育む取り組み推進事業		
研究テーマ	主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり ～国語科の説明文において「読み取る力」「書く力」を高める指導の工夫～	「自ら考え、伝え合う子の育成」 ～思考を深める能動的な学びの授業をどう創るか～	「わからない」が言え、 学びに向かえる学習集団づくり
１学期	研究授業（6月）		
2学期	研究授業（9月） 研究授業（１１月）		校内研究授業（9月） 国語・社会・理科・英語・音楽 研究授業（未定）
３学期	JS授業公開＋成果報告会（2月）		

（4）おもな活動計画
〇生活指導
児童生徒の情報交換や３校の共通理解に立ち、あいさつ活動を中心とした小中一貫した取り組みを実施していく。
◎学校における集団生活を行う上での起立、約束・約束を３校の共通理解に基づき実施し、情報交換やあいさつ活動・美化活動など、共通した取り組みを通じ、小中一貫した活動を行う。

32. 救急体制

○学校事故災害時における救急体制

（ア）病気の場合—保健室（養護教諭）
- 1．処置して教室に帰す（検温等）
- 2．保健室で休養させる
- 3．家に帰す—保護者に連絡（担任）
  - ・迎えに来てもらう
  - ・徒歩（帰宅後学校に電話）
- 4．医師に見せる･･･後記　ウ）に準ずる

※ 養護教諭不在時は、担任、授業中であれば職員室にいる教諭や学校長、教頭に連絡することとし、その連絡を受けた教諭が協力して生徒に対応する。保健室で休ませる場合は、必ず付き添い者がつくこととする。

（イ）けがの場合—保健室
- 1．処置して教室に帰す ┐必要に応じて
- 2．保健室で休養させる ┘
- 3．医師に診せる・・・後記　ウ）に準ずる

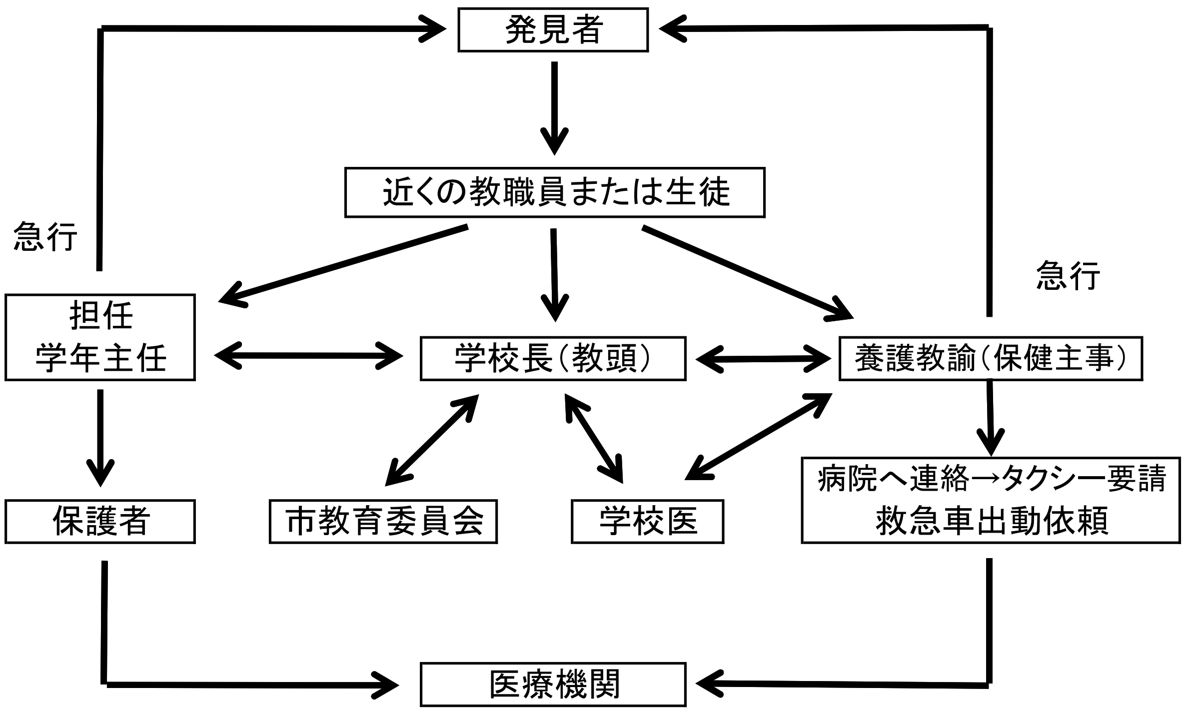
※ 養護教諭不在時は、連絡を受けた教諭が消毒等の応急処置を行う。保健室で休ませる場合は、必ず付き添い者がつくこととする。

（ウ）緊急救急処置　〔前記　（ア）４，（イ）３の対応〕

災害発生に際し、全職員協力のもとで迅速に受傷者に対し適切な措置がとれるように配慮する。必要があればＡＥＤを使用して心肺蘇生を行う。

※ 校内には、ＡＥＤを２台設置している。（設置場所は原則１階保健室及び職員玄関）

事 故 現 場



対応時の注意事項

1. 処置と把握

①救急処置

養護教諭を中心に救急処置を行う。（但し緊急の場合、応援が来るまでは発見者）
負傷者の全般を観察し、まず何をすればよいか、どのようにしてはならないかを判断し、
医師の手当が必要かどうかを見極め、手際よく処置を行う。

②事故災害発生状況の把握

状況を把握している教諭と養護教諭は、各方面への連絡に必要な情報を把握する。
その指示のもとに、職員は適切な処置をとる。

・状況聴取の把握　・生徒氏名　学年組
・いつ　どこで　どこが　何をしていて　どのようになって　どうなったか

①と②は相互に連絡を取り合う。

2. 連絡体制

①校内

発見者は、まず担任と養護教諭に連絡し、協力体制を取る。
担任または養護教諭は、災害発生状況、判断の結果を学校長へ報告する。

②家庭

家庭の連絡先は、職員室の保健調査票で調べる。
担任（原則として）は、災害発生を知らせ、医療機関の選定について相談し、
その医療機関に保険証を持参し行ってもらうよう依頼する。
保護者と連絡がとれない場合は、学校で判断して受診し、後で連絡する。
保護者が医療機関に来なかった場合は、受診前に連絡した者が、結果を保護者に伝える。

③医療機関

家庭の指示のあった医療機関に、また家庭連絡が取れなかった時は、通院の便宜などを考慮して、
受け入れ体制を確認する。
連絡は、養護教諭または応急処置をした教諭が行うのが適当であるが、
負傷者から手が離せない時は上記の報告内容を心得た者が連絡する。

3. 移送

学校長または教頭は、状況を把握している教諭及び養護教諭からの報告に基づき、移送の手配をする。
移送はタクシーを利用する。利用の際は、タクシーチケットを往復分教頭からもらう。
緊急を要する場合は、救急車を利用する。

4. 付き添い

養護教諭が付き添うのが望ましいが、その場の状況に応じて付き添い者を決める。
その際、付き添い者は、保健調査票、救急処置用具、筆記用具、タクシー券等を持っていく。
診察後、医師からの診断名、指示事項等を関係職員に伝える。

5. 事後処理

担任は、保護者にスポーツ振興センターについての説明を行い、書類を渡す。
養護教諭は、手続きを行う。
担任または学年の教諭は、事故の原因をできるだけ詳しく知る。（本人や周囲の居合わせた者から
事故の発生状況を聴取する。）その結果、必要であれば、生徒指導、環境整備等を行う。

※ 校長、教頭、養護教諭が不在の時に起こった災害（長期休業中の部活動中など）の場合は、
その対応や連絡などについて、「事故によるけがや疾病への対応カルテ」に記入する。

自衛消防組織

自衛消防隊長 校長（坂本）

自衛消防副隊長 教頭（川畑）

- 通報連絡班
  - 通報係 寶木・益本・小林
  - 連絡係 寶木・益本・小林
- 消火班
  - 機械係 和田・北川・前川・岡・森・石田直（消防設備の運用操作）
  - 放水係 御園生・川中・二川・石坂・大多・長田（注水及び火災防御）
  - 給水係 中村誠・松岡・泉本・山下沙・竹﨑（水利の保全及び防御）
- 避難誘導班
  - 誘導係 中村高・小椋・川野仁・塚本・山本・江城・河村・堂前（火災時における誘導）
  - 救助係 平阪・河口・西村・土井・川野香・石田雅・阪本・石黒（要救助者の救助にあたる）
- 搬出班
  - 搬出係 曽和・浦川・柏原・（寶木）（重要書類・物件の搬出）

令和6年度

防火管理の責任区域

統括 学校長　坂本　由美

諮問機関 防火委員会

防火責任者 川畑　知久

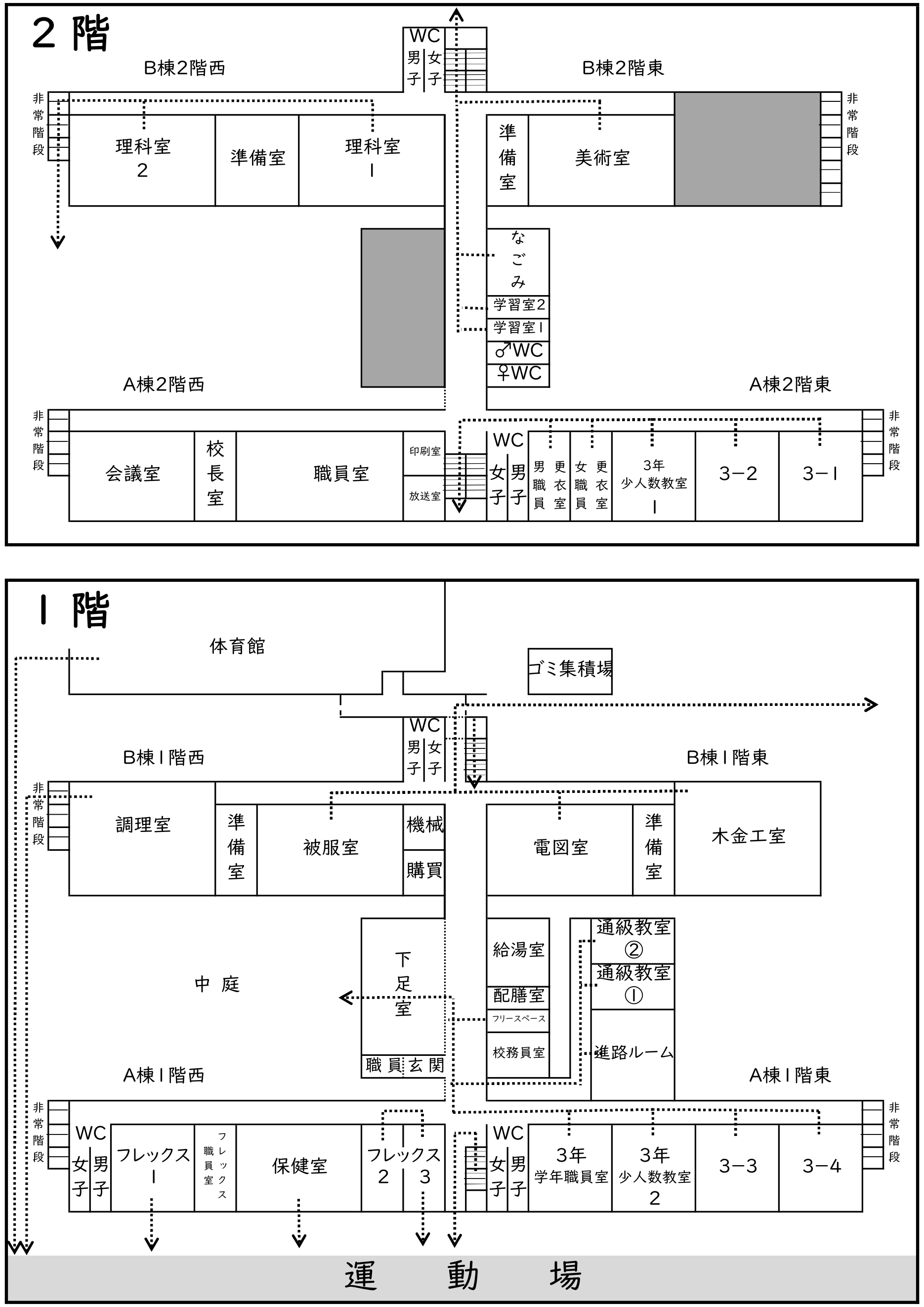
A棟1階　小椋		A棟2階　中村誠		A棟3階　中村高		A棟4階　川野仁	
3-3　教室	和田	3-1　教室	塚本	2-1　教室	岡	1-1　教室	堂前
3-4　教室	御園生	3-2　教室	山本	2-2　教室	河村	1-2　教室	竹﨑
少人数教室2	浦川	少人数教室1	川中	2-3　教室	前川	1-3　教室	山下沙
学年室	小椋	中央トイレ	中村誠	2-4　教室	江城	1-4　教室	石田直
中央トイレ	小椋	職員更衣室	中村誠	少人数教室1	松岡	少人数教室1	曽和
保健室	平阪・河口	職員室	川畑	少人数教室2	二川	少人数教室2	森
校務員室	清田	校長室	川畑	フレックス4	柏原	フレックス5	阪本
給湯室	清田	会議室	川畑	学 年 室	中村高	学年室	川野仁
購買室	川畑	放送室	寶木	中央トイレ	石坂	中央トイレ	大多
通級1，2	西村	印刷室	寶木	西トイレ	石坂	西トイレ	大多
フレックス1	川野香	相談室	土井				
フレックス2,3	石田雅	学習室1・2	土井				
西トイレ	川野香	職員トイレ	中村誠				
階段下倉庫	川畑						
生徒玄関	小椋						

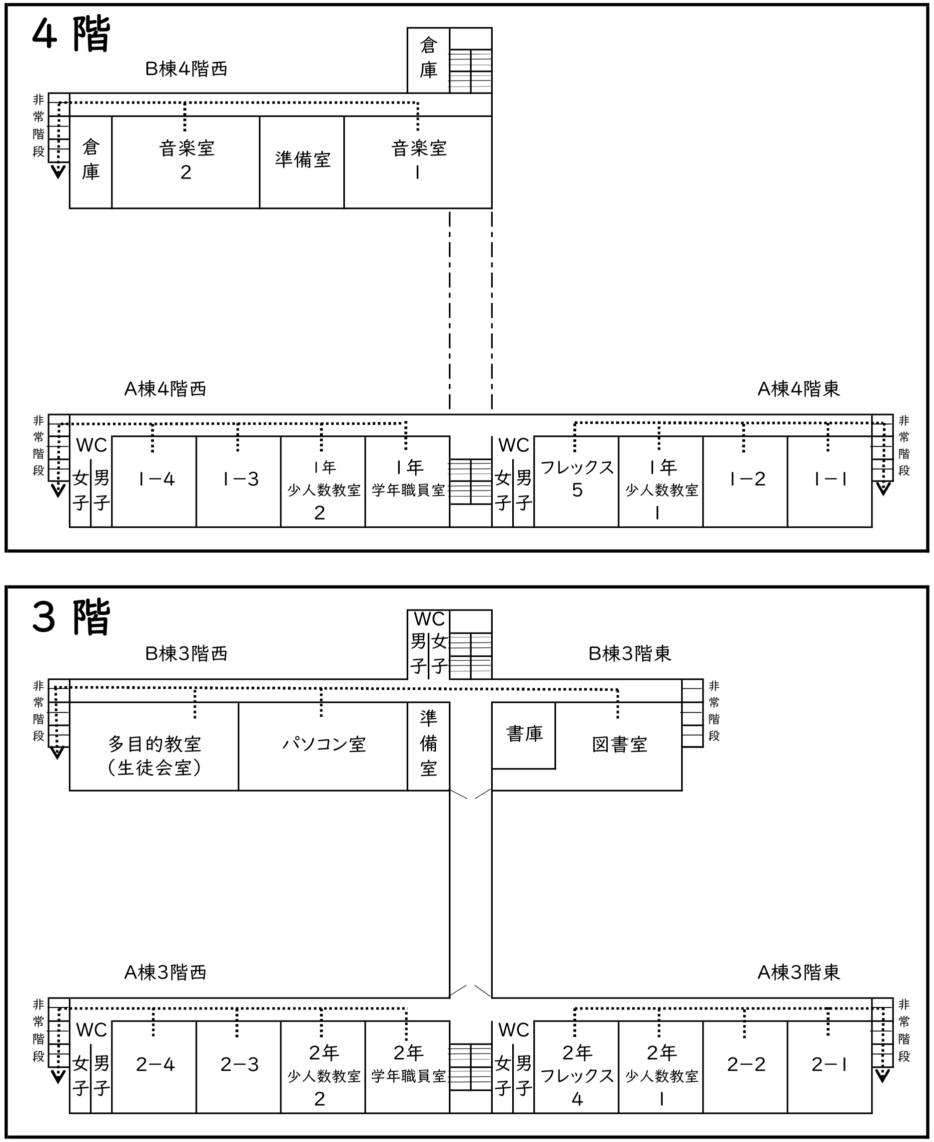
B棟1階　和田		B棟2階　河村		B棟3階　西村		B棟4階　塚本	
木金工室	和田	第1理科室	河村	図書室	中村誠	第1音楽室	塚本
電図室	和田	第2理科室	河村	パソコン教室	中村誠	第2音楽室	塚本
被服室	山本	美術室	江城	多目的室	西村	倉庫（器材庫）	塚本
調理室	山本	中央トイレ	江城	中央トイレ	西村		
中央トイレ	山本						
ポンプ室	川畑						
階段下倉庫	清田						

※準備室がある部屋はその部屋の担当者が管理

別　棟						
	中庭教室	西村	プール	中村高	危険物倉庫	清田
	体育館	益本	クラブハウス	泉本	体育館横倉庫	益本

千代田中学校 避難経路





【注意事項】

◇地震の場合は、机の下にもぐり、頭を守る。揺れがおさまったら、出口を確保し、避難する。
◇火災の場合は、窓を閉め、口と鼻をおさえて、頭を下げて避難する。
　ただし、避難経路が火災発生場所に近い場合は、そこを遠ざけて避難する。
◇避難のきまり お…おさない は…はしらない し…しゃべらない も…もどらない
◇どんな時でも、身の安全を最優先してください。

【2024.4改定】変更がない限り、そのまま使用します。

33. 不審者が侵入したときの危機対応

※　**不審者**：生徒や教職員等に危害を加える疑いのある者。**こちらの指示に従わない者。**
※　**従わない場合は人を呼ぶことを相手に伝える。**

	対応の流れ	教員の動き	備考
1	不審者の発見	・必要がある場合は大声または笛で人を呼ぶ ・何人の不審者がどこにいるかを素早く職員室に連絡。※犯人を刺激しないよう注意が必要	笛：ピーーーっと吹き続ける 携帯電話を持っている場合：「アポのない人が校内にいます」と職員室に連絡する。
2	職員室（対策本部）へ連絡 校長室および職員室	・不審者の連絡が入った時点から対策本部が 立ち上がる。 ・管理職どちらかは職員室に残る。	管理職が指揮。不在時は、首席、 生徒指導主事、教務主任など 運営委員会のメンバーが代行。
3	不審者の確認	・５人以上で各自不審者と距離を取れるものを持ち、現場に向かう。 ・不審者が武器を持っている場合、 **「何人が何を持っているか」**確認する。	確認班は不審者の連絡を受けた教師が**5名以上**で結成。 ※全職員にその可能性あり。
4	対策本部へ連絡	・１人は状況を対策本部へその都度連絡。	
5	緊急放送	・連絡を受けた対策本部は、緊急事態であるかどうかを判断。 ・緊急事態の場合は緊急放送をいれる。	**3回のチャイムの後、** 「千代田先生は〇〇（不審者確認の場所）へお越しください。生徒の皆さんは速やかに教室の中に入ってください。」
	１１０番通報	・対策本部は直ちに警察（１１０番）と教育委員会に通報。 ・千代小と楠小にも電話連絡。	
6	生徒の安全確保	・緊急放送が入ったときは生徒を教室に入れ前後の扉を施錠し、窓を閉めて安全確保の指示をする。※1階の運動場側の窓も必ず閉める	クラスの生徒に施錠の指示を出した後、最低人数のみフロアに残り、その他の職員は現場に向かう。
		・緊急放送を聞いた職員は出来るだけ多くの人数で現場に向かう。 ・職員室にいる教師は各学年で判断し、現場と学年フロアへ直行する。	現場へは出来るだけ多くの職員が向かう。 校長または教頭は対策本部に残り、全体へ指示を出す。
7	犯人逮捕	・現場では警察が来るまで時間を稼ぐ。 ・危険人物逮捕後、対策本部へ連絡。	さすまたで犯人との距離を取り可能であれば取り押さえる
8	けが人が出た場合（１１９番）	・救急車を要請・家庭へ連絡。 ・養護教諭と動ける職員は現場へ向かう。	
9	安全宣言	・対策本部は事態の終息を確認後、安全宣言を放送で行う。	

34. 情報管理

情報管理についての確認事項

１． 職員室に設置されているパソコン及び教職員用ノートパソコンの
ハードディスクには、個人情報等公開すべきでない情報を保存しないこと。

２． 個人情報の入った記憶媒体は、事務室前の保管用ロッカーに保管し、
個人では管理しないこと。

３． 保管用のロッカーの鍵は、事務室で管理する。

４． 個人情報については、むやみに他の記憶媒体へのコピーを行わないこと。

５． 個人情報の持ち出しは原則として禁止する。ただし、管理責任者（校長）
及び取り扱い責任者（教頭）の許可を得た場合はこの限りではないが、
通勤退勤時は目的地に直行することを約束し、厳正な取り扱いをすること。

６． 教職員用ノートパソコンについては、校内で使用し持ち帰ることの
無いようにすること。

７． 職員室に設置されているパソコン及び教職員用ノートパソコンの諸設定の
変更については管理責任者及び取り扱い責任者の許可を受けること。

※ 個人情報の適切な取扱い、管理・保管について、校内等での研修を通じ、
個人情報保護の重要性に対する教職員一人ひとりの意識を向上させる。

個人情報漏洩の防止について

H22.12.9　職員会議
H26.5.1 追記
H30.5.1 追記

市内小学校において、ＵＳＢメモリ（私物）を校内で紛失し、現在捜索・対応中との
学校全体に関わる事案が発生しました。メモリ内には、個人情報を含む様々な情報が
保存されていたとのことです。

つきましては、本校におきましても今一度、個人情報の重要性について
再認識するとともに管理方法等の再確認をお願いします。

【個人情報の管理について】・・・紙媒体含む全般

※「個人情報の管理運営に関する内規」にもとづき、運用。

＜ポイント＞

１．原則、個人情報を扱う業務は、<u>校内で処理</u>をする。

２．万一、持ち出す必要のある場合は、<u>教頭（校長）の許可</u>を得る。

３．許可を得た個人情報を持ち出す時の通勤時は、<u>直帰・直行</u>する。

４．前年度までの不要となった個人情報は、<u>確実に削除</u>する。

【ＵＳＢメモリの管理について】・・・電子媒体

１．WinBirdの校務用USBのみ使用できる。

２．サーバー保存を原則とするが、必要時にはあくまで<u>一時保存的</u>な位置づけとし、
使用する。

３．混在した情報は入れず、<u>入力情報を限定</u>する。

４．やむを得ず持ち出す必要のある場合は、<u>許可</u>を得る。（上記の通り）

３５．令和６年度職員一覧表

氏名	役職所属		教科	部活顧問
坂本　由美	校　長		−	−
川畑　知久	教　頭		−	−
小椋　かおり	首席　学年主任		国語	陸上
二川　大舗	教務主任		数学	女子ソフトテニス
益本　裕子	生徒指導主事		保体	剣道
土井　薫	支援教育コーディネーター		保体	男子バスケット
中村　誠司	進路指導主事			
平阪　知佳	保健主事		−	−
川野　仁	１学年	主任	社会	サッカー
堂前　仁志		１－１ 担任	数学	サッカー
竹﨑　愛		１－２ 担任	理科	男子バスケット
山下　沙羅		１－３ 担任	社会	女子卓球
石田　直輝		１－４ 担任	保体	男子バスケット
曽和　真由美		１－１ 副担	英語	男子卓球
森　瑞樹		１－２ 副担	数学	女子バスケット
小林　一樹		１－３ 副担	社会	男子卓球
大多　仁美		１－４ 副担	国	女子卓球
石黒　仁		フレックス 担任	理科	文化１（地・美）
長田　奈保		フレックス 担任	保体	女子バスケット
阪本　崇文		フレックス 担任	社会	女子ソフトテニス
中村　高士		主任　２－２ 副担	保体	女子バスケット
岡　良紀		２－１ 担任	数学	陸上
河村　里佐子		２－２ 担任	理科	吹奏楽
前川　修平		２－３ 担任	国語	男子卓球
江城　佑香		２－４ 担任	美術	文化１（地・美）
西村　幸子		２－１ 副担	英語	吹奏楽
松岡　由利枝		２－３ 副担	英語	女子卓球
石坂　敦		２－４ 副担	理科	男子バスケット
*二川　大舗		副担	数学	女子ソフトテニス
柏原　俊彦		フレックス 担任	国語	文化２（家・将）
石田　雅子		フレックス 担任	英語	女子バスケット
中山　宏		フレックス 担任	保体	剣道

氏名	役職所属		教科	部活顧問
*小椋　かおり	３学年	主任	国語	陸上
塚本　律子		３－１ 担任	音楽	吹奏楽
山本　貴美香		３－２ 担任	家庭	女子ソフトテニス
和田　精久		３－３ 担任	技術	男子硬式テニス
御園生　啓		３－４ 担任	社会	陸上
北川　朝陽		３－１ 副担	数学	サッカー
*中村　誠司		３－２ 副担	国	男子硬式テニス
浦川　節子		３－３ 副担	英語	文化２（家・将）
泉本　優希		３－４ 副担	保体	剣道
川中　正		副担	英語	剣道
川野　香織		フレックス 担任	英語	男子硬式テニス
*平阪　知佳	養護教諭		−	−
河口　好	養護助教諭		−	−
寳木　伸一	主査		−	−
安井　裕美乃	非常勤		英語	−
松田　忠廣	非常勤		数学	−
八丈　幸央	非常勤		社会	−
山下　雅子	非常勤		社会	−
樋口　絵里子	日本語指導員		−	−
ネルソン・フィリップ・アンドリュー	英語指導支援員		−	−
清田ちさと	学校管理員		−	−
木下　亜子	カウンセラー		−	−
荒川　みゆき	生徒支援員		−	−
堂上　雅美	発達支援員		−	−
太田　康雄	発達支援員		−	−
金子　益美	発達支援員		−	−
額田美那子	言語力向上司書職員		−	−
西　典子	短時間管理員		−	−
大濱　友代	短時間管理員		−	−